

Oracle® Financial Management Analytics

User's Guide

リリース 11.1.2.4.000

著作権情報

Oracle® Financial Management Analytics User's Guide, 11.1.2.4.000

Copyright © 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

著者: EPM 情報開発チーム

OracleおよびJavaはOracle Corporationおよびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

Intel, Intel Xeonは、Intel Corporationの商標または登録商標です。すべてのSPARCの商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc.の商標または登録商標です。AMD, Opteron, AMDロゴ、AMD Opteronロゴは、Advanced Micro Devices, Inc.の商標または登録商標です。UNIXは、The Open Groupの登録商標です。

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT END USERS:

Oracle programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, delivered to U.S. Government end users are "commercial computer software" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, shall be subject to license terms and license restrictions applicable to the programs. No other rights are granted to the U.S. Government.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション(人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む)への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する場合、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性(redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したこと起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

目次

ドキュメントのアクセシビリティについて	5
ドキュメントのフィードバック	6
第1章. スタート・ガイド	7
Oracle Financial Management Analyticsについて	7
Oracle BI EEダッシュボードについて	8
ダッシュボード	8
ダッシュボード・ページ	8
Oracle BI EEのコンポーネントについて	9
Oracle Financial Management Analyticsページの移動	9
Oracle BI EEグローバル・ヘッダー	11
ツールバー・オプション	11
一般プリファレンスの設定	11
「マイ・アカウント」ダイアログ・ボックス	12
Webブラウザを使用したOracle Financial Management AnalyticsのURLへのアクセス	12
Oracle Financial Management Analyticsへのログイン	12
Oracle BI EEの「ホーム」ページからOracle Financial Management Analyticsへの移動	13
Oracle Financial Management Analyticsからのログアウト	13
iPadでのBIモバイル・クライアントのインストール	13
iPadでのBI HDクライアントの最初の起動	14
BI HDクライアント内の移動	15
Oracle Financial Management Analyticsのヘルプへのアクセス	20
OFMAアラート通知の設定	20
Oracle Financial Management Analyticsの使用	21
グラフでのセクション・スライダの使用	21
レポートの印刷	21
レポートのエクスポート	22
レポートの上にカーソルを置く	22
第2章. ダッシュボード・ページおよびレポートについて	23
ダッシュボードおよびレポートの勘定科目情報のマッピング	23
第3章. Financial Managementダッシュボード	25
Financial Managementダッシュボード	25
Financial Managementの起動ページ	25
財務諸表の標準レポート・セットの使用	26
レポートと傾向の視点の設定	26
レポートおよび傾向	27
地域分析の視点の設定	29
地域分析	30
カスタム分析の視点の設定	31
カスタム分析	31
期別分析の視点の設定	32
期別分析	33

キー・パフォーマンス・インディケーター・ダッシュボード	34
キー・パフォーマンス・インディケーター・ウォッチリスト	35
キー・パフォーマンス・インディケーターの詳細	36
カスタム別KPIの視点の設定	41
カスタム別のキー・パフォーマンス・インディケーター	42
プロセス管理ダッシュボード	43
プロセス管理ダッシュボードの視点の設定	44
プロセス管理統計	44
プロセス管理傾向	46
プロセス管理メトリック	46
「プロセス管理メトリック」レポートでの平均日数および最大日数の計算	48
第4章. Financial Close Managementダッシュボード	51
Close Managerダッシュボード	51
Close Managerの起動ページ	51
ステータスの要約ダッシュボード・ページ	52
遅延状況およびマイルストーン・ダッシュボード・ページ	55
スケジュールの比較ダッシュボード・ページ	57
ユーザー・パフォーマンス・ダッシュボード・ページ	59
Account Reconciliation Managerダッシュボード	62
Account Reconciliation Managerの起動ページ	63
調整要約ダッシュボード・ページ	64
プロ・フォーマ試算表および調整分析ダッシュボード・ページ	69
ユーザー・パフォーマンス・ダッシュボード・ページ	73
第5章. Tax Provisionダッシュボード	77
Tax Provisionの起動ページ	77
Tax Provisionダッシュボードの視点の設定	78
有効税率ダッシュボード	79
地域別ETR (有効税率)	79
ETR - 実績vs計画	80
現金課税ETR	81
課税損失および評価引当金ダッシュボード	82
課税損失	82
評価引当金合計	84
キー・パフォーマンス・インディケーター	85
税KPI	85
税KPI傾向	86
第6章. EPMワークスペース内のOracle Financial Management Analyticsの統合	89
HFMからのOracle Financial Management Analyticsへのアクセス	89
付録A. 追加情報	91
関連ドキュメント	91
用語集	95

ドキュメントのアクセシビリティについて

Oracleのアクセシビリティについての詳細情報は、Oracle Accessibility ProgramのWeb サイト <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=docacc> を参照してください。

Access to Oracle Support

Oracleサポート・サービスでは、My Oracle Supportを通して電子支援サービスを提供しています。詳細情報は <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=info> か、聴覚に障害のあるお客様は <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=trs> を参照してください。

ドキュメントのフィードバック

このドキュメントへのフィードバックをお送りください: epmdoc_ww@oracle.com

次のソーシャル・メディア・サイトでEPM情報開発をフォローできます:

LinkedIn - http://www.linkedin.com/groups?gid=3127051&goback=.gmp_3127051

Twitter - <http://twitter.com/hyperionepminfo>

Facebook - <http://www.facebook.com/pages/Hyperion-EPM-Info/102682103112642>

Google+ - <https://plus.google.com/106915048672979407731/#106915048672979407731/posts>

YouTube - <http://www.youtube.com/user/OracleEPMWebcasts>

1

スタート・ガイド

この項の内容:

Oracle Financial Management Analyticsについて	7
Oracle BI EEダッシュボードについて	8
Oracle BI EEのコンポーネントについて	9
Oracle Financial Management Analyticsページの移動	9
Webブラウザを使用したOracle Financial Management AnalyticsのURLへのアクセス	12
OFMAアラート通知の設定	20
Oracle Financial Management Analyticsの使用	21

Oracle Financial Management Analyticsについて

ダッシュボードを介して、Oracle Financial Management Analyticsでは、経営幹部が組織の業績の一元化された財務面や財務以外の面にアクセスできます。

組込み済の分析機能により、既存のOracle Hyperion Financial Management、Oracle Hyperion Tax ProvisionおよびOracle Hyperion Financial Close Managementアプリケーションの集計データを使用して、キー・パフォーマンス・インディケータ、決算プロセスのステータス、およびその他のメトリックが表示されます。ダッシュボードを使用すると、様々な財務シナリオに応じて、アクセス可能な形式でデータを分析できます。

Oracle Financial Management Analyticsは、次の製品に基づいています:

- Financial Management
- Financial Close Management
 - Close Manager
 - Account Reconciliation Manager
- Tax Provision

次のダッシュボード・ページは、Financial Managementに基づいています:

- [25ページのFinancial Managementダッシュボード](#)
- [34ページのキー・パフォーマンス・インディケータ・ダッシュボード](#)
- [43ページのプロセス管理ダッシュボード](#)

[Close Managerダッシュボード\(51ページ\)](#)・ページおよび[Account Reconciliation Managerダッシュボード\(62ページ\)](#)・ページは、Financial Close Managementに基づいています。

Tax Provisionダッシュボード(77ページ)・ページは、Hyperion Tax Provisionアプリケーションに基づいており、これらのアプリケーションはFinancial Managementを使用して作成されています。

Oracle BI EEダッシュボードについて

ダッシュボード

ダッシュボードは、企業情報や外部情報のパーソナライズされたビューを提供します。ダッシュボードには、分析、Webサイトへのリンク、Oracle Financial Management Analyticsレポートなどのコンテンツを含む1つ以上のページがあります。ダッシュボードを使用すると、エンド・ユーザーが分析情報にアクセスできるようになります。

ダッシュボード・ページでは、次のいずれかのアクションを実行できます:

- レポートの表示
- レポートのドリル・ダウン
- レポート内での対話型操作

ダッシュボードでは、インターネット、共有ファイル・サーバー、ドキュメント・リポジトリなど、他のソースからコンテンツを集約することもできます。

ダッシュボード・ページ

ダッシュボードには、ダッシュボード・オブジェクト、Oracle BIプレゼンテーション・カタログに保存されているコンテンツ、およびプレゼンテーション・カタログ内のフォルダのビューを含めることができます。

ダッシュボード・ページには、Webブラウザでアクセスまたは開くことのできるものなら何でも表示できます。これらのページに含まれるダッシュボード・オブジェクトには次のものがあります:

- 結果分析 - Oracle BIサーバーから返された、分析条件に一致する出力です。表、チャート、ゲージなどの様々なビューに表示できます。結果は、確認して分析し、保存または印刷したり、スプレッドシートにダウンロードすることができます。
- エージェントからのアラート
- イメージ
- テキスト
- Oracle BIプレゼンテーション・カタログ内のフォルダのビュー
- Webサイトへのリンク
- ドキュメントへのリンク

適切な権限を持つユーザーは、ダッシュボード・エディタを使用して、選択ペインからダッシュボード・レイアウトページにドラッグすることで、コンテンツをダッシュボードに追加できます。ダッシュボードの背景色およびテキストのサイズはスタイルおよびスキンによって制御されますが、フォーマットのダイアログ・ボックスで変更できます。

ダッシュボードの作成が行えるのは管理権限を持つユーザーのみです。ダッシュボード(個人および共有)を変更する権限は、Oracle BI管理者が指定したとおりに、より幅広いユーザーに付与されます。

Oracle Financial Management Analytics管理者ガイドを参照してください

Oracle BI EEのコンポーネントについて

Oracle Business Intelligence Enterprise Editionは、対話型ダッシュボードやリアルタイムの予測インテリジェンスなど幅広いBI機能を提供するための最適な基盤となる、包括的なエンタープライズBIプラットフォーム・スイートです。

Oracle BI EEは、**BIサーバー**、**BI管理ツール**、**BIプレゼンテーション・サービス**などのコンポーネントで構成されています。次の項では、Oracle BI EEとその内部コンポーネントについて説明します：

• Oracle BIサーバー

Oracle BIサーバーは、拡張性が高く、きわめて効率的な問合せ、レポート作成および分析用のサーバーであり、Business Intelligence Suiteのその他のコンポーネント(アンサー、ダッシュボード、データ・マイニング、レポートング、分析アプリケーションなど)を使用できるようになります。

最も速く回答が得られるのはどの表かをサーバーが判断するので、ユーザーがビジネス上の適切な質問をすることに専念する際に役立ちます。Oracle BIサーバーが集計表へ移動するのに十分な情報を得られるよう、リポジトリ内の特定のメタデータを構成する必要があります。

• Oracle BI管理ツール

ビジネス・モデル、表、列およびサブジェクト・エリアの権限の設定；データへのアクセスを制限するフィルタの指定；認証オプションの設定などのタスクを実行できます。管理ツールには次の3つのレイヤーがあります：

○物理レイヤー

Oracle BIサーバーが問合せを送信する先のデータ・ソースの物理構造を表します。物理レイヤーは、管理ツールの右側のペインに表示されます。

○ビジネス・モデルおよびマッピング・レイヤー

リポジトリ内の情報の論理構造を表します。ビジネス・モデルには、論理表に配置された論理列、論理結合およびディメンショナル階層定義が含まれています。ビジネス・モデルおよびマッピング・レイヤーには、論理列から物理レイヤー内のソース・データへのマッピングも含まれています。これは、管理ツールの中央のペインに表示されます。

○プレゼンテーション・レイヤー

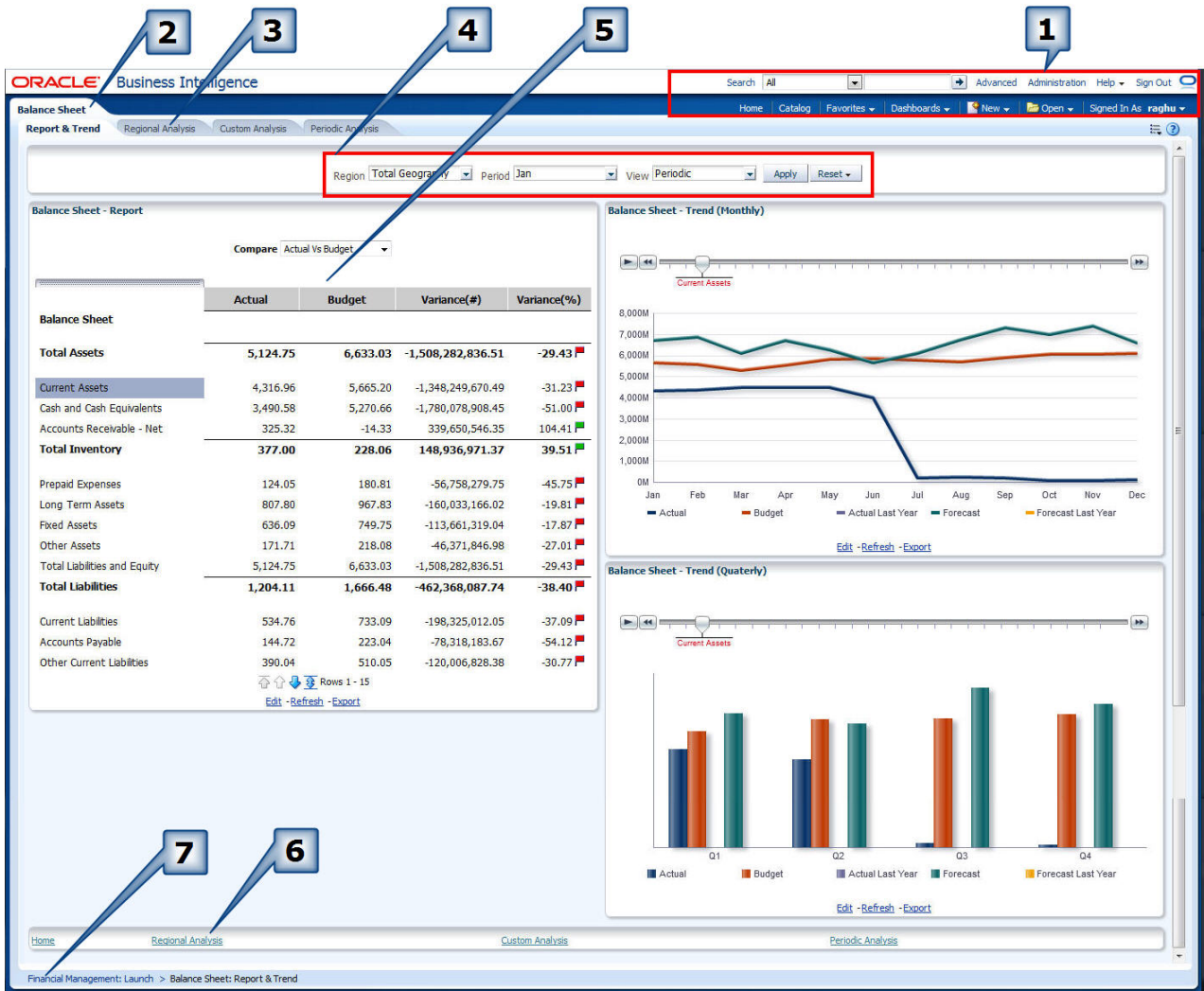
リポジトリのプレゼンテーション構造を表します。プレゼンテーション・レイヤーを使用すると、ビジネス・モデルおよびマッピング・レイヤーとは異なるビューを表現できます。これは、管理ツールの左側のペインに表示されます。

• Oracle BIプレゼンテーション・サービス

Oracle BIプレゼンテーション・サービス管理: プレゼンテーション・カタログ・オブジェクト(ダッシュボードやダッシュボード・ページなど)に対する権限の設定などのタスクを実行できます。

Oracle Financial Management Analyticsページの移動

Oracle Financial Management Analyticsのページは定型的なレイアウトで、ユーザーがダッシュボードを移動する際に便利で、ダッシュボード情報へのアクセスが容易になります。



次に、Oracle Financial Management Analyticsページの標準的なレイアウトについて説明します：

表1 Oracle Financial Management Analyticsページの標準的なレイアウト

	ページ・レイアウト	説明
1	Oracle BI EEグローバル・ヘッダー	組織のロゴ、検索オプション、詳細設定オプション、ユーザーID、ヘルプおよびリンクが含まれています。 タスクを素早く開始したり、Oracle BIプレゼンテーション・カタログのオブジェクトを検索する際に役立ちます。
2	プライマリ・タブ	「貸借対照表」を表示する際に使用します
3	ダッシュボード・ページのタブ	個々のダッシュボード・ページに移動する際に使用します。たとえば、上の画像を例にとった場合、「貸借対照表」ダッシュボード・タブの下には、次のダッシュボード・ページのタブが表示されます： <ul style="list-style-type: none"> 貸借対照表: レポートおよび傾向ダッシュボード・ページ 貸借対照表: 地域分析ダッシュボード・ページ 貸借対照表: カスタム分析ダッシュボード・ページ

	ページ・レイアウト	説明
		・ 貸借対照表: 期別分析ダッシュボード・ページ
4	視点セレクト	ダッシュボード・ページのシナリオ、年など、視点ディメンションを選択できます。
5	「コンテンツ領域」または「コンテンツ」セクション	セクション内には複数のレポートが配置されます。下にスクロールするか、上のセクションを最小化して、下のレポートを表示します。
6	ダッシュボード・ページのリンク	後続のダッシュボード・ページに移動します。
7	起動ページ	構成済の製品のランディング・ページを表示できます。

Oracle BI EEグローバル・ヘッダー

グローバル・ヘッダーには、タスクを素早く開始したり、Oracle BIプレゼンテーション・カタログのオブジェクトを検索できる、リンクおよびオプションが含まれています。


グローバル・ヘッダーを使用すると、「Oracle BI EEホーム」ページに戻らずに、新しいタスクへのアクセス、カタログの検索、製品ドキュメントへのアクセス、または別のオブジェクトの表示をより素早く行うことができます。



Oracle® Business Intelligence Enterprise Editionリリース11gのドキュメントを参照してください。

Oracle BI EEのドキュメントにアクセスする場合は、Oracle Business Intelligence Suite Enterprise Editionのドキュメント・ライブラリ(http://download.oracle.com/docs/cd/E10415_01/doc/nav/portal_booklist.htm)を参照してください。

ツールバー・オプション

ツールバーには、「ページ・オプション」ボタン  があります。表示されるオプションはユーザー権限によって異なります。

詳細は、Oracle(R) Business Intelligence Enterprise Editionリリース11gのドキュメントを参照してください。

Oracle BI EEのドキュメントにアクセスする場合は、Oracle Business Intelligence Suite Enterprise Editionのドキュメント・ライブラリ(http://download.oracle.com/docs/cd/E10415_01/doc/nav/portal_booklist.htm)を参照してください。

一般プリファレンスの設定

Oracle Financial Management Analyticsのプリファレンスは、マイ・アカウント・オプションを使用して設定できます。プリファレンス設定情報は、カタログ・フォルダに保存されます。プリファレンス設定オプションは、割り当てられている権限に基づいて実行できます。

詳細は、Oracle(R) Business Intelligence Enterprise Editionリリース11gのドキュメントを参照してください。

Oracle BI EEのドキュメントにアクセスする場合は、Oracle Business Intelligence Suite Enterprise Editionのドキュメント・ライブラリ(http://download.oracle.com/docs/cd/E10415_01/doc/nav/portal_booklist.htm)を参照してください。

「マイ・アカウント」ダイアログ・ボックス

ロケール、タイム・ゾーン、優先通貨、エージェントによるアラート配信のための配信オプションなど、個人のプリファレンスを指定します。表示されるオプションはユーザー権限によって異なります。

詳細は、Oracle(R) Business Intelligence Enterprise Editionリリース11gのドキュメントを参照してください。

Oracle BI EEのドキュメントにアクセスする場合は、Oracle Business Intelligence Suite Enterprise Editionのドキュメント・ライブラリ(http://download.oracle.com/docs/cd/E10415_01/doc/nav/portal_booklist.htm)を参照してください。

Webブラウザを使用したOracle Financial Management AnalyticsのURLへのアクセス

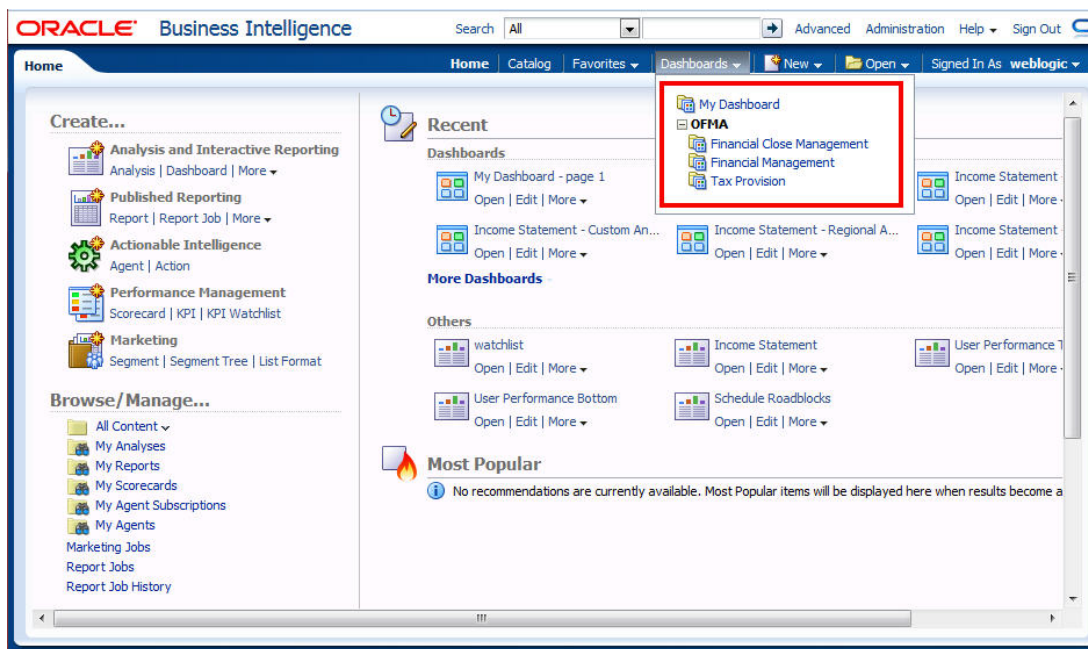
次の手順では、Oracle Financial Management Analyticsへのアクセス方法を説明します。

Oracle Financial Management Analyticsへのログイン

▶ Oracle Financial Management Analyticsにログインするには:

1. ブラウザで、`http://ServerName:Port/analytics`のようなURL詳細を入力します。例: `http://myserver:7001/analytics`
 - `ServerName`は、Oracle BI EEサーバーをホストするコンピュータの名前です。
 - 「ポート」は、Oracle BI EEサーバーのポート番号です。
 - `analytics`は、Oracle BI EEサーバー用に設定したディレクトリです。
2. Oracle Business Intelligenceの「ログオン」画面で、「ユーザーID」および「パスワード」を入力します。
3. 言語を選択します; デフォルトは英語です。
4. 「サイン・イン」をクリックします。

Oracle BI EEの「ホーム」ページが表示されます。



Oracle BI EEの「ホーム」ページからOracle Financial Management Analyticsへの移動

Oracle BI EEアプリケーションにサイン・インすると、Oracle BI EEの「ホーム」ページが表示されます。

- ▶ Oracle Financial Management Analyticsを探すには:
 1. **Oracle BI EE**グローバル・ヘッダーで、「ダッシュボード」リンクを選択します。
 2. 「**OFMA**」メニュー・リストを選択します。
 3. 「**OFMA**」リストから、次のいずれかを選択します:
 - Financial Close Management
 - Financial Management
 - Tax Provision

Oracle Financial Management Analyticsからのログアウト

Oracle Financial Management Analyticsからログアウトするには、Oracle BI EEで「サイン・アウト」をクリックします。

iPadでのBIモバイル・クライアントのインストール

- ▶ Oracle BI Mobileをダウンロードおよびインストールするには:
 1. iPad上のApp StoreでOracle Business Intelligence Mobile HDを探します。

2. 「Oracle BI HD」アプリケーションを選択し、「インストール」をタップします。



注:

AppleのApp Storeで、Oracle BI Mobile for iPadは「Oracle BI HD」と呼ばれます。



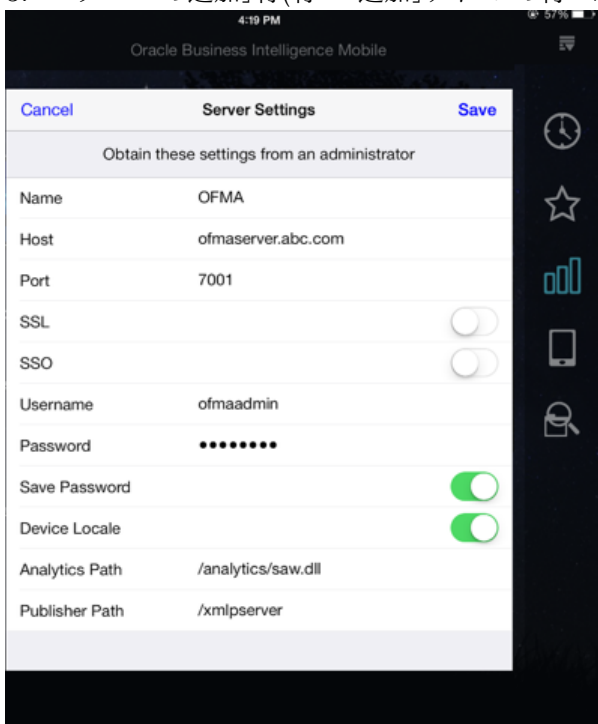
注:

詳細は、[Oracle Fusion Middleware Oracle Business Intelligence Mobileユーザー・ガイド11gリリース](#)を参照してください

iPadでのBI HDクライアントの最初の起動

「ホーム」画面のアイコンをタップして、Oracle Business Intelligence Mobileアプリケーションを開きます。Oracle BI Mobileアプリケーションを初めて使用すると、ライセンス画面が表示され、その後、サーバー構成を追加する初期サーバー設定画面を提供するログイン・ページが表示されます。

- ▶ BI MobileまたはiPadで初めてOracle Financial Management Analyticsアプリケーションを起動するには:
1. デバイスの「ホーム」画面で、Oracle BI Mobileアプリケーション・アイコンをタップします。
 2. スクロールしてライセンス契約を読み、条項に同意する場合、「承認」をタップします。
 3. 「サーバーの追加」行(青い「追加」アイコンの付いた)をタップして、初期サーバー構成設定を入力します。



4. 「サーバー設定」画面で、次を指定します:

- 名前: サーバー接続に名前を指定します。設定した後に、この名前を変更することはできません。

- **ホスト:** 接続先のサーバーの名前を入力します。IPアドレス(例: 192.168.1.1)またはOracle BIプレゼンテーション・サービスが実行中のコンピュータの完全修飾ホスト名(例: host1.example.com)のいずれかを入力します。



注:

サーバーにリダイレクトする代理のURL (tinyurl.com/1234など)は入力しないでください。

- **ポート:** ポート番号を入力します。例: 7001。
 - **SSL:** トグルをタップして、「オン」または「オフ」を選択します。セキュア・ソケット・レイヤー(SSL)プロトコルは、システム管理者が、Oracle Business Intelligenceプレゼンテーション・サービス・サーバーのエントリ・ポイントに構成します。SSLが接続先のサーバー上に構成されている場合、この設定を「オン」に切り替えます。システム管理者は、Oracle Business Intelligenceプレゼンテーション・サービス・サーバー上にSSLを構成するようにアドバイスされます。
 - **SSO:** トグルをタップして、「オン」または「オフ」を選択します。シングル・サインオン(SSO)は、システム管理者が、Oracle Business Intelligenceプレゼンテーション・サービス・サーバーのエントリ・ポイントに構成します。SSOが接続先のサーバー上に構成されている場合、この設定を「オン」に切り替えます。
 - **ユーザー名:** Oracle BI EEに接続しているユーザー名を入力します。
 - **パスワード:** Oracle BI EEに接続しているパスワードを指定します。
 - **パスワードの保存:** トグルをタップして、「オン」または「オフ」を選択します。「オン」に設定した場合、「パスワード」フィールドに入力したパスワードは、サーバーの構成の一部として保存されます。「オフ」に設定した場合、アプリケーションを起動するたびにパスワードの入力を求められます。デフォルト設定は「オン」です。
 - **デバイスのロケール:** トグルをタップして、「オン」または「オフ」を選択します。「オン」に設定した場合、アプリケーションでは、デバイスのユーザー・インターフェースの言語および地域のフォーマットの設定が使用されます。「オフ」に設定した場合、言語および地域のフォーマットは、Oracle BIプレゼンテーション・サービスのユーザー・プリファレンスに基づいています。このトグルはBIコンテンツのみに影響します。「オフ」に設定すると、アプリケーション・シエルのユーザー・インターフェースへの影響はありません。
 - **Analyticsのパス:** 例: /analytics/saw.dll。
 - **Publisherのパス:** 例: /xmlpsrver。この設定は必須です。ただし、BI Publisherコンテンツにアクセスしている場合にのみ使用されます。
5. 「保存」をタップします。
 6. 「ログイン」をタップします。



注:

詳細は、[Oracle Fusion Middleware Oracle Business Intelligence Mobileユーザー・ガイド11gリリース](#)を参照してください

BI HDクライアント内の移動

左ペインのナビゲーション・バーを使用して、Oracle BI Mobileアプリケーション内を移動できます。表示するアイコンをタップします。「設定」ビューで、Oracle BI Mobileのインスタンスを開始するビューを選択できます。

ナビゲーション・バーを使用すると、Oracle BI Mobileアプリケーション内の様々なビュー(「最新」、「お気に入り」、「ダッシュボード」、「ローカル」(ローカルに保存されたコンテンツ用)、および「検索」)に移動できます。

Oracle Financial Management Analyticsアプリケーションを以前に起動した場合、最近表示された項目が「最新」ビューに表示されます。



注:

詳細は、[Oracle Fusion Middleware Oracle Business Intelligence Mobileユーザー・ガイド11gリリース](#)を参照してください

「ダッシュボード」ビューに項目が表示されます。



注:

デバイスの「ホーム」ボタンを使用すると、Oracle BI Mobileの外に移動し、Oracle BI Mobile アイコンがある「ホーム」画面に戻ります。

ipadデバイスに、Financial Managementの起動ダッシュボードが表示されます。



ipadデバイスに、Tax Provisionの起動ダッシュボードが表示されます。



ipadデバイスに、Close Managerの起動ダッシュボードが表示されます。



ipadデバイスに、Account Reconciliation Managerの起動ダッシュボードが表示されます。



Oracle Financial Management Analyticsのヘルプへのアクセス

このリリースのOracle Financial Management Analyticsでは、次の場所からOracle Financial Management AnalyticsユーザーガイドおよびOracle Financial Management Analytics管理者ガイドのヘルプにアクセスできます:

- Windows: 「スタート」メニューから
- 起動ページから
- Enterprise Performance Management Systemリリース11.1.2.4.000のドキュメント・ライブラリから



注:

Oracle BI EEグローバル・ヘッダーの「ヘルプ」メニューには、Oracle BI EEのヘルプおよびドキュメントのみが表示されます。

どのアクセス・ポイントからも、Oracle Technical Network (OTN)のEPM Systemリリース11.1.2.4.+のドキュメント・ライブラリに移動します

次のドキュメントは、PDF、HTML、MOBI (Kindle)およびEPUB (iPad、iPhoneおよびiPodデバイス用)の形式で提供されています:

- Oracle Financial Management Analytics管理者ガイド
- Oracle Financial Management Analyticsユーザーガイド



注:

Oracle BI EEのドキュメントにアクセスする場合は、Oracle Business Intelligence Suite Enterprise Editionのドキュメント・ライブラリ(http://download.oracle.com/docs/cd/E10415_01/doc/nav/portal_booklist.htm)を参照してください。

▶ 「スタート」メニューを使用してEPM Systemリリース11.1.2.4.000のドキュメントからドキュメントにアクセスするには:

1. Windows: 「スタート」、「すべてのプログラム」、「Oracle Financial Management Analytics」、「Help」の順に選択します。
2. 左側のペインで、「Financial PM Applications」タブを選択します。
3. 右側のペインで、「Oracle Financial Management Analytics」までスクロールします。
4. 表示するドキュメントの隣で、フォーマットを選択します。

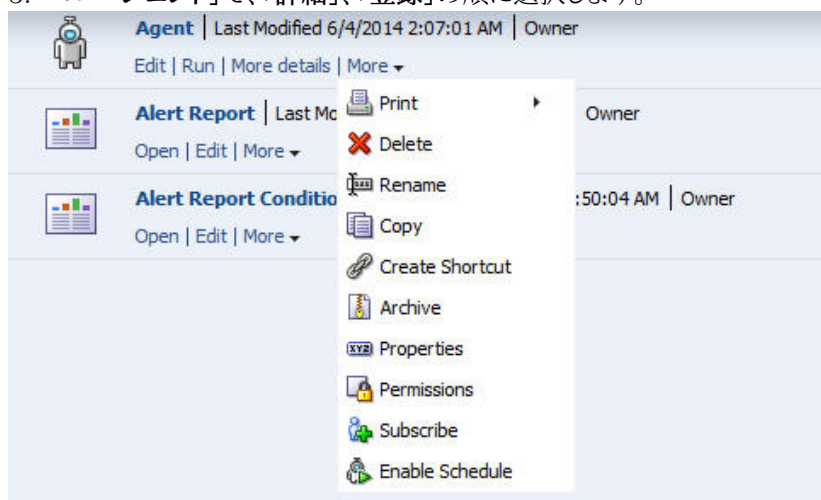
- PDF
- HTML
- MOBI (Kindleでの表示用)
- EPUB (iPad、iPhoneおよびiPodデバイス用)

OFMAアラート通知の設定

アラートの登録先のエージェントを選択できます。

▶ アラートに登録するには、次の手順に従います。

1. グローバル・ヘッダーで、「カタログ」をクリックし、「共有フォルダ」を選択して、Reportsフォルダに移動します。
2. Reportsフォルダで、HFMフォルダを選択してから、Alertsフォルダを選択します。
3. 「エージェント」で、「詳細」、「登録」の順に選択します。



▶ アラートにアクセスして管理するには:

1. グローバル・ヘッダーで、「アラート」をクリックします。
2. アラートを表示および管理します。

Oracle Financial Management Analyticsの使用

次の操作を実行してダッシュボードの情報にアクセスします:

- [21ページのグラフでのセクション・スライダの使用](#)
- [21ページのレポートの印刷](#)
- [22ページのレポートのエクスポート](#)
- [22ページのレポートの上にカーソルを置く](#)

グラフでのセクション・スライダの使用

セクション・スライダをある勘定科目から別の勘定科目に動かすと、レポートに勘定科目のデータが表示されます。

- **スライダ・バー** - 属性または階層列のメンバーが値として表示されます。
- **スライダ・サム** - セクション・スライダの現在の値を示します。必要な値までサムをドラッグできます。
- **減少** - 現在の値より左の値にスライダ・サムを動かします。
- **増加** - 現在の値より右の値にスライダ・サムを動かします。
- **再生** - スライダの値全体にわたり、サムを動かします。

レポートの印刷

Oracle BIには、レポートを印刷するためのオプションが用意されています。

▶ レポートを印刷するには:

1. ダッシュボード・ページから、印刷するレポートに移動します。
2. レポート下部の「印刷」をクリックし、オプションを選択します:
 - 印刷可能PDF
 - 印刷可能HTML

レポートのエクспорт

Oracle BIには、PDF、XML、XLSなどの様々な形式にレポートをエクспортするためのオプションが用意されています。

▶ レポートをエクспортするには:

1. ダッシュボード・ページから、エクспортするレポートに移動します。
2. レポート下部の「エクспорт」をクリックし、フォーマットを選択します:
 - PDF
 - Excel 2003以降
 - PowerPoint 2003以降
 - Webアーカイブ(.mht)
 - CSV
 - XML



注:

Excelへのエクспорт時に、エクспортされた傾向グラフに、選択した勘定科目とは異なる勘定科目が表示される場合は、システムに存在するMicrosoft Excelのバージョンに基づいて、選択されたExcelのバージョンを確認する必要があります。

レポートの上にカーソルを置く

Oracle BIのグラフィカル・レポートの上にカーソルを置いて、データ値を表示します。

2

ダッシュボード・ページ およびレポートについて

この項の内容:

[ダッシュボードおよびレポートの勘定科目情報のマッピング](#) 23

各ダッシュボード・ページには複数のレポートが含まれており、各レポートは財務データの様々なビューに関連するものです。

Oracle Financial Management Analyticsは、次の製品に基づいています:

- Financial Management
- Financial Close Management
- Tax Provision

次のダッシュボード・ページは、Financial Managementに基づいています:

- [25ページのFinancial Managementダッシュボード](#)
- [34ページのキー・パフォーマンス・インディケータ・ダッシュボード](#)
- [43ページのプロセス管理ダッシュボード](#)

[Close Managerダッシュボード\(51ページ\)](#)・ページおよび[Account Reconciliation Managerダッシュボード\(62ページ\)](#)・ページは、Financial Close Managementに基づいています。

[Tax Provisionダッシュボード\(77ページ\)](#)・ページは、Hyperion Tax Provisionアプリケーションに基づいており、これらのアプリケーションはFinancial Managementを使用して作成されています。

ダッシュボードおよびレポートの勘定科目情報のマッピング

Financial Managementダッシュボードは勘定科目グループにマップされており、勘定科目の選択は構成時に行います。表示されるOracle Financial Management Analyticsダッシュボードは、各レポートにマップされているFinancial ManagementおよびTax Provisionの勘定科目に基づいています。

Oracle Financial Management Analytics管理者ガイドを参照してください。



注:

メタデータは、Financial Management、Tax ProvisionおよびFinancial Close Managementの各アプリケーションから取得されます。

3

Financial Management ダッシュボード

この項の内容:

Financial Managementダッシュボード	25
Financial Managementの起動ページ	25
財務諸表の標準レポート・セットの使用	26
キー・パフォーマンス・インディケータ・ダッシュボード	34
プロセス管理ダッシュボード	43

Financial Managementダッシュボード

このダッシュボードでは、貸借対照表、収益、キャッシュ・フローなど、財務諸表を表示できます。他のダッシュボード(キー・パフォーマンス・インディケータおよびプロセス管理など)も表示されます。各財務諸表ダッシュボードにはレポートが含まれており、これらは会社の状態に関する分析情報を提供できるようにグループ化されています。

開示範囲を超えて、これらの財務諸表は、株主に対する経営側の年次報告書でも使用されます。財務諸表の情報によって、適格な決定を行う能力が向上します。

キー・パフォーマンス・インディケータ・ダッシュボードは、戦略的な目標に関連する会社の業績を示します。

プロセス管理ダッシュボードは、ユーザーがワークフローを分析し、プロセスを完了するために必要なステップを認識するのに役立ちます。

レポート要素は、構成ユーティリティで選択およびフォーマットします。*Oracle Financial Management Analytics* 管理者ガイドを参照してください。

Financial Managementの起動ページ

Financial Managementの起動ページには、ダッシュボード・アイコンが含まれています。各ダッシュボード・ページを表示するには、ダッシュボード・アイコンをクリックします。



The image displays the Oracle Financial Management Analytics interface. On the left, there is a large image of a red Oracle plane flying over the ocean. Below the image, the Oracle logo and the text "FINANCIAL MANAGEMENT ANALYTICS" are visible. On the right, there is a sidebar with several navigation options, each with an icon and a brief description:

- Key Performance Indicators**: Analyze the key elements of company's strategy and goal.
- Income Statement**: Measure company's financial performance during the current accounting period.
- Balance Sheet**: Analyze the Assets, Liabilities, and Ownership Equity accounts with periodic trends.
- Cashflow**: Analyze the status of cash inflows and outflows for the current year.
- Process Management**: Analyze the process control data for financial close cycle.
- Help**: Access the User Guide.

Financial Managementの起動ページから、次の財務諸表を起動します:

- 貸借対照表ダッシュボード
- 損益計算書ダッシュボード
- キャッシュ・フロー・ダッシュボード

Financial Managementの起動ページから、次のダッシュボード・ページを起動します:

- キー・パフォーマンス・インディケーター・ダッシュボード
- プロセス管理ダッシュボード

財務諸表の標準レポート・セットの使用

貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フローなどの標準レポートは、多くの場合、財務諸表に表示されます。

レポートと傾向の視点の設定

視点(POV)セレクタから、レポートを表示する必要なPOVメンバーを選択します。



The screenshot shows a POV selector interface with the following fields and buttons:

- Region: Total Geography
- Period: Jan
- View Name: Periodic
- Buttons: Apply, Reset

▶ 視点を設定するには:

1. リストから必要な地域、期間およびビューのPOVディメンション・メンバーを選択し、「適用」をクリックして、ダッシュボードの変更を表示します。



注:

「期間」ドロップダウンには、基本期間のみが表示されます。

2. オプション: 次のいずれかのアクションを実行するには、「リセット」をクリックします:

- 最後に適用した値にリセット
- デフォルト値にリセット
- すべてクリア

レポートおよび傾向

このダッシュボード・ページでは、構成ユーティリティでのデフォルト年の選択に関連付けられている現在の年の財務諸表レポートを表示できます。対応する傾向レポートを表示できます。

このレポートによって、地域にわたって選択されている会計期間における企業の財務状態を理解できます。

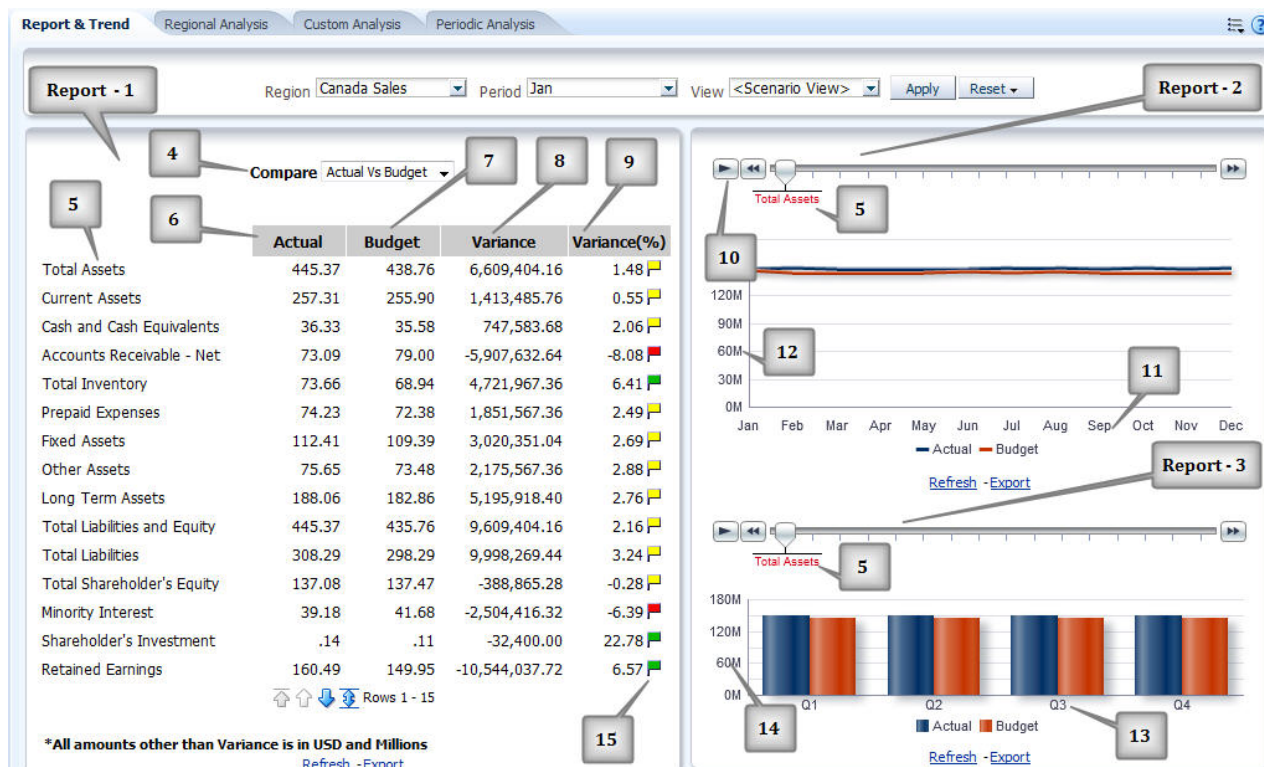


表2 Report and Trendページの一般的なレイアウト

	ページ・レイアウト	説明
1	レポート1	表形式での財務諸表レポート
2	レポート2	現在の年の月の期間の財務諸表レポート(傾向)。
3	レポート3	現在の年の四半期の財務諸表レポート(傾向)。

	ページ・レイアウト	説明
4	比較(レポート・プロンプト)	<p>構成ユーティリティで構成された様々なシナリオを表示します。レポート・プロンプトから、必要な「比較」オプションを選択します。例: 比較レポート・プロンプトから「実績vs予算」を選択する場合:</p> <ul style="list-style-type: none"> 最初の列に、Financial Managementの勘定科目の実績値が表示されます。 2番目の列に、Financial Managementの勘定科目の予算値が表示されます。
5	勘定科目	<p>このレポートにマップされているFinancial Management勘定科目が表示されます。勘定科目は構成ユーティリティから選択できます。</p> <p>レポート2とレポート3の両方が、レポート1で行われた勘定科目の選択内容に影響されます。</p>
6	列見出し: 比較元シナリオ	<p>「比較」の選択に基づいて、最初の列見出しが対応して変更されます。</p> <p>この列に表示される値は、構成ユーティリティで構成されたスケール・パラメータに基づいてスケールされます。</p>
7	列見出し: 比較先シナリオ	<p>「比較」の選択に基づいて、2番目の列見出しが対応して変更されます。</p> <p>この列に表示される値は、構成ユーティリティで構成されたスケール・パラメータに基づいてスケールされます。</p>
8	差異(#)	<p>「実績」列と「予算」列の差異の計算結果が表示されます。</p> <p>注: 数値は、記号(#)を使用して表されます。</p> <p>注: 「差異(#)」列に表示される値は正確な値で、これらの値はスケールされません。 差異(#)を計算する式: (実績 - 予算)</p>
9	差異(%)	<p>実績と予算の間の差異(%)の値が表示されます。</p> <p>注: パーセンテージは、パーセント記号(%)を使用して表されます。</p> <p>注: 「差異(%)」列に表示される値は正確な値で、これらの値はスケールされません。</p> <p>注: 差異(%)を計算する式: $[(\text{実績} - \text{予算}) / \text{実績}] * 100$</p>
10	デスクトップ・ユーザー用のセクション・スライダ・メニュー	<p>長方形のバーに沿ってセクション・スライダをある勘定科目から別の勘定科目に動かすと、レポートに別の勘定科目のデータが表示されます。長方</p>

	ページ・レイアウト	説明
		形のバーに沿って、勘定科目リストの各勘定科目メンバーが表示されます。 詳細は、 21ページのグラフでのセクション・スライダの使用 を参照してください
10	iPadユーザー用の勘定科目ドロップダウン・メニュー	レポート1での勘定科目の選択に基づいて、iPadユーザー用のドロップダウンの勘定科目メンバーが自動的に移入されます。
11	期間	現在の年のすべての月の期間を表示します。期間はx軸に表示されます。 例: 1月から12月。 注: HFMアプリケーションに基づいて期間が表示されます。
12	財務値	Financial Managementのデータ値は、y軸に表示されます。
13	期間	現在の年のすべての四半期を表示します。期間はx軸に表示されます。
14	財務値	Financial Managementのデータ値は、y軸に表示されます。
15	しきい値	フラグの色は、比較プロンプトの2つのシナリオ間の差異パーセンテージ計算に基づきます。カラー・コードは、差異の計算に基づいて、差異パーセンテージ範囲を表します。しきい値は、構成ユーティリティから構成されます。特定の差異範囲の色フラグ・インディケータを定義できます。様々な差異範囲について、および差異パーセンテージ計算に基づいてフラグの特定の色を定義する方法について理解するために、次の例を考えてみます。 <ul style="list-style-type: none"> ■ 緑のフラグは、差異パーセンテージ値が+5より大きいことを示します。 ■ 黄色のフラグは、差異パーセンテージ値が+5から-5の間であることを示します。 ■ 赤のフラグは、差異パーセンテージ値が-5より小さいことを示します。

地域分析の視点の設定

視点(POV)セレクトから、レポートを表示するPOVメンバーを選択します。

▶ 視点を設定するには:

- リストから、必要な「比較」、「勘定科目」、「期間」および「表示」POVディメンション・メンバーを選択し、「適用」をクリックして、ダッシュボードに変更を表示します。
- オプション: 次のいずれかのアクションを実行するには、「リセット」をクリックします:
 - 最後に適用した値にリセット
 - デフォルト値にリセット

- すべてクリア

地域分析

このダッシュボード・ページでは、地域で財務諸表データを分析でき、地域における勘定科目の財務値の迅速な評価に役立ちます。ダッシュボードのPOVに表示される勘定科目ディメンションは、構成ユーティリティで行われた「勘定科目リスト」の選択に基づきます。表示される地域は、構成ユーティリティで行われた「エンティティ・リスト」の選択に基づきます。

このレポートは、データをタイル表示で示しており、色で地域を比較する際に役立ちます。

各タイルは特定地域の次の情報を示します:

- 値 - 比較プロンプトの最初のシナリオに基づきます。例: APAC地域の値は2 Mで、これは実際の数値です。
- 色 - 比較プロンプトの2つのシナリオ間の差異パーセンテージ計算に基づきます。



表3 地域分析ページの一般的なレイアウト

	ページ・レイアウト	説明
1	地域	構成ユーティリティで行われた「エンティティ・リスト」の選択に基づきます。

	ページ・レイアウト	説明
		<p>注:</p> <p>最大28の地域を表示できます。「エンティティのディメンション」リストに28を超える地域がある場合、優先順位に基づいて地域リストをソートして、28の最も重要な地域を表示します。</p>
2	財務値	<p>比較プロンプトの最初のシナリオに基づきます。</p> <p>例: EMEAエンティティでは、比較プロンプトの最初のシナリオに基づいて財務値1,112 Mが表示されます。値1,112 MはEMEAの実際の数値です。</p> <p>表示される値は、構成ユーティリティで構成されたスケール・パラメータに基づいてスケールされます。</p>
3	しきい値	<p>タイルの色は、比較プロンプトの2つのシナリオ間の差異パーセンテージ計算に基づきます。カラー・コードは、差異の計算に基づいて、差異パーセンテージ範囲を表します。しきい値は、構成ユーティリティで構成されます。特定の差異範囲のカラー・コードを定義できます。例:</p> <ul style="list-style-type: none"> • 緑は、差異パーセンテージ値が+5より大きいことを示します。 • 黄色は、差異パーセンテージ値が+5から-5の間であることを示します。 • 赤は、差異パーセンテージ値が-5より小さいことを示します。

カスタム分析の視点の設定

カスタム分析ダッシュボード・ページのリストから、POVメンバーを選択します。視点(POV)セレクトから、レポートを表示するPOVメンバーを選択します。

▶ 視点を設定するには:

1. リストで、「分析手段」、「比較」、「勘定科目」、「期間」および「表示」POVディメンション・メンバーを選択します。
2. 「適用」をクリックすると、ダッシュボードに変更が表示されます。
3. オプション: 次のいずれかのアクションを実行するには、「リセット」をクリックします:
 - 最後に適用した値にリセット
 - デフォルト値にリセット
 - すべてクリア

カスタム分析

このダッシュボード・ページでは、様々な地域におけるカスタム・ディメンションの財務データを分析します。このレポートにより、カスタム・ディメンションおよび特定の地域の財務値を簡単に評価できます。ダッシュボードのPOVに表示されるカスタム・ディメンションは、構成ユーティリティで行われたカスタム・ディメンション・リストの選択に基づきます。列見出しに表示される地域は、構成ユーティリティで行われた「エンティティ・リスト」の選択に基づきます。

このレポートは、地域のカスタム・ディメンション・データをヒート・マップ・ビュー形式で表示します。

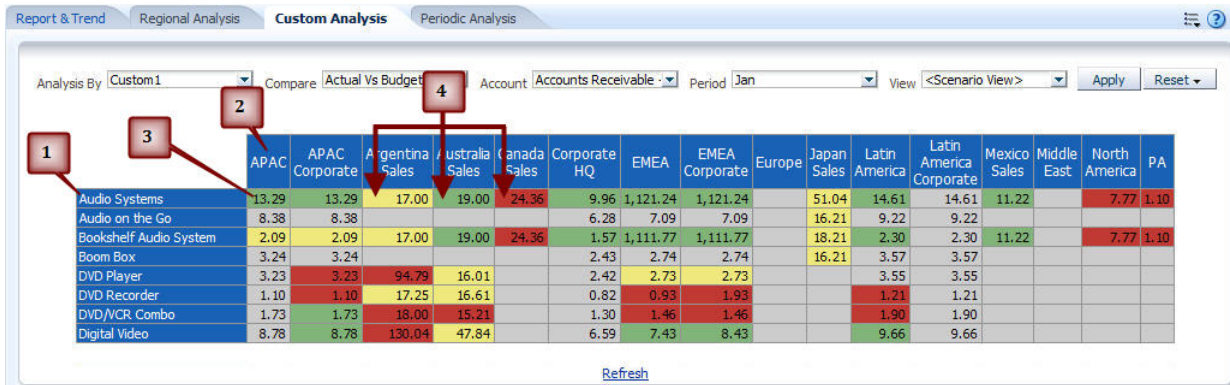
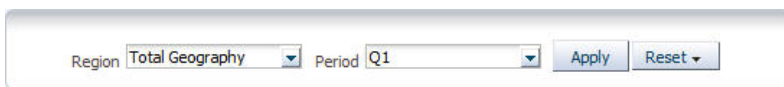


表4 カスタム分析ページの一般的なレイアウト

	ページ・レイアウト	説明
1	行見出し: カスタム・ディメンション	構成ユーティリティで行われた「カスタム」の選択に基づきます。
2	列見出し: 地域	構成ユーティリティで行われた「エンティティ・リスト」の選択に基づきます。
3	財務値	比較プロンプトの最初のシナリオに基づきます。 例: EMEAエンティティでは、比較プロンプトの最初のシナリオに基づいて財務値1,121が表示されます。値1,121はEMEAの実際の数値です。
4	しきい値	各セルの色は、比較プロンプトの2つのシナリオ間の差異パーセンテージ計算に基づきます。カラー・コードは、差異の計算に基づいて、差異パーセンテージ範囲を表します。しきい値は、構成ユーティリティから構成されます。特定の差異範囲のカラー・コードを定義できます。例: <ul style="list-style-type: none"> 緑は、差異パーセンテージが+5より大きいことを示します。 黄色は、差異パーセンテージ値が+5と-5の間であることを示します。 赤は、差異パーセンテージ値が-5より小さいことを示します。

期別分析の視点の設定

期別分析ダッシュボード・ページのリストから、POVメンバーを選択します。視点(POV)セレクタから、レポートを表示するPOVメンバーを選択します。



▶ 視点を設定するには:

1. 「地域」を選択し、「期間」POVディメンション・メンバーを選択します。
2. 「適用」をクリックすると、ダッシュボードに変更が表示されます。
3. オプション: 次のいずれかのアクションを実行するには、「リセット」をクリックします:

- 最後に適用した値にリセット

- ・ デフォルト値にリセット
- ・ すべてクリア

期別分析

このダッシュボード・ページでは、期間ディメンションおよび特定の地域の財務データを分析できます。このレポートでは、特定の地域の財務データを評価し、現在の年のデータと前年のデータの財務値を比較できます(Q1 2013とQ1 2012の比較など)。同様に、このレポートでは、現在の四半期の値と前年の四半期の値の間の財務値を比較できます(Q1 2013とQ1 2012の比較など)。「期間」ドロップダウン・リストには四半期が含まれ、ダッシュボードのPOVから「期間」ディメンションを変更すると、レポートに影響を与えます。ダッシュボードのPOVに表示される四半期期間は、構成ユーティリティでのデフォルト年の選択に関連付けられています。表示される財務値は、構成ユーティリティでの実績シナリオの選択に関連付けられています。

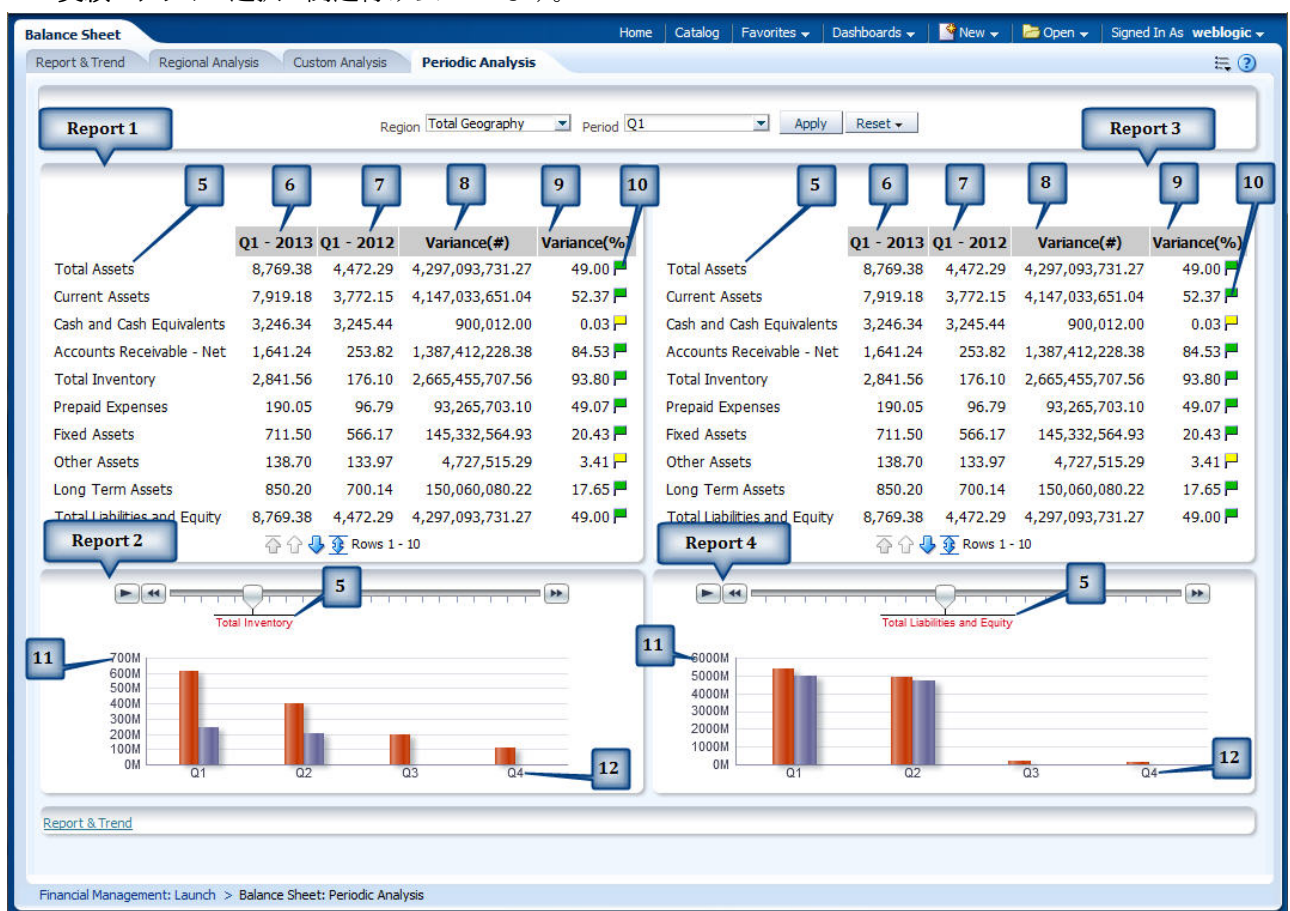





表5 期別分析ページの一般的なレイアウト

	ページ・レイアウト	説明
1	レポート1	四半期累計(QTD): 表形式での財務諸表レポート。
2	レポート2	四半期累計(QTD): 現在の年の四半期の財務諸表レポート(傾向)。
3	レポート3	年次累計(YTD): 表形式での財務諸表レポート。
4	レポート4	年次累計(YTD): 現在の年のすべての四半期の財務諸表レポート(傾向)。

	ページ・レイアウト	説明
5	勘定科目	このレポートにマップされているFinancial Management勘定科目が表示されます。構成ユーティリティで勘定科目を選択します。 レポート2は、レポート1で行われた勘定科目の選択内容に影響されます。 レポート4は、レポート3で行われた勘定科目の選択内容に影響されます。
6	列見出し: 期間と年	構成ユーティリティでのデフォルト年の選択およびダッシュボードのPOVの期間ディメンションに基づいて、最初の列見出しが対応して変更されます。 この列の値は、構成ユーティリティで構成されたスケール・パラメータに基づいてスケールされます。
7	列見出し: 期間と前年	構成ユーティリティでのデフォルト年の選択およびダッシュボードのPOVの期間ディメンションに基づいて、最初の列見出しが対応して変更されます。例: デフォルト年が 2013 でダッシュボードのPOVの期間ディメンションが Q1 の場合、列見出しは Q1 2012前年 です。 表示される値は、構成ユーティリティで構成されたスケール・パラメータに基づいてスケールされます。
8	差異(#)	Q1 2013 列と Q1 2012 列の差異の計算結果が表示されます。
9	差異(%)	Q1 2013 と Q1 2012 の間の差異(%)の値が表示されます。 注: %はパーセンテージを示します。
10	しきい値	フラグの色は、比較プロンプトの2つのシナリオ間の差異パーセンテージ計算に基づきます。カラー・コードは、差異の計算に基づいて、差異パーセンテージ範囲を表します。しきい値は、構成ユーティリティから構成されます。特定の差異範囲の色フラグ・インディケータを定義できます。例: <ul style="list-style-type: none"> •  緑のフラグは、差異値が+5より大きいことを示します。 •  黄色のフラグは、差異パーセンテージ値が+5から-5の間であることを示します。 •  赤のフラグは、差異パーセンテージ値が-5より小さいことを示します。
11	財務値	Financial Managementのデータ値は、y軸に表示されます。
12	期間	現在の年のすべての四半期をX軸に表示します。

キー・パフォーマンス・インディケータ・ダッシュボード

キー・パフォーマンス・インディケータ(KPI)ダッシュボードでは、戦略的な目標に関連する会社の業績を測定できます。ダッシュボードでは、財務データを表示し、対応を取ることができます。このダッシュボードのレポートにより、KPIのステータスを確認し、現在の年の勘定科目の詳細をモニターできます。

キー・パフォーマンス・インディケーター・ウォッチリスト

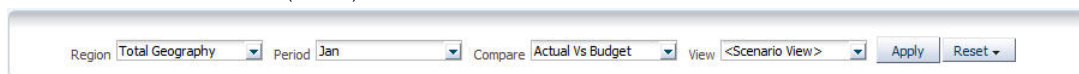
KPIウォッチリスト・ダッシュボードを使用すると、企業が定義したしきい値に対する実績値のインディケーターを比較できます。

ダッシュボード・ページのこのセクションには、次の2つのレポートが表示されます:

- KPI監視リスト
- KPI傾向

キー・パフォーマンス・インディケーター・ウォッチリストの視点の設定

キー・パフォーマンス・インディケーター・ウォッチリスト・ダッシュボード・ページが影響を受けるリストから、必要なPOVメンバーを選択します。視点(POV)セレクトから、レポートを表示する必要なPOVメンバーを選択します。



▶ キー・パフォーマンス・インディケーター・ウォッチリストのレポートを表示するには:

1. キー・パフォーマンス・インディケーター・ウォッチリスト・ダッシュボードの**視点セレクト**で、リストからPOVディメンション・メンバーを選択します:
 - 地域
 - 期間
 - 比較
 - ビュー名
2. 「適用」をクリックすると、ダッシュボードに変更が表示されます。
3. オプション: 次のいずれかのアクションを実行するには、「リセット」をクリックします:
 - 最後に適用した値にリセット
 - デフォルト値にリセット
 - すべてクリア

KPI監視リスト

キー・パフォーマンス・インディケーター(KPI)ウォッチリストを使用して、財務データを表示し、会社の発展に向けて必要な対応を取ります。たとえば、KPIのステータスを表示し、**地域と期間**における**売上総利益率勘定科目**の詳細をモニターできます。

レポートは、KPI勘定科目のリストを含む表形式で表されます。これらの勘定科目のリストは、特定の期間にわたってモニターされ、その差異は「比較」プロンプトの選択に基づいて計算されます。

Oracle Financial Management Analyticsの構成ユーティリティを使用してKPIのリストを構成できるのは、管理者のみです。*Oracle Financial Management Analytics*管理者ガイドを参照してください



注:

キー・パフォーマンス・インディケーター内の勘定科目メンバーをクリックすると、KPI傾向レポートに基づいたグラフ・データが表示されます。

	Forecast	Budget	Variance	Variance(%)
Gross Profit	38,214,056.90	51,758,338.09	-13,544,281.19	-35.44
Net Revenue	97,967,866.89	103,718,172.86	-5,750,305.97	-5.87
Cost of Sales	59,753,809.98	51,959,834.77	7,793,975.22	13.04

[Refresh](#) - [Export](#)

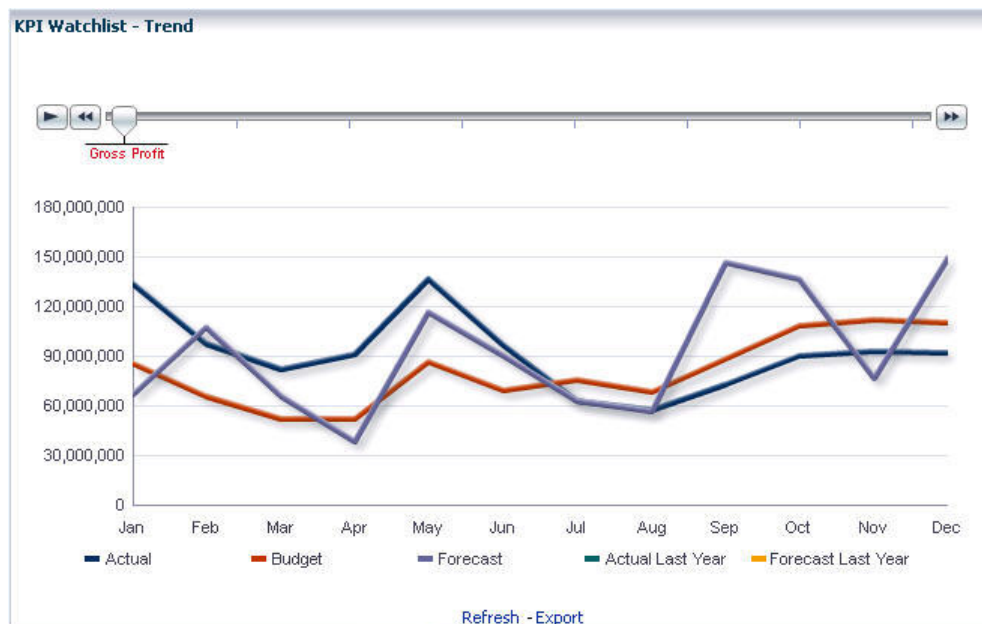
KPI傾向

このレポートには、現在の年のすべての月の期間の、キー・パフォーマンス・インディケーターの傾向が表示されます。

KPI傾向レポートは、KPIウォッチリスト・レポートで行われたキー・パフォーマンス・インディケーターの選択内容に影響されます。例: 「キー・パフォーマンス・インディケーター」列で「売上総利益率」キー・パフォーマンス・インディケーターを選択すると、KPI傾向レポートに対応する傾向の詳細が表示されます。

このレポートは、一定期間に渡る傾向を示すのに便利な折れ線グラフの形式で表されます。

凡例は、レポートの下部に表示されます。



キー・パフォーマンス・インディケーターの詳細

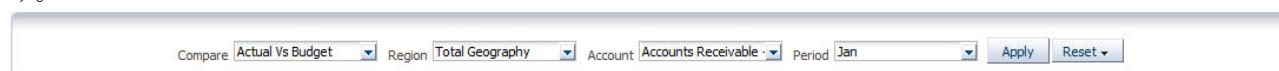
KPI詳細ダッシュボード・ページを使用して、KPI勘定科目の詳細を分析します。会社にとって役に立つ勘定科目と悪影響を及ぼす勘定科目を容易に識別し、対応を取ることができます。

ダッシュボード・ページのこのセクションには、次の4つのレポートが表示されます:

- KPIメーター
- KPI係数
- QTDのKPI傾向
- YTDのKPI傾向

キー・パフォーマンス・インディケータの詳細の視点の設定

この項は、キー・パフォーマンス・インディケータの詳細ダッシュボード・ページが影響を受けるリストから、必要なPOVメンバーを選択する際に役立ちます。視点(POV)セレクタから、レポートを表示する必要なPOVメンバーを選択します。



▶ キー・パフォーマンス・インディケータの詳細レポートを表示するには:

1. キー・パフォーマンス・インディケータの詳細ダッシュボードの**視点セレクタ**で、リストから必要なPOVディメンション・メンバーを選択します:
 - 比較
 - 地域
 - 勘定科目
 - 期間
2. 「適用」をクリックすると、ダッシュボードに変更が表示されます。
3. オプション: 次のいずれかのアクションを実行するには、「リセット」をクリックします:
 - 最後に適用した値にリセット
 - デフォルト値にリセット
 - すべてクリア

KPIメーター

KPIメーター・レポートを表示すると、勘定科目のキー・パフォーマンスをゲージ・ビューで表示できます。

レポートはゲージで、そのゲージの円周に沿って差異パーセンテージ値が示されます。値はカラー・コードを使用して表されます。ゲージ・レポートの下の表形式の情報は、ダッシュボードのPOVにおける「比較」の選択に基づきます。

定義された差異の範囲を変更できるのは管理者のみです。*Oracle Financial Management Analytics*管理者ガイドを参照してください。

凡例には、特定範囲のメトリックに関連付けられたカラー・コードに関する情報が表示されます。例:

- 赤はクリティカルを示します
- 黄色は警告を示します
- 緑は良好であることを示します

データは、「比較」の選択に基づきます。

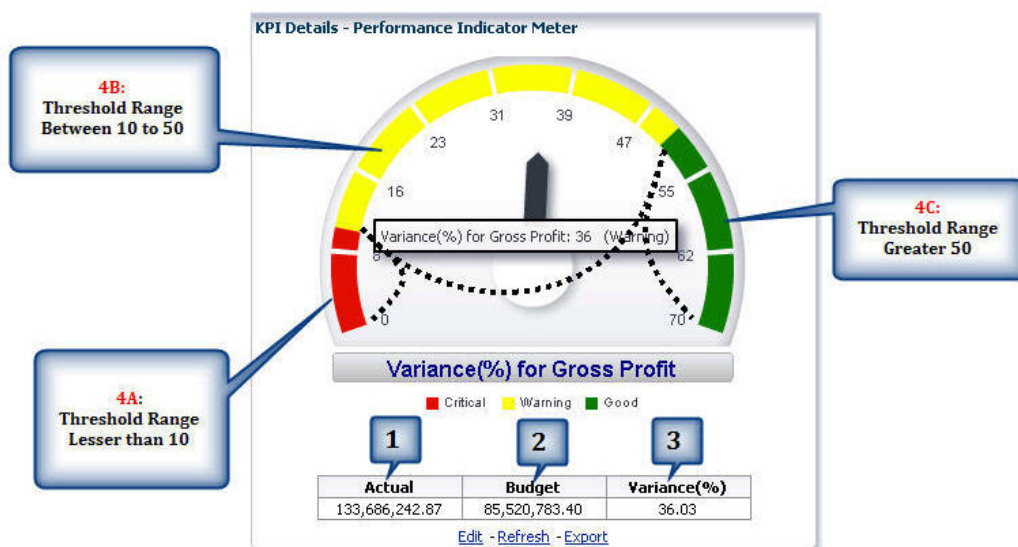


表6 KPIメーター - レポートの詳細

	レポートの詳細	説明
1	列見出し: 比較元シナリオ	「比較」の選択に基づいて、最初の列見出しが対応して変更されます。この列に表示される値は正確な値で、これらの値はスケールされません。例: 比較ダッシュボード・プロンプトから実績vs予算を選択する場合: <ul style="list-style-type: none"> 最初の列に、Financial Managementの勘定科目の実績値が表示されます。 2番目の列に、Financial Managementの勘定科目の予算値が表示されます。
2	列見出し: 比較先シナリオ	「比較」の選択に基づいて、2番目の列見出しが対応して変更されます。 この列に表示される値は正確な値で、スケールされません。
3	差異(%)	実績と予算の間の差異(%)の値が表示されます。
4	しきい値	ゲージ・レポートのカラー・コードは、比較プロンプトの2つのシナリオ間の差異パーセンテージ計算に基づきます。カラー・コードは、差異の計算に基づいて、差異パーセンテージ範囲を表します。しきい値は、構成ユーティリティから構成されます。特定の差異範囲の色インディケータを定義できます。例: <ul style="list-style-type: none"> 4a: 赤色は、差異パーセンテージ値が-33より小さいことを示します。 4b: 黄色は、差異パーセンテージ値が-33から+33の間であることを示します。 4c: 緑色は、差異パーセンテージ値が+33より大きいことを示します。 <p>注:</p> <p>管理者はビジネス要件に基づいて、KPIメーター・レポートの差異範囲を設定します。</p>

KPI係数

KPI係数レポートを使用して、KPIメーター・レポートの勘定科目にマップされている、関連付けられた勘定科目を表示します。表示される勘定科目リストは、ダッシュボードのPOVで行われた「勘定科目」の選択に基づきます。

レポートに表示される値は正確な値で、スケールされません。

例: 「総利益」勘定科目の場合、「総利益」勘定科目は、「純収益」や「販売原価」など、関連付けられた勘定科目に基づいて計算できます。KPI係数レポートにこれらの勘定科目を表示するために必要な、関連するディメンション・リストを選択します。



注:

KPI係数レポートが非表示になる場合。管理者に問い合せて、*Oracle Financial Management Analytics*管理者ガイドを参照してください。管理者は、構成ユーティリティで関連するディメンション・リストの詳細を指定する必要があります。



注:

KPI係数レポートの値は、スケールされません。

KPI Details - Performance Indicator Factor Report

Account Description	Actual	Budget	Variance	Variance(%)
Gross Profit	133,686,243	85,520,783	48165459.47	36.03
Net Revenue	339,077,919	211,141,880	127936038.22	37.73
Cost of Sales	205,391,676	125,621,097	79770578.75	38.84

[Refresh](#) - [Export](#)

表7 KPIメーター - レポートの詳細

	レポートの詳細	説明
1	勘定科目の説明	Financial Managementの勘定科目を表示します。 KPIメーター ・レポートの勘定科目にマップされている、関連付けられた勘定科目のリストは、この列に表示されます。 KPI係数 は、ダッシュボードのPOVで行われた勘定科目の選択に影響されます。
2	列見出し: 比較元シナリオ	「比較」の選択に基づいて、最初の列見出しが対応して変更されます。 この列に表示される値は正確な値で、これらの値はスケールされません。 例: 比較ダッシュボード・プロンプトから 実績vs予算 を選択すると、最初の列にFinancial Managementの勘定科目の 実績値 が表示されます。
3	列見出し: 比較先シナリオ	「比較」の選択に基づいて、2番目の列見出しが対応して変更されます。 この列に表示される値は正確な値で、これらの値はスケールされません。 例: 比較ダッシュボード・プロンプトから 実績vs予算 を選択すると、2番目の列にFinancial Managementの勘定科目の 予算値 が表示されます。

	レポートの詳細	説明
4	差異(#)	「実績」列と「予算」列の差異の計算結果が表示されます。
5	差異(%)	実績と予算の間の差異(%)の値が表示されます。

KPI傾向(QTD)

KPI傾向レポートを使用して、現在の年の四半期累計 (QTD)の値を表示している四半期を確認します。KPI傾向レポートは、ダッシュボードのPOVで行われた「勘定科目」の選択に基づいています。例: ダッシュボードのPOVから「売上総利益率」勘定科目を選択した場合、KPI傾向レポートに表示する勘定科目にスライダを移動します。このレポートは、棒グラフで表されます。縦棒グラフにより、現在の年の各四半期における、KPI勘定科目のシナリオ間の差異を比較できます。

凡例は、レポートの下部に表示されます。凡例には、特定の比較プロンプトに関連付けられたカラー・コードに関する情報が表示されます。例:

- 青は実績を示します
- 赤は予算を示します

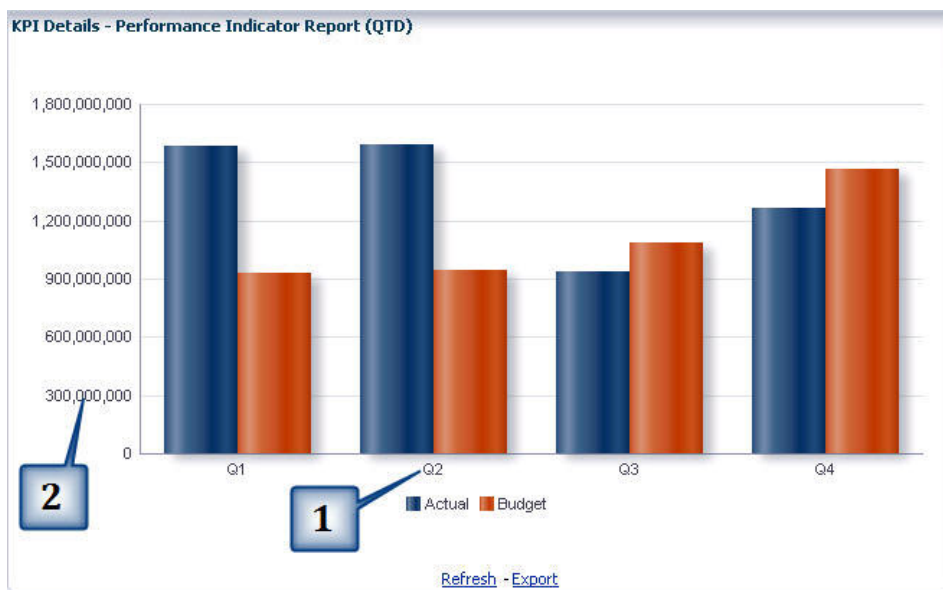


表8 KPI傾向 - レポートの詳細

	レポートの詳細	説明
1	期間	現在の年の四半期をx軸に表示します。
2	財務値	Financial Managementのデータ値は、y軸に表示されます。

KPI傾向(YTD)

KPI傾向を表示して、現在の年の年次累計 (YTD)の値の四半期を確認できます。KPI傾向レポートは、ダッシュボードのPOVで行われた「勘定科目」の選択に基づいています。例: ダッシュボードのPOVから「総資産」勘定科目

を選択した場合、スライダを移動して、KPI傾向レポートにデータを表示します。レポートは棒グラフになっており、現在の年の四半期における、KPI勘定科目のシナリオ間の差異を比較できます。

凡例は、レポートの下部に表示されます。凡例には、特定の比較プロンプトに関連付けられたカラー・コードに関する情報が表示されます。例:

- 青は実績を示します
- 赤は予算を示します

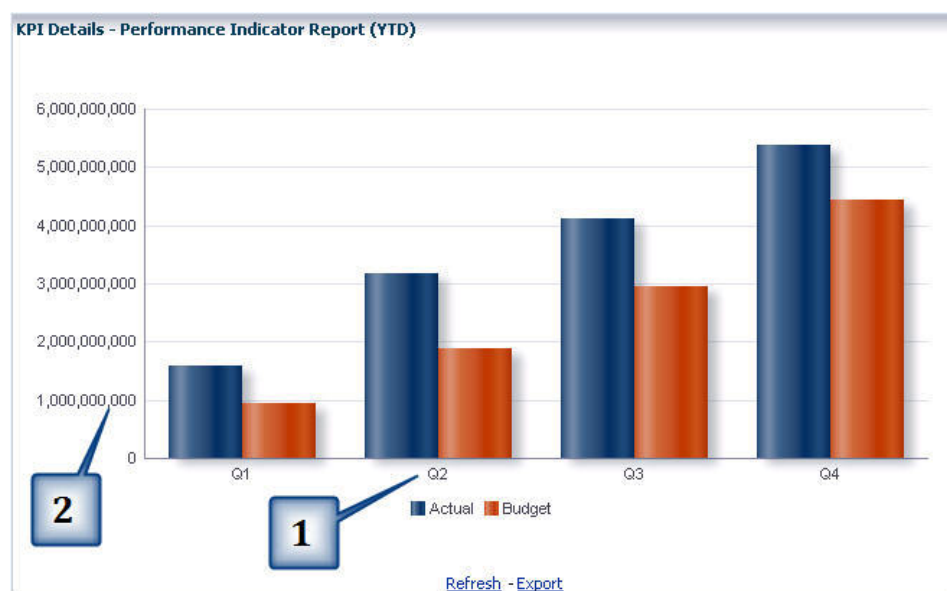


表9 KPI傾向 - レポートの詳細

	レポートの詳細	説明
1	期間	現在の年の四半期をx軸に表示します。
2	財務値	Financial Managementのデータ値をy軸に表示します。

カスタム別KPIの視点の設定

カスタム別のキー・パフォーマンス・インディケーター・ダッシュボード・ページのリストから、POVメンバーを選択します。視点(POV)セレクタから、レポートを表示するPOVメンバーを選択します。

Analyze By Account Period Compare

- ▶ カスタム別のキー・パフォーマンス・インディケーター・レポートを表示するには:
 1. ダッシュボード・プロンプトで、リストから「分析担当者」、「勘定科目」、「期間」および「比較」ディメンション・メンバーを選択します。
 2. 「適用」をクリックすると、レポート内に変更が表示されます。
 3. オプション: 次のいずれかのアクションを実行するには、「リセット」をクリックします:
 - 最後に適用した値にリセット
 - デフォルト値にリセット

- すべてクリア

カスタム別のキー・パフォーマンス・インディケーター

このダッシュボード・ページでは、次のような2つのディメンション・ビューのキー・パフォーマンス・インディケーター勘定科目を表示できます: カスタム・ディメンション・リストまたは「エンティティのディメンション」を含む列セット、およびカスタム・ディメンション・リストまたは「エンティティのディメンション」を含む行セット。

このレポートは、格子表示のグラフで表され、垂直の棒グラフのグリッドが各データ・セルに1つ表示されます。

凡例は、レポートの下部に表示されます。凡例には、特定の比較プロンプトに関連付けられたカラー・コードに関する情報が表示されます。例:

- 青は実績を示します
- 赤は前年を示します

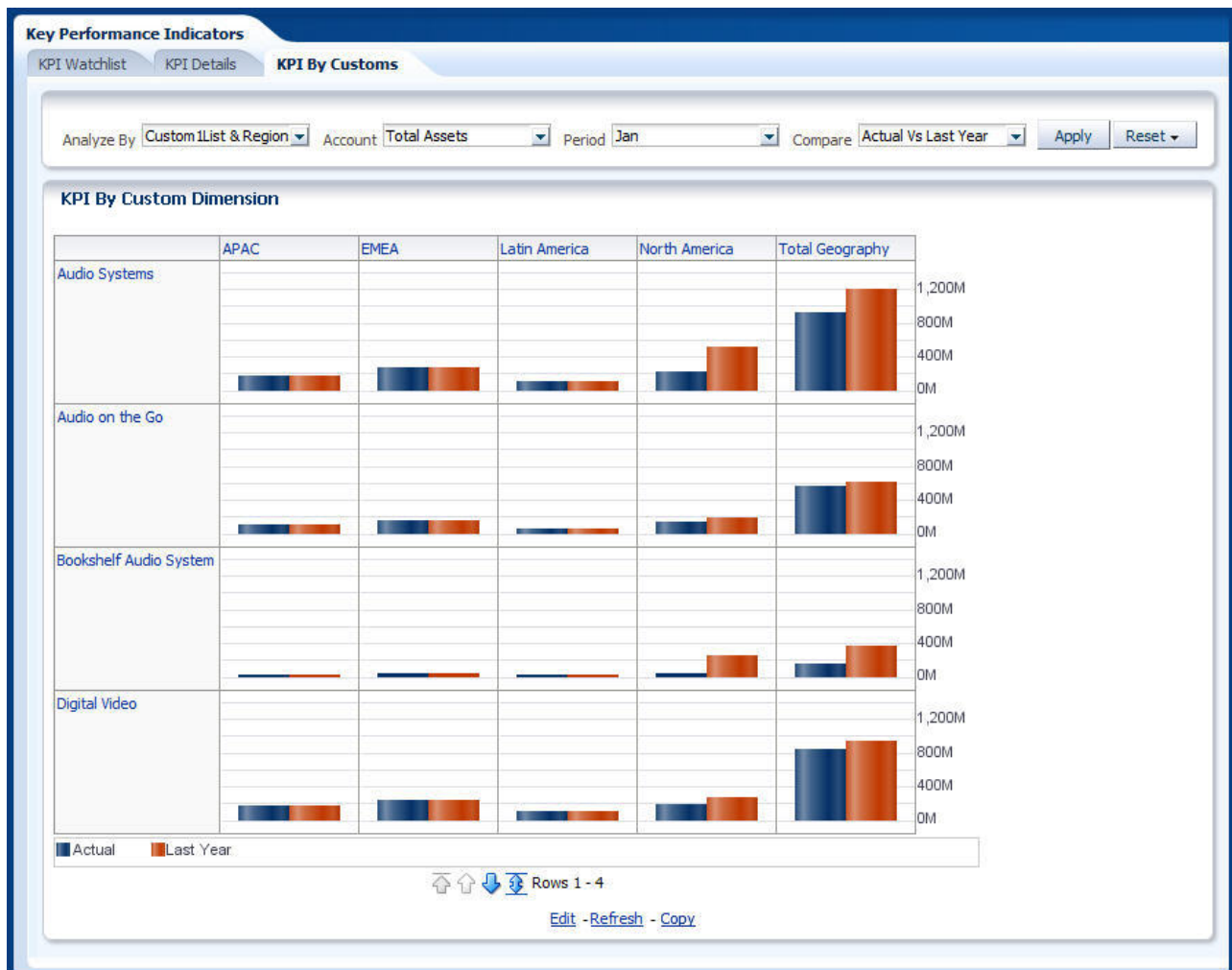


表10 カスタム別KPI - レポートの詳細

	レポートの詳細	説明
1	行見出し	「分析担当者」の選択に基づいて、行見出しが対応して変更されます。例: 分析担当者ダッシュボード・プロンプトからカスタム1リストvs地域を選択する場合:

	レポートの詳細	説明
		<ul style="list-style-type: none"> この行には、Financial Management勘定科目のカスタム1リストが表示されます。 この列には、Financial Management勘定科目の地域が表示されます。
2	列見出し	<p>「分析担当者」の選択に基づいて、列見出しが対応して変更されます。例: 分析担当者ダッシュボード・プロンプトからカスタム1リストvs地域を選択する場合:</p> <ul style="list-style-type: none"> この列には、Financial Management勘定科目の地域が表示されます。 この行には、Financial Management勘定科目のカスタム1リストが表示されます。
3	財務値	Financial Managementのデータ値は、y軸に表示されます。表示されるデータ値は、POVセレクトの比較プロンプトで選択されたシナリオの組合せに基づきます。

プロセス管理ダッシュボード

プロセス管理ダッシュボードには、タスクを完了するためのワークフロー関連情報を分析し、プロセス・レベルの完了に伴う手順や必要なアクションを明確に認識するのに役立つ情報が表示されます。

プロセス単位とは、特定のシナリオ、年、期間、エンティティおよび値に関するデータを組み合わせたものです。プロセス管理を使用すると、プロセス単位の確認、送信、レベルの移行、承認、却下または発行を行うことができます。

次の表でプロセスのステージについて説明します:

表11 プロセス単位

プロセス単位	説明
未開始	確認監督者によりプロセス単位が開始されていないか、スーパーバイザ以外のユーザーがデータを入力できません。プロセス単位のレベルを「初回パス」に変更できるのは、エンティティに対するすべてのアクセス権を持っているスーパーバイザのみです。
初回パス	プロセス単位が開始されており、適切なアクセス権を持つユーザーがデータを入力する最初のステージにあります。プロセス単位が「第1パス」のレベルにあるときは、セキュリティ役割は確認されません。
確認レベル1-10	プロセス単位は、最初のデータ入力が終わりと、確認プロセスを開始するステージにあります。
送信済	プロセス単位が送信され、最終的な承認を受ける準備ができています。 「提出済」のレベルは、通常、プロセス単位を承認する前の最終プロセスです。「送信者」のセキュリティ役割を持っている場合は、確認のレベルを飛ばすか、プロセス単位を直接「送信済」レベルに上げるかを選択できます。
承認済	プロセス単位が承認されています。
発行済	プロセス単位のパブリック・アクセスが発行されています。

プロセス管理では段階的な送信がサポートされており、確認送信のフェーズごとに勘定科目を定義するのに役立ちます。確認プロセスで、プロセス単位全体ではなく、プロセス単位のフェーズごとにレベルを上げることができるので、確認プロセスを実施するための追加のシナリオが不要になります。『Oracle Hyperion Financial Managementユーザーガイド』および『Oracle Hyperion Financial Management管理者ガイド』を参照してください。

プロセス管理ダッシュボードは、エンティティ構造全体におけるプロセス管理の状況と情報を確認するのに役立ちます。「プロセス管理ダッシュボード」ページには、次のレポート情報が表示されます:

- [44ページのプロセス管理統計](#)405
- [46ページのプロセス管理傾向](#)
- [46ページのプロセス管理メトリック](#)



注:

プロセス管理ダッシュボードは9つのフェーズをサポートしています。

プロセス管理ダッシュボードの視点の設定

▶ 視点を設定するには:

1. プロセス管理ダッシュボードの**視点セクタ**で、必須のPOVディメンション・メンバーをリストから選択します:
 - シナリオ
 - 期間
 - 地域
 - フェーズ
2. 「適用」をクリックすると、ダッシュボードに変更が表示されます。
3. オプション: 次のいずれかのアクションを実行するには、「リセット」をクリックします:
 - 最後に適用した値にリセット
 - デフォルト値にリセット
 - すべてクリア

プロセス管理統計

「プロセス管理統計」には、子孫エンティティのステータス・カウントと詳細なステータスが表示されます。表示されるレポートは、ダッシュボードのPOVから選択した期間に基づいています。

「全体のステータス」では、特定のプロセス単位に割り当てられたエンティティの数がカウントされます。たとえば、基本エンティティの場合、組織構造の一番下に位置し、それ以上の子エンティティを持たないエンティティの数がカウントされます。このレポートには、次の確認レベルにあるエンティティのカウントが表示されます:

- 未開始
- 初回パス
- 確認レベル
- 送信済
- 承認済
- 発行済

全体のステータスの情報は、次のオプションによって異なります:

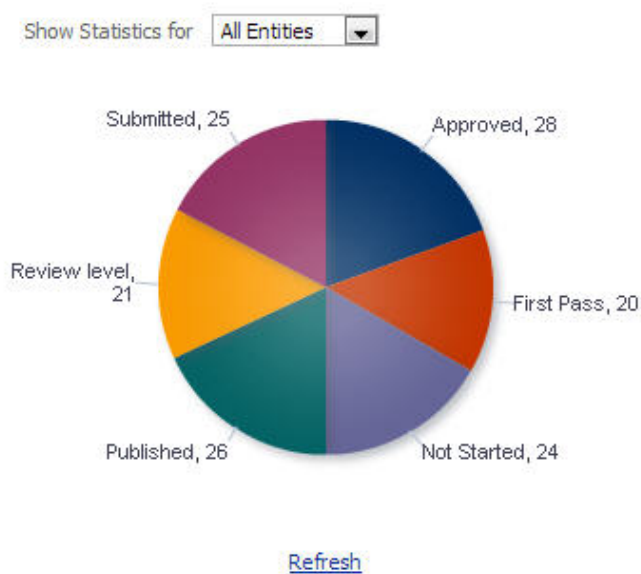
- ・「すべてのエンティティ」オプションを選択すると、組織構造内のエンティティの総数がカウントされます。
- ・基本エンティティ・オプションを選択すると、組織構造の一番下に位置し、それ以上の子エンティティを持たない子孫エンティティの数がカウントされます。



注:

Show Statistics for オプションを変更すると、変更内容がプロセス管理統計レポートに表示されます。

Process Management Statistics



レポートには、次の情報が表示されます:

表12 プロセス管理統計-レポート詳細

レポートの詳細	説明
Show Statistics for	次のオプションを選択するためのドロップダウン・メニュー: <ul style="list-style-type: none"> ・ すべてのエンティティ ・ 基本エンティティ
ステータス	プロセス・ステータスのリスト: <ul style="list-style-type: none"> ・ 未開始 ・ 初回パス ・ 確認レベル ・ 送信済 ・ 承認済 ・ 発行済

プロセス管理傾向

このレポートは、プロセス管理データをテーブル形式で示したものです。表には、ダッシュボードのPOVから選択した期間までの12か月の傾向の詳細が含まれています。このレポートは、特定の地域における子孫エンティティの数をカウントします。このカウントは、Financial Managementアプリケーションに依存しています。傾向分析の情報は、次のオプションによって異なります：

- ・ クローズから承認のオプションを選択すると、レポートに反映されている、「初回パス」ステータスから「承認済」ステータスへのプロセス状態の変更に応じて、特定の地域における子孫エンティティの数がカウントされます。
- ・ クローズから送信のオプションを選択すると、レポートに反映されている、「初回パス」状態から「送信済」状態へのプロセス状態の変更に応じて、特定の地域における子孫エンティティの数がカウントされます。

プロセス管理傾向分析表では、期間は数値で表されます。地域ヘッダーの値1は、ダッシュボードのPOVで現在選択している期間を示し、地域ヘッダーの数値2-12は、ダッシュボードのPOVで現在選択している期間からさかのぼった過去11期間を示します。

次の表で、**Europe**を例とします。プロセスの状態を「クローズ日」から「承認済」のステータスに変更するまでにかかった日数がわかります。この数値は列ヘッダー12から次第に減少していきますが、12はダッシュボードのPOVで現在選択している期間からさかのぼって11番目の期間です。

Process Management Trend

Calculate days from

Regions	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
EMEA Corporate	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Europe	2	2	7	4	9	7	2	5	5	6	9	7
Middle East	1	3	2	5	4	8	1	1	6	7	4	6
Africa	1	3	2	5	4	8	1	1	6	7	4	6

[Refresh](#)

レポートには、次の情報が表示されます：

表13 プロセス管理傾向 – レポートの詳細

レポートの詳細	説明
計算開始日	次のオプションを選択するためのドロップダウン・メニュー： <ul style="list-style-type: none"> ・ クローズから承認 ・ クローズから送信
地域	列の値は、次に示す特定の地域における子孫エンティティの数をカウントしたものです： North America, Latin America, APACなど。表示される地域は、ダッシュボードのPOVでの選択内容によって異なります。

プロセス管理メトリック

プロセス管理メトリック・レポートは、「初回パス」状態から「承認済」または「送信済」へのプロセス状態の変更における子孫エンティティのステータスを示します。

このレポートでは、様々なエンティティについて、クローズ・ステータスから「送信」ステータス、およびクローズ・ステータスから「承認」ステータスへのプロセス・レベルの詳細分析が可能です。



Process Management Metrics

Regions	Total Child Regions	Avg Days from Close to Submit	Max Days from Close to Submit	Regions not Submitted	Avg Days from Close to Approve	Max Days from Close to Approve	Regions Not Approved
North America New Desc	60	11	14	9	16	18	13
Latin America	28	8	15	9	15	19	14
EMEA	65	15	19	12	20	23	15
APAC	63	20	22	27	25	26	29
Corporate HQ	0	0	0	0	0	0	0

[Refresh](#) - [Print](#) - [Export](#)

カラー・コードは、プロセス状態の変更に関する日数計算のフェーズを表しています。例:

- 緑色のフラグは、そのプロセス単位が所定の期間を超えることなく進捗していることを示します。デフォルトでは、緑色のフラグはプロセス単位が所定の期間の0日目から8日目の間にあることを示します。
- 黄色のフラグは、そのプロセス単位が遅延していることを示します。デフォルトでは、黄色のフラグはプロセス単位が所定の期間の9日目から12日目の間にあることを示します。
- 赤色のフラグは、プロセス単位に重大な問題があることを示します。デフォルトでは、赤色のフラグはプロセス単位が12日間の制限を超えていることを示します。



注:

フラグのステータスを変更できるのは管理者のみです。

レポートには、次の情報が表示されます:

表14 プロセス管理メトリックレポートの詳細

列名	列の説明
地域	ダッシュボードのPOVで選択したエンティティの子エンティティ
子地域の合計	特定の場所におけるエンティティの子孫エンティティ・メンバーの総数
クローズから送信までの平均日数	子孫エンティティがプロセスの状態をクローズ日から「送信済」ステータスに変更するまでの平均日数。クローズから送信までの平均日数の計算式: (個々のエンティティがそれぞれプロセスの状態を「クローズ日」から「送信済」ステータスに変更するまでに要した日数)/送信済エンティティの総数。 注: エンティティがまだ「送信済」ステータスになっていない場合、計算結果はレポートの生成日から取得されます。
クローズから送信までの最大日数	任意の子孫エンティティがプロセスの状態をクローズ日から「送信済」ステータスに変更するまでの最大日数。計算

列名	列の説明
	<p>式: (すべての子孫がプロセスを「送信済」状態に変更するまでに要した最大日数。)</p> <p>注:</p> <p>エンティティがまだ「送信済」ステータスになっていない場合、計算結果はレポートの生成日から取得されます。</p>
未送信の地域数	<p>次の状態にある子孫エンティティの数:</p> <ul style="list-style-type: none"> • 未開始 • 初回パス • 確認レベル1-9
クローズから承認までの平均日数	<p>子孫エンティティがプロセスの状態を「クローズ日」から「承認済」のステータスに変更するまでにかかった平均日数。クローズから承認までの平均日数の計算式: (個々のエンティティがそれぞれプロセスの状態を「クローズ日」から「承認済」ステータスに変更するまでに要した日数)/承認済エンティティの総数。</p> <p>注:</p> <p>エンティティがまだ「承認済」ステータスになっていない場合、計算結果はレポートの生成日から取得されます。</p>
クローズから承認までの最大日数	<p>任意の子孫エンティティがプロセスの状態を「クローズ日」から「承認済」のステータスに変更するまでにかかった最大日数。計算式: (すべての子孫がプロセスを「承認済」状態に変更するまでに要した最大日数。)</p> <p>注:</p> <p>エンティティがまだ「承認済」ステータスになっていない場合、計算結果はレポートの生成日から取得されます。</p>
未承認の地域数	<p>この列は、次の状態にある子孫の数を表します:</p> <ul style="list-style-type: none"> • 未開始 • 初回パス • 確認レベル1-9 • 送信済

「プロセス管理メトリック」レポートでの平均日数および最大日数の計算

任意のエンティティがステータスをクローズから「送信」に変更するまでに要する平均日数および最大日数の計算手順を理解するため、米国地域について考えてみます。

子地域の合計は41です。その中で、3つのエンティティがプロセスの状態を「初回パス」ステータスから「送信済」ステータスに変更しました。「送信済」ステータスになったエンティティは、マサチューセッツ、ニューヨークおよびペンシルベニアです。

エンティティ	クローズ・ステータスから「送信」ステータスになるまでの日数
マサチューセッツ	1
ニューヨーク	1
ペンシルベニア	9 ¹
各エンティティがクローズから「送信」になるまでに要する平均日数	$(1+1+9)/3=3.666$; ただし、レポートに表示される値は3です。値は直接、整数に丸められます。

¹任意のエンティティが「閉じる」ステータスから「送信」ステータスになるまでの最大日数。

「プロセス管理メトリック」表では次の変更が影響を受けます:

地域	米国
子地域の合計	41
クローズから送信までの平均日数	3.0 ¹
クローズから送信までの最大日数	9 ²
未送信の地域数	38
クローズから承認までの平均日数	0
クローズから承認までの最大日数	0
未承認の地域数	41

¹クローズから送信までの平均日数を表す状態フラグは緑色になります。

²クローズから送信までの最大日数を表す状態フラグは黄色になります。

4

Financial Close Managementダッシュボード

この項の内容:

Close Managerダッシュボード	51
Account Reconciliation Managerダッシュボード	62

このダッシュボード・ページには、「**Close Manager**」と「**Account Reconciliation Manager**」の2つのダッシュボードを表示できます。これらのモジュールがダッシュボードに表示されるのは、管理者がOracle Financial Management Analytics構成ユーティリティを使用して構成した場合のみです。これらの各ダッシュボードには、期末決算アクティビティを分析するための一連のレポートが表示されます。

Financial Close Managementの構成は、構成ユーティリティを使用して行います。詳細は、*Oracle Financial Management Analytics*管理者ガイドを参照してください。

Close Managerダッシュボード

Close Managerダッシュボードには、決算スケジュールの関連情報が表示されます。このダッシュボードには、実施中の全スケジュールの現在のステータスに関する情報が表示され、ユーザーは次のような重要な側面について素早く理解し、分析することができます:

- スケジュールのマイルストーン
- スケジュールの遅延状況
- カラー・コードによる通知を使用したタスク・ステータスの追跡

ダッシュボードを使用すると、スケジュールされたタスク・プロセスのモニターおよび分析が行えます。決算スケジュール情報はOracle Financial Close Managementアプリケーションから取得されます。

「決算スケジュール・ダッシュボード」タブには、次のダッシュボード・ページが表示されます

- [52ページのステータスの要約ダッシュボード・ページ](#)
- [55ページの遅延状況およびマイルストーン・ダッシュボード・ページ](#)
- [57ページのスケジュールの比較ダッシュボード・ページ](#)
- [59ページのユーザー・パフォーマンス・ダッシュボード・ページ](#)

Close Managerの起動ページ

Close Managerの起動ページには、各ダッシュボード・ページにアクセスするためのショートカットがあります。起動ページは複数のダッシュボード・アイコンおよびURLリンクで構成され、ダッシュボード・アイコンをクリックすると各ダッシュボード・ページが別個のページに表示されます。

Close Manager Account Reconciliation Manager



ORACLE
FINANCIAL MANAGEMENT
ANALYTICS

- Close Status Summary**
Analyze the overall status of activities across the financial close cycle.
- Close Milestones and Roadblocks**
Analyze the key activities within the financial close cycle.
- Compare Close Schedules**
Comparison of close schedules and their activities.
- User Performances**
Analyze the performance of users working on financial close activities.
- Help**
Access the User Guide.

Close Managerの起動ページから、次のダッシュボード・ページを起動できます:

- 52ページのステータスの要約ダッシュボード・ページ
- 55ページの遅延状況およびマイルストーン・ダッシュボード・ページ
- 57ページのスケジュールの比較ダッシュボード・ページ
- 59ページのユーザー・パフォーマンス・ダッシュボード・ページ

ステータスの要約ダッシュボード・ページ

このダッシュボード・ページでは、スケジュールされたタスク・プロセスをモニターおよび分析できます。ステータスの要約ダッシュボード・ページには、次のレポート情報が表示されます:

- 53ページのスケジュールの要約
- 54ページのスケジュールの傾向

ステータスの要約ダッシュボードの視点の設定

- ▶ 視点を設定するには:

1. Close Manager: ステータスの要約ダッシュボードの「POVセレクト」で、リストから必要なPOVディメンション・メンバーを選択します:
 - 期間
 - 年
2. 「適用」をクリックすると、選択した「期間」ディメンションと「年」ディメンションの組合せに基づいて、スケジュール名のリストが表示されます。
3. スケジュール: 必須のスケジュール名をリストから選択します。



注:

ドロップダウン・リストから「スケジュール」を選択しなかった場合は、ダッシュボードのPOVから選択した期間ディメンションと年ディメンションの組合せに基づいて、すべてのスケジュールがリストされます。

4. 「適用」をクリックすると、ダッシュボード・ページに変更が表示されます。
5. オプション: 次のいずれかのアクションを実行するには、「リセット」をクリックします:
 - 最後に適用した値にリセット
 - デフォルト値にリセット
 - すべてクリア

スケジュールの要約

「スケジュールの要約」レポートには、Financial Close Managementアプリケーションから取得したスケジュール詳細のたまかな要約情報が含まれています。

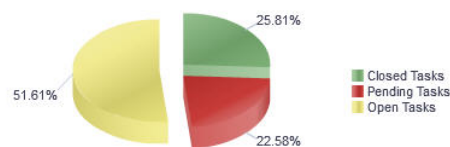
スケジュールの要約レポートを使用すると、OPEN (実施中)およびCLOSEDの全スケジュール詳細の現在のステータスを確認し、スケジュール内の保留中のタスク、終了したタスク、および未完了のタスクの総数を素早く把握するのに役立ちます。このレポートでは、実際のタスクが完了した割合、および予定されていたタスクが完了した割合を計算します。

Schedule Summary

Schedule Name	Status	Total Tasks	Pending Tasks	Closed Tasks	Open Tasks	Actual Completion	Plan Completion	Condition
AUA_schedule1	OPEN	1	0	0	1	0%	100%	●
fm_HFMAuto_s1	OPEN	2	0	2	0	100%	100%	●
gl_HFMAuto	OPEN	7	0	4	1	57%	100%	●
gl_sched_TA1	OPEN	7	7	0	0	0%	0%	●
gl_sched_reassign1	OPEN	1	0	0	1	0%	100%	●
gl_sched_reassign2	OPEN	1	0	0	1	0%	100%	●
jm schedule 061614 CX	OPEN	14	0	2	12	14%	100%	●

● Schedule is on time ● Schedule needs attention ● Schedule has been delayed

[Edit](#) - [Refresh](#) - [Export](#)



レポートには、次の情報が表示されます:




表15 スケジュールの要約 - レポートの詳細

列の詳細	説明
スケジュール名	Financial Close Managementアプリケーションでのスケジュールの名前
ステータス	スケジュールのステータスは、OPENまたはCLOSEDです。
タスク合計	スケジュール内のタスクの総数
保留中のタスク	スケジュール内の保留中タスクの総数
終了したタスク	スケジュール内の終了したタスクの総数
開いているタスク	スケジュール内の未完了タスクの総数
実際の完了	現時点で完了済タスクの実際の数にスケジュールのタスク総数に占める割合
プラン完了	現時点で1プラン当たりの完了済タスクの予定数がスケジュールのタスク総数に占める割合
条件	このインディケータは、所定の期間に基づいたスケジュールの状態を示します。

次の条件に基づいて、スケジュール内の遅延タスクが計算されます:

- タスクの予定終了日が現在の日付より前
- 計算の時点でタスク・ステータスがOPEN

タスクは前述の条件に基づいて考慮されます。カラー・コードは、所定の期間に基づいたスケジュールの状態を表しています。例:

-  緑色は、タスクが所定の期間を超えることなく進捗していることを表します。デフォルトでは、緑色はスケジュールにおける遅延タスクの総数が5以下であることを示します。
-  黄色は、スケジュールに注意が必要であることを示します。デフォルトでは、黄色はスケジュールにおける遅延タスクの総数が6以上、10以下であることを示します。
-  赤色は、スケジュールに重大な問題があることを示します。デフォルトでは、赤色はスケジュールにおける遅延タスクの総数が11以上であることを示します。



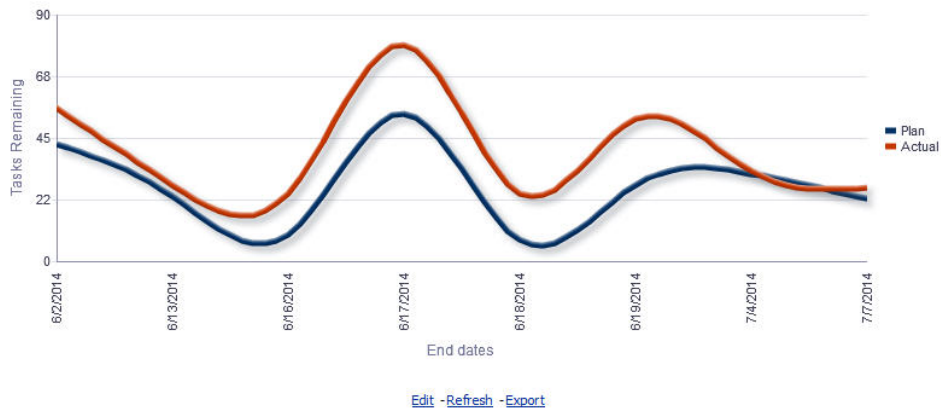
注:

定義されたカラー・インディケータおよびしきい値を変更できるのは管理者のみです。

スケジュールの傾向

このレポートは、予定タスクの完了状況と実際のタスクの進捗状況の比較に基づいて、スケジュールの傾向情報を分析するのに役立ちます。

Schedule Trend



レポートには、次の情報が表示されます:

表16 スケジュールの傾向グラフ - レポートの詳細

レポートの詳細	説明
終了日	POVセレクトで選択した期間を示す日付タイムスタンプ
残りのタスク	その日付の時点で完了が保留されているタスクの数

遅延状況およびマイルストーン・ダッシュボード・ページ

このダッシュボード・ページでは、スケジュールの遅延状況およびマイルストーンの情報をモニターおよび分析できます。遅延状況およびマイルストーン・ダッシュボード・ページには、次のレポート情報が表示されます:

- [56ページのスケジュールのマイルストーン](#)
- [57ページのスケジュールの遅延状況](#)

遅延状況およびマイルストーン・ダッシュボードの視点の設定

▶ 視点を設定するには:

1. Close Manager: 遅延状況およびマイルストーン・ダッシュボードの「**POVセレクト**」で、リストからPOVディメンション・メンバーを選択します:
 - 期間
 - 年
2. 「適用」をクリックすると、選択した「期間」ディメンションと「年」ディメンションの組合せに基づいて、スケジュール名のリストが表示されます。
3. スケジュール: 必須のスケジュール名をリストから選択します。



注:

ドロップダウン・リストから「スケジュール」を選択しなかった場合は、ダッシュボードのPOVから選択した期間ディメンションと年ディメンションの組合せに基づいて、すべてのスケジュールがリストされます。

4. 「適用」をクリックすると、ダッシュボード・ページに変更が表示されます。
5. オプション: 次のいずれかのアクションを実行するには、「リセット」をクリックします:

- 最後に適用した値にリセット
- デフォルト値にリセット
- すべてクリア

スケジュールのマイルストーン

このレポートはスケジュールのマイルストーンを示すもので、優先度の高いタスクとその現在のステータスを分析するのに役立ちます。マイルストーンは、Close Managerで設定されたタスクの優先度によって識別されます。



この記号は、注意が必要なタスクを示します。

Schedule Milestones

Select a schedule from the dashboard prompt for a period and year. The report lists all the high priority tasks and its current status in the deployment. Milestones are identified by the priority of tasks set in Close Manager.

Task Name	Owner	Schedule Name	End Date	Status
⚠ ofmatask11	administrator	Datagen	6/18/2014 11:00:00 AM	Pending
⚠ ofmatask19	administrator	Datagen	6/30/2014 11:00:00 AM	Open
⚠ ofmatask17	administrator	Datagen	6/26/2014 11:00:00 AM	Pending
⚠ ofmatask18	administrator	Datagen	6/27/2014 11:00:00 AM	Pending
⚠ ofmatask15	administrator	Datagen	6/24/2014 11:00:00 AM	Open
⚠ ofmatask16	administrator	Datagen	6/25/2014 11:00:00 AM	Open
⚠ ofmatask13	administrator	Datagen	6/20/2014 11:00:00 AM	Open
⚠ ofmatask14	administrator	Datagen	6/23/2014 11:00:00 AM	Open
⚠ ofmatask1	administrator	Datagen	6/3/2014 10:00:00 AM	Open
⚠ ofmatask12	administrator	Datagen	6/19/2014 11:00:00 AM	Open

Rows 1 - 10

[Refresh](#) - [Export](#)

レポートには、次の情報が表示されます:

表17 スケジュールのマイルストーン - レポートの詳細

列	説明
タスク名	Financial Close Managementアプリケーションで特定のスケジュールに属するタスクの名前
所有者	タスクの所有者。
スケジュール名	Financial Close Managementアプリケーションでのスケジュールの名前
終了日	タスクの予定終了日
ステータス	タスクのステータス: 保留中、オープン、クローズ済、および要注意

スケジュールの遅延状況

このレポートは予定されている障害を示すもので、スケジュールにおいて最も顕著な遅延の原因となるタスクが表示されます。

スケジュールは、祝日やスケジュールの相互依存関係など、様々な理由でリスクがあります。

Schedule Roadblocks

Select a schedule from the dashboard prompt for a period and year. The report lists all the tasks which are causing a prominent delay and hence a roadblock. It also calculates the no. impacted tasks and total delay being caused to the schedule.

Task Name	Responsible	Schedule Name	End Date	Total Delay (Days)	Tasks Impacted (#)
ofmatask6	approver user3	Datagen	7/14/2014 12:00:00 AM	57	1
ofmatask9	assignee user3	Datagen	7/14/2014 12:00:00 AM	52	1
ofmatask16	assignee user2	Datagen	7/14/2014 12:00:00 AM	43	1

[Refresh](#) - [Export](#)

レポートには、次の情報が表示されます:

表18 スケジュールの遅延状況 - レポートの詳細

列	説明
タスク名	Financial Close Managementアプリケーションで特定のスケジュールに属するタスクの名前
担当	割り当てられたタスクについて対応を取る担当ユーザー。
スケジュール名	Financial Close Managementアプリケーションでのスケジュールの名前
終了日	タスクの予定終了日
影響を受けるタスク	影響を受けるタスクの総数。タスク実行の遅延により影響を受ける連続したタスク。
合計遅延(日数)	タスクの遅延により影響を受けるスケジュール上のおおよその日数。

スケジュールの比較ダッシュボード・ページ

このダッシュボード・ページでは、スケジュールを分析および比較できます。

スケジュールの比較ダッシュボードの視点の設定

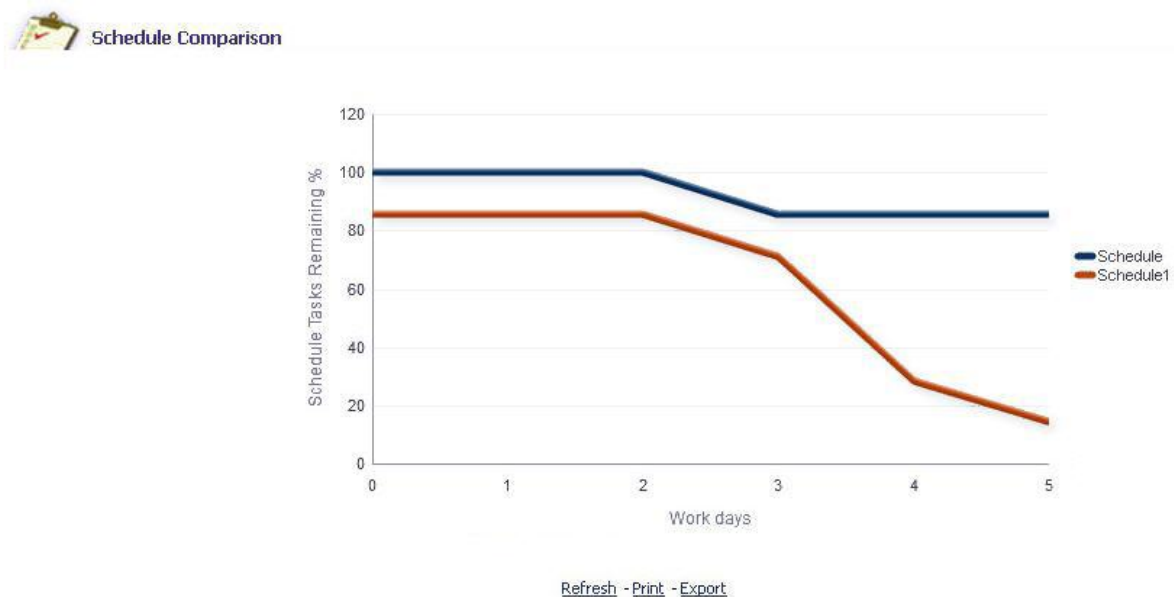
▶ 視点を設定するには:

1. Close Manager: スケジュールの比較ダッシュボードの「POVセレクト」で、リストから必要なPOVディメンション・メンバーを選択します:

- 期間
 - 年
2. 「適用」をクリックすると、選択した「期間」ディメンションと「年」ディメンションの組合せに基づいて、スケジュール名のリストが表示されます。
 3. オプション: 次のいずれかのアクションを実行するには、「リセット」をクリックします:
 - 最後に適用した値にリセット
 - デフォルト値にリセット
 - すべてクリア
 4. 「スケジュール」で: リストからスケジュール名を選択し、「適用」をクリックします。
 5. リストから「スケジュールの比較」を選択してスケジュールを比較し、「適用」をクリックして変更をレポートに表示します。

スケジュールの比較

「スケジュールの比較」レポートは、2つのスケジュールについてタスクの完了率を比較するのに役立ちます。このレポートは、様々な会計期間で同様のスケジュールを比較するのに便利です。



レポートには、次の情報が表示されます:

表19 スケジュールの比較グラフ - レポートの詳細

レポートの詳細	説明
労働日数	特定のスケジュールの完了までに要した実際の労働日数。この数値には、両方のスケジュールの労働日数が含まれません。

レポートの詳細	説明
スケジュール・タスクの残り%	スケジュール内の未完了タスクの割合

ユーザー・パフォーマンス・ダッシュボード・ページ

このダッシュボード・ページでは、現在の期間のClose Managerアプリケーションのタスクを閉じることに関するユーザーのパフォーマンスを示すレポートを表示できます。

ユーザー・パフォーマンス・ダッシュボードの視点の設定

▶ 視点を設定するには:

1. リストから必要なPOVディメンション・メンバーを選択します:
 - 期間
 - 年
 - スケジュール
 - 役割(オプション)
 - ユーザー数
 - ランク付け基準
2. 「適用」をクリックすると、ダッシュボード・ページに変更が表示されます。
3. オプション: 次のいずれかのアクションを実行するには、「リセット」をクリックします:
 - 最後に適用した値にリセット
 - デフォルト値にリセット
 - すべてクリア

ユーザーの下位リスト

このレポートを使用すると、決算アクティビティが遅れているユーザーのリストを表示できます。

ユーザーのリストは、POVディメンションでの「ランク付け基準」および「ユーザー数」の選択に基づいて、自動的に移入されます。

「ランク付け基準」オプションには、次の項目が含まれています:

- タスク
- タスク%
- 合計日数
- 拒否

例: 「ランク付け基準」オプションから、実行が遅れているタスクのパーセンテージ値に基づいて「タスク%」を選択した場合、それぞれのユーザーがレポートに表示されます。

Bottom List of Users

Name	Tasks Late	Task Late (%)	Total Days Late	Rejections
preparer user1	6	100	479	0
reviewer user1	6	100	471	0
preparer user2	4	100	289	0
preparer user3	4	100	279	0
reviewer user2	4	100	281	0

[Refresh](#) - [Export](#)

表20 「ユーザーの下位リスト」レポート

列の詳細	説明
名前	ユーザー名。
遅延タスク	実行が遅れているタスクの数。
遅延タスク(%)	実行が遅れているタスクのパーセンテージ。
合計遅延日数	実行するタスクが遅れている日数。
拒否	発生した拒否の数(複数回拒否された調整は、拒否されるたびに1回カウントされます)。

ユーザーの上位リスト

このレポートを使用して、最も迅速に決算アクティビティを完了するユーザーを見つけます。

ユーザーのリストは、POVディメンションでの「ランク付け基準」および「ユーザー数」の選択に基づいて移入されます。

「ランク付け基準」オプションには、次の項目が含まれています:

- タスク
- タスク%
- 合計日数
- 拒否

例: 「ランク付け基準」オプションから、実行がスケジュールより早いタスクのパーセンテージ値に基づいて「タスク%」を選択した場合、それぞれのユーザーがレポートに表示されます。

Top List of Users

Name	Tasks Early	Task Early (%)	Total Days Early	Rejections
administrator	2	100	8	0
approver user1	2	50	8	0
assignee user1	2	100	3	0
preparer user1	0	0	0	0
preparer user2	0	0	0	0

[Refresh](#) - [Export](#)

表21 「ユーザーの上位リスト」レポート

列の詳細	説明
名前	ユーザー名。
早期完了タスク	スケジュールより早く実行しているタスクの数。
早期完了タスク(%)	スケジュールより早く実行しているタスクのパーセンテージ。
合計早期日数	事前にタスクが完了した日数。
拒否	拒否の数(複数回拒否された調整は、拒否されるたびに1回として反映されます)。

ユーザー傾向

ユーザー傾向レポートは垂直の棒グラフで、各ユーザーの情報が異なる色で表示されます。ユーザー(色)の上にカーソルを置くと、その期間にユーザーによる実行が遅れているタスクの数が表示されます。ユーザー傾向レポートは、担当者、承認者またはその両方などのユーザー役割に基づいて分類されます。

ユーザーのリストは、POVディメンションでの「ユーザー数」および「ランク付け基準」の選択に基づいて移入されます。

「ランク付け基準」オプションには、次の項目が含まれています:

- タスク
- タスク%
- 合計日数
- 拒否

例: 「ランク付け基準」オプションから、実行が遅れているタスクのパーセンテージ値に基づいて「タスク%」を選択した場合、それぞれのユーザーがレポートに表示されます。

下位リストのユーザー傾向

決算アクティビティが遅れているユーザーを表示します。

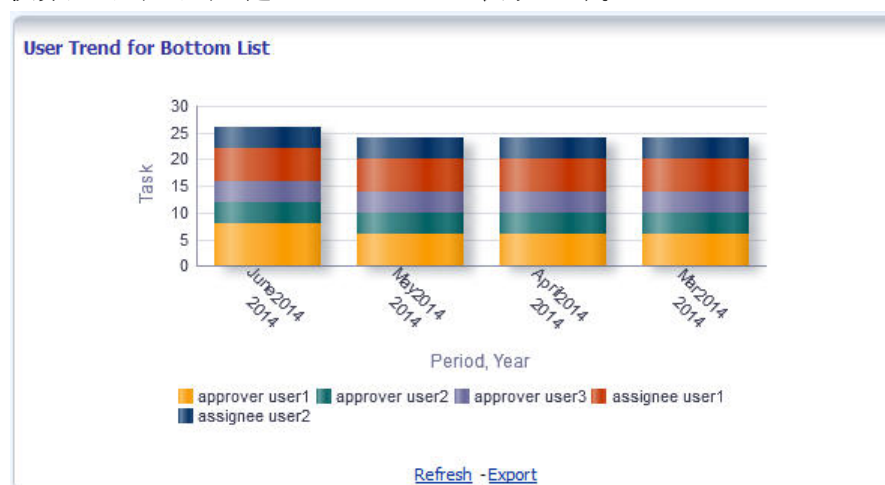


表22 ユーザー傾向の下位リスト・レポート

レポートの詳細	説明
タスクの数	y軸に表示されます。
期間	x軸に表示されます。

上位リストのユーザー傾向

この傾向レポートを使用すると、比較的迅速に決算アクティビティを終了しているユーザーのリストを表示できます。

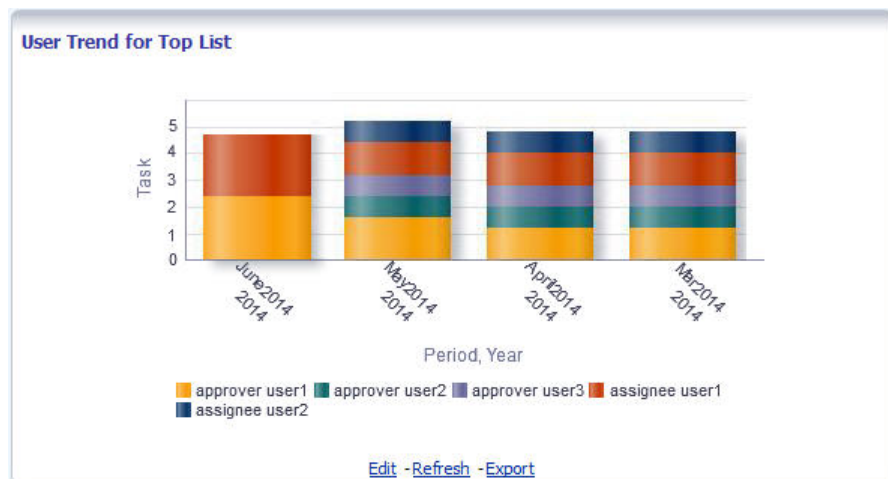


表23 ユーザー傾向の上位リスト・レポート

レポートの詳細	説明
タスクの数	y軸に表示されます。
期間	x軸に表示されます。

Account Reconciliation Managerダッシュボード

Account Reconciliation Manager (ARM)ダッシュボードは、期間ごとの調整情報を提供します。Account Reconciliation Managerダッシュボードは、調整のステータスやパフォーマンス、および調整プロセスを通じて検出された項目を調整する際の影響を、ユーザーが把握できるように設計されています。次をモニターできます：

- 実際の完了とスケジュールされた完了の比較
- 予定どおりに完了された調整のパーセンテージ
- 自動調整された調整のパーセンテージ
- 指定された期間に発生した拒否の数

また、選択したメトリックの傾向の履歴をモニターして、メトリックが増加したか減少したかを確認することも可能です。

ダッシュボードの主要な目的は、それぞれの顧客に適したレベルで、これらのメトリックをレポートしやすくすることです。たとえば、ある顧客は会社コードごとにモニターし、別の顧客は地域や勘定科目タイプを選択することが可能です。

す。柔軟性を最大限に高めるため、レポート基準の選択は顧客が構成できるようになっており、顧客はレポート基準の各オプションを切り替えて、状況を最も把握しやすくすることができます。

Account Reconciliation Managerダッシュボードの情報は、Oracle Financial Close Management内のAccount Reconciliation Managerモジュールから取得されます。Account Reconciliation Managerダッシュボード・ページには、次のレポートが表示されます：

- ・ 調整要約
- ・ パフォーマンス分析
- ・ トレンド分析
- ・ 見積もり試算表
- ・ 調整分析

Account Reconciliation Managerの起動ページ

Account Reconciliation Managerの起動ページには、各ダッシュボード・ページへのショートカットがあります。ダッシュボード・アイコンをクリックすると、各ダッシュボード・ページが個別に表示されます。

Close Manager Account Reconciliation Manager

Account Reconciliation Summary
Analyze the overall status of account reconciliations within a period.

Trial Balance and Adjustment
Review of the debit and credit aggregates and their related adjustments.

User Performances
Analyze the performance of users reconciling accounts.

Help
Access the User Guide.

ORACLE
FINANCIAL MANAGEMENT
ANALYTICS

Account Reconciliation Managerの起動ページから、次のページを起動できます：

- 64ページの調整要約ダッシュボード・ページ
- 69ページのプロ・フォーマ試算表および調整分析ダッシュボード・ページ
- 73ページのユーザー・パフォーマンス・ダッシュボード・ページ

調整要約ダッシュボード・ページ

調整要約ダッシュボード・ページには、次のレポート情報が表示されます:

- 65ページの調整要約
- 66ページのパフォーマンス分析
- 68ページのトレンド分析

調整要約ダッシュボード・ページの視点の設定

視点(POV)セレクトから、レポートを表示するPOVメンバーを選択します。

▶ 調整要約ダッシュボード・ページの視点を設定するには:

1. POVセレクトから、「期間」および「ステータス」を選択し、「適用」をクリックします。
2. POVセレクトから、任意の「レポート基準」オプションを選択します。

- リスク評価(デフォルト)
- 勘定科目タイプ
- 処理
- プロファイル・セグメント
- カスタム属性



注:

ユーザー・タイプ属性を除き、すべてのカスタム属性がサポートされています。

3. オプション: 「アイテム別レポート」を選択し、「適用」をクリックします。



注:

「アイテム別レポート」オプションを使用できるのは、セクション・プロンプトで「プロフィール・セグメント」または「カスタム属性」を選択した場合です。

4. オプション: 次のいずれかのアクションを実行するには、「リセット」をクリックします:
 - 最後に適用した値にリセット
 - デフォルト値にリセット
 - すべてクリア

調整要約

調整要約レポートを使用して、許可された期間内に調整が完了したかどうかをモニターします。最初のレポートは、POVセクション・プロンプト内のレポート基準の選択に基づいています。このレポートを使用すると、レポート基準の選択に基づいて調整のステータスを分析でき、実際の完了とプラン完了の詳細が表示されます。



Reconciliation Summary

Risk Rating	Total	Pending	Open	Closed	Actual Completion	Plan Completion	Condition
High	293	1	292	0	0%	100%	
Low	283	0	282	1	0%	100%	
Unassigned	50	0	32	18	36%	100%	
Grand Total	626	1	606	19			



On Time



Need Attention



Late




[Refresh](#) - [Export](#)

表24 調整要約レポートには、次の情報が表示されます:

列の詳細	説明
ダッシュボード・プロンプト内の「レポート基準」の選択に基づいて列見出しが表示されます。	<p>列見出しは、次に示すレポート基準オプションのいずれでもかまいません:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ リスク評価 ・ 勘定科目タイプ ・ 処理 ・ プロファイル・セグメント ・ カスタム属性 <p>例: 「レポート基準」で、「リスク評価」を選択した場合、次の値が表示されます:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高 ・ 中 ・ 低 <p>注:</p> <p>値が割り当てられていないAccount Reconciliation Manager属性には、「未割当て」と表示されます。</p>
合計	調整の数。表示される値は、最初の列のメンバー・リストに関連付けられています。
保留中	合計の調整数のうち、保留中の調整の数。
オープン	合計の調整数のうち、オープンの調整の数。
クローズ済	合計の調整数のうち、クローズ済の調整の数。

列の詳細	説明
実際の完了	合計の調整数に対するクローズ済の調整のパーセンテージ値。 計算式: クローズ済の調整数/調整の合計数
プラン完了	合計の調整数に対するクローズ予定の調整のパーセンテージ。 計算式: クローズ予定の調整数/調整の合計数。
条件	プラン完了と実際の完了のデータの差が、インディケータにより示されます。

カラー・コードは、プラン完了と実際の完了のデータの差に基づいて、調整の状態を表します。例:

- 
 緑は、指定された期間内に調整が正常に処理されていることを示します。デフォルトで、緑はプラン完了と実際の完了のデータの差が3以内であることを示します。
- 
 は、調整に注意を払う必要があることを示します。デフォルトで、黄色はプラン完了と実際の完了のデータの差が3より大きく、10未満であることを示します。
- 
 赤は、実際の完了がプラン完了から大幅に逸脱していることを示します。デフォルトで、赤はプラン完了と実際の完了のデータの差が10以上であることを示します。




注:

定義されたカラー・インディケータおよびしきい値を変更できるのは管理者のみです。

パフォーマンス分析

パフォーマンス分析レポートは、コンプライアンス・メトリックや業務効率メトリックに従って、組織がどの程度順調に運用されているかを把握する際に役立ちます。このレポートを使用して、勘定科目調整プロセスのパフォーマンスを分析します。

 Performance Analysis

View Percentage ▾

Risk Rating	On Time(%)	Auto Reconciled(%)	Without Warnings(%)	Without Adjustments(%)	Ever Been Late(%)	Rejection [△] ▾
High	95%	0%	98%	100%	5%	0
Low	100%	0%	99%	100%	0%	0
Unassigned	48%	6%	100%	90%	52%	0

[Refresh](#) - [Export](#)

表25 パフォーマンス分析レポートの詳細

レポート・プロンプトの詳細	説明
表示	<p>このオプションを使用すると、「数値」または「パーセンテージ」(デフォルト)のフォーマットで調整数を表示できます。たとえば、選択内容を「数値」から「パーセンテージ」に変更すると、レポートはパーセンテージの値で表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「パーセンテージ」の選択に基づいて、列見出しが対応して変更されます。 「数値」の選択に基づいて、列見出しが対応して変更されます。 <p>注:</p> <p>パーセンテージは、パーセント記号(%)を使用して表されます。</p> <p>数値は、数値記号(#)を使用して表されます。</p>

表26 パフォーマンス分析レポートには、次の情報が表示されます:

列の詳細	説明
ダッシュボード・プロンプト内の「レポート基準」の選択に基づいて列見出しが表示されます。	<p>列見出しは、次に示すレポート基準オプションのいずれでもかまいません:</p> <ul style="list-style-type: none"> リスク評価 勘定科目タイプ 処理 プロファイル・セグメント カスタム属性 <p>例: 「レポート基準」オプションから「リスク評価」を選択した場合は、列に次の値が表示されます:</p> <ul style="list-style-type: none"> 高 中 低 <p>注:</p> <p>値が割り当てられていないAccount Reconciliation Manager属性には、「未割当て」と表示されます。</p>
予定どおり	スケジュールされた期限までに完了された調整の数。計算方法: 予定どおりの調整の合計数/調整の合計数。
自動調整済	正常に自動調整された調整の数。計算方法: 自動調整を使用した調整の合計数/調整の合計数
警告なし	警告が含まれない調整の数。警告は、貸方残高が見込まれる場合に借方残高が存在する場合(あるいはその逆)、

列の詳細	説明
	または取引の期間が過剰に経過している場合など、調整にリスクがあることが示唆されている場合に表示されます。 計算方法: 警告なしの調整の合計数/調整の合計数
調整なし	ソース・システムまたはサブシステムに対する調整が含まれない調整の数。
これまでの遅れ	完了が遅れた調整の数(割り当てられた期限後に行われた準備または確認)。
拒否	発生した拒否の数(複数回拒否された調整は、拒否されるたびに1回カウントします)。

トレンド分析

トレンド分析レポートには、パフォーマンス・メトリックに関する傾向の履歴が一度に1つ表示されます。折れ線グラフで表されるレポートには、「表示」レポート・プロンプト(ドロップダウン・リスト)と、POVセクション・プロンプトの「レポート基準」の選択に基づいて傾向が表示されます。

Trending Analysis



表27 トレンド分析レポートの詳細

レポートの詳細	説明
表示(レポート・プロンプト)	レポートの列見出しを表示できます。次のオプションから選択します: <ul style="list-style-type: none"> • 予定どおり - スケジュールされた期限までに完了された調整の値(デフォルト)。 • 自動調整済 - 正常に自動調整された調整の値。 • 警告なし - 警告が含まれない調整の値。警告は、貸方残高が見込まれる場合に借方残高が存在する場合、ま

レポートの詳細	説明
	<p>たは古い取引の場合など、調整にリスクがあることが示唆されている場合に表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 調整なし - ソース・システムまたはサブシステムに対する調整が含まれない調整の値。 これまでの遅れ - 調整プロセスが遅れている調整の値。これは、完了が遅れた調整の数を表示します(割り当てられた期限後に行われた準備または確認)。 拒否 - 拒否された調整の値。これにより、発生した拒否の数が表示されます(複数回拒否された調整は、拒否されるたびに1回カウントします)。 <p>注:</p> <p>パーセンテージは、パーセント記号(%)を使用して表されます。</p> <p>数値は、数値記号(#)を使用して表されます。</p>
値	y軸には、レポート・プロンプトの「表示」の選択に基づいた値が表示されます。
期間	x軸には、過去12か月の傾向が表示されます。グラフにリストされる期間は、POV選択に基づきます。

プロ・フォーマ試算表および調整分析ダッシュボード・ページ

このダッシュボード・ページでは、試算表および調整をモニターできます。このページには、次のレポート情報が表示されます:

- 70ページの見積もり試算表
- 71ページの調整分析

プロ・フォーマ試算表および調整分析ダッシュボード・ページの視点の設定

このセクションでは、リストから必要なPOVメンバーを選択でき、Account Reconciliationダッシュボードのすべてのレポートが、この選択内容の影響を受けます。視点(POV)セレクトから、レポートを表示する必要なPOVメンバーを選択します。

▶ プロ・フォーマ試算表および調整分析ダッシュボード・ページの視点を設定するには:

1. リストからPOVディメンション・メンバーを選択します:

- 期間
- ステータス
- 通貨

- ・ 経過期間プロファイル
2. 「適用」をクリックすると、ダッシュボード・ページに変更が表示されます。
 3. オプション: 次のいずれかのアクションを実行するには、「リセット」をクリックします:
 - ・ 最後に適用した値にリセット
 - ・ デフォルト値にリセット
 - ・ すべてクリア

見積もり試算表

このレポートを使用して、勘定科目残高の調整の影響をモニターします。レポートには試算表が表示され、ソース・システムと調整の間の調整残高が評価されます。

勘定科目タイプは階層形式であるため、レポートでは、勘定科目タイプごとに値が集計されます。



Pro Forma Trial Balance

Account Type	Per Source System	Adjustment	Adjusted Balance
Asset	13456763	4647	13452116
Liability	754688	2139	752549
Contra Asset	4678912	600	4678312

[Refresh](#) - [Print](#) - [Export](#)

表28 セクション・プロンプトの詳細:

セクション・プロンプトの詳細	説明
通貨バケット(レポート・ラベル)	通貨バケットでは、レポートする値の種類を定義します。通貨バケットには、「入力済」、「機能」および「レポート」があります。通貨バケットは、Account Reconciliation Managerで構成されます。
レート・タイプ(レポート・ラベル)	レートは、ある通貨を別の通貨に換算する際に使用する乗算係数を定義します。 レート・タイプは、同じ通貨ペアに対する様々なレート・レコードを示します。 Account Reconciliation Managerには、外国通貨レート(FXレート)がロードされています。このレポート・ラベルには、OFMA構成ユーティリティで行われた「レート・タイプ」の選択内容が表示されます。
通貨(ダッシュボード・プロンプト)	通貨バケットに関連付けられている通貨リストが表示されます。レポートの値は、選択された通貨のドロップダウン・リストに表示されます。 例: 「通貨」ドロップダウンをUSドル(\$)からユーロ(€)に変更すると、レポートの値は€ユーロで表示されます。

セクション・プロンプトの詳細	説明
	<p>単一通貨の場合は、通貨バケットのデフォルト設定でリストに通貨が表示されます。</p> <p>複数通貨の場合、通貨リストには、OFMA構成ユーティリティで選択された「レート・タイプ」に対して、換算レートが設定されている使用可能な通貨のみが表示されます。</p>
経過期間プロファイル(ダッシュボード・プロンプト)	Account Reconciliation Managerモジュールから取得された経過期間プロファイル・リストが表示されます。経過期間プロファイルは、調整分析ダッシュボードで使用されている経過期間バケットを特定します。

表29 見積もり試算表レポートには、次の情報が表示されます:

列の詳細	説明
勘定科目タイプ	<p>勘定科目のタイプで、次のような階層構造に従ってリストされます:</p> <ul style="list-style-type: none"> • 資産 <ul style="list-style-type: none"> ○現金 ○投資 <ul style="list-style-type: none"> ▪ 短期 ▪ 長期 • 負債 <ul style="list-style-type: none"> ○買掛金 ○支払手形 • 資本 <p>レポートでは、勘定科目タイプごとに値が集計されます。</p>
ソース・システム当たり	調整に関連付けられているソース・システムの残高の値。これらの値は、勘定科目タイプごとに集計されます。
調整	調整に関連付けられているソース・システムの取引に対する調整の値。これらの値は、勘定科目タイプごとに集計されます。
調整済残高	調整に関連付けられている調整済残高の値。これらの値は、勘定科目タイプごとに集計されます。計算方法: 調整済残高 = ソース・システム当たりの値 - 調整値。

調整分析

このレポートを使用して、調整をモニターします。

調整分析レポートは、「プロ・フォーマ試算表」レポートで行われた「勘定科目タイプ」の選択に基づきます。例: 見積もり試算表レポートで現金勘定科目タイプを選択すると、調整分析レポートに対応する調整の詳細が表示されます。

このレポートはバブル・グラフです:

- y軸には、すべての調整値の合計が表示されます。
- x軸には開始日が表示されます。
- バブルのサイズは、調整件数を表します。



表30 調整分析グラフ - レポートの詳細

レポートの詳細	説明
経過期間プロファイル	経過期間プロファイルの選択内容に関連付けられた経過期間バケットが表示されます。
通貨	<p>通貨バケットに関連付けられている通貨リストが表示されます。レポートの値は、リストで選択された通貨で表示されます。</p> <p>例: 「通貨」リストをUSドル(\$)からユーロ(€)に変更すると、レポートの値はユーロ(€)で表示されます。</p> <p>単一通貨の場合は、通貨バケットのデフォルト設定でリストに通貨が表示されます。</p> <p>複数通貨の場合、通貨リストには、OFMA構成ユーティリティで選択されたレート・タイプに対して、換算レートが設定されている使用可能な通貨のみが表示されます。</p>
勘定科目タイプ	選択した期間の調整に関連付けられている勘定科目タイプのリストが表示されます。
ソース・システムに対する正味調整	y軸には、調整値の合計が表示されます。
開始日	x軸には開始日が表示されます。経過期間バケットの開始日にバブルが表示されます。

ユーザー・パフォーマンス・ダッシュボード・ページ

このページを使用して、現在の期間のARMアプリケーションの調整タスクに関するユーザーのパフォーマンスを表示します。

ユーザー・パフォーマンス・ダッシュボードの視点の設定

▶ 視点を設定するには:

1. リストから必要なPOVディメンション・メンバーを選択します:
 - 期間
 - 役割(オプション)
 - ユーザー数
 - ランク付け基準
2. 「適用」をクリックすると、ダッシュボード・ページに変更が表示されます。
3. オプション: 次のいずれかのアクションを実行するには、「リセット」をクリックします:
 - 最後に適用した値にリセット
 - デフォルト値にリセット
 - すべてクリア

ユーザーの下位リスト

このレポートを使用して、決算アクティビティが遅れているユーザーを表示します。

ユーザーのリストは、POVディメンションでの「ランク付け基準」および「ユーザー数」の選択に基づきます。

「ランク付け基準」オプションには、次の項目が含まれています:

- 調整
- 調整%
- 合計日数
- 拒否

例: 「ランク付け基準」オプションから、実行が遅れている調整のパーセンテージ値に基づいて「調整%」を選択した場合、それぞれのユーザーのリストがレポートに表示されます。

Name	Reconciliation Late	% Reconciliation Late	Total Days Late	Rejections
preparer user1	1	100	113	1
preparer user2	1	100	0	1
reviewer user1	1	50	111	0
reviewer user2	1	50	109	0
reviewer user3	1	50	107	0

[Refresh](#) - [Export](#)

表31「ユーザーの下位リスト」レポートには、次の情報が表示されます:

列の詳細	説明
名前	ユーザー名が表示されます。
遅延調整	実行が遅れている調整の数
遅延調整%	遅れている調整のパーセンテージ
合計遅延日数	調整が遅れている日数。
拒否	発生した拒否の数(複数回拒否された調整は、拒否されるたびに1回カウントされます)。

ユーザーの上位リスト

このレポートを使用して、迅速に決算アクティビティを実行するユーザーを表示します。

ユーザーのリストは、POVディメンションでの「ランク付け基準」および「ユーザー数」の選択に基づきます。

「ランク付け基準」オプションには、次の項目が含まれています:

- 調整
- 調整%
- 合計日数
- 拒否

例: 「ランク付け基準」オプションから、スケジュールより早い調整のパーセンテージ値に基づいて「調整%」を選択した場合、それぞれのユーザーのリストがレポートに表示されます。

Name	Reconciliation Early	% Reconciliation Early	Total Days Early	Rejections
reviewer user1	1	50	2	0
reviewer user2	1	50	4	0
reviewer user3	1	50	6	0
preparer user1	0	0	0	1
preparer user2	0	0	0	1

[Refresh](#) - [Export](#)

表32「ユーザーの上位リスト」レポートには、次の情報が表示されます:

列の詳細	説明
名前	ユーザー名
早期完了調整	スケジュールより早い調整の数。
早期完了調整%	スケジュールより早い調整のパーセンテージ。
合計早期日数	事前に調整が完了した日数。
拒否	発生した拒否の数(複数回拒否された調整は、拒否されるたびに1回カウントされます)。

ユーザー傾向

ユーザー傾向レポートでは、各ユーザーの情報は異なる色で示されています。色の上にカーソルを置くと、その期間にユーザーによる実行が遅れている調整の数が表示されます。ユーザー傾向レポートは、策定者、レビュー担当者またはその両方などのユーザー役割に基づいています。

ユーザーのリストは、POVディメンションでの「ランク付け基準」および「ユーザー数」の選択に基づいて、自動的に移入されます。

「ランク付け基準」オプションには、次の項目が含まれています：

- 調整
- 調整%
- 合計日数
- 拒否

例：「ランク付け基準」オプションから、実行が遅れている調整のパーセンテージ値に基づいて「調整%」を選択した場合、それぞれのユーザーがレポートに表示されます。

下位リストのユーザー傾向

この傾向レポートを使用すると、決算アクティビティが遅れているユーザーのリストを表示できます。

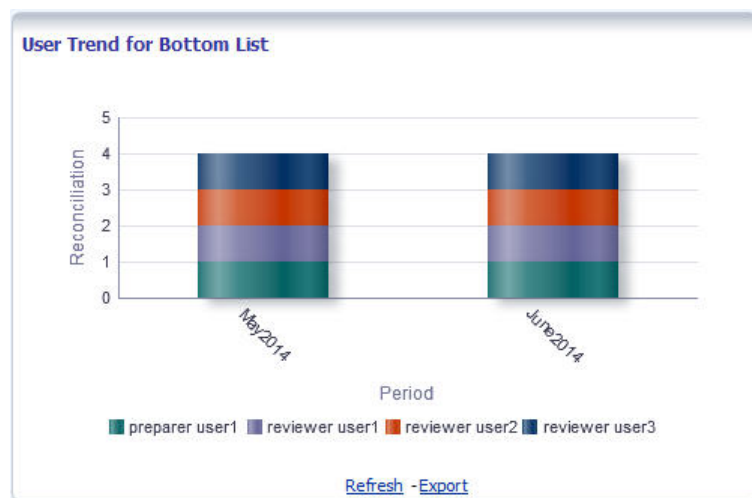


表33 ユーザー傾向の下位リスト・レポート

レポートの詳細	説明
調整の数	y軸に表示されます
期間	x軸に表示されます

上位リストのユーザー傾向

この傾向レポートを使用すると、比較的迅速に決算アクティビティを終了しているユーザーのリストを表示できます。



表34 ユーザー傾向の上位リスト・レポート

レポートの詳細	説明
調整の数	y軸に表示されます
期間	x軸に表示されます

5

Tax Provisionダッシュボード

この項の内容:

Tax Provisionの起動ページ	77
Tax Provisionダッシュボードの視点の設定	78
有効税率ダッシュボード	79
課税損失および評価引当金ダッシュボード	82
キー・パフォーマンス・インディケータ	85

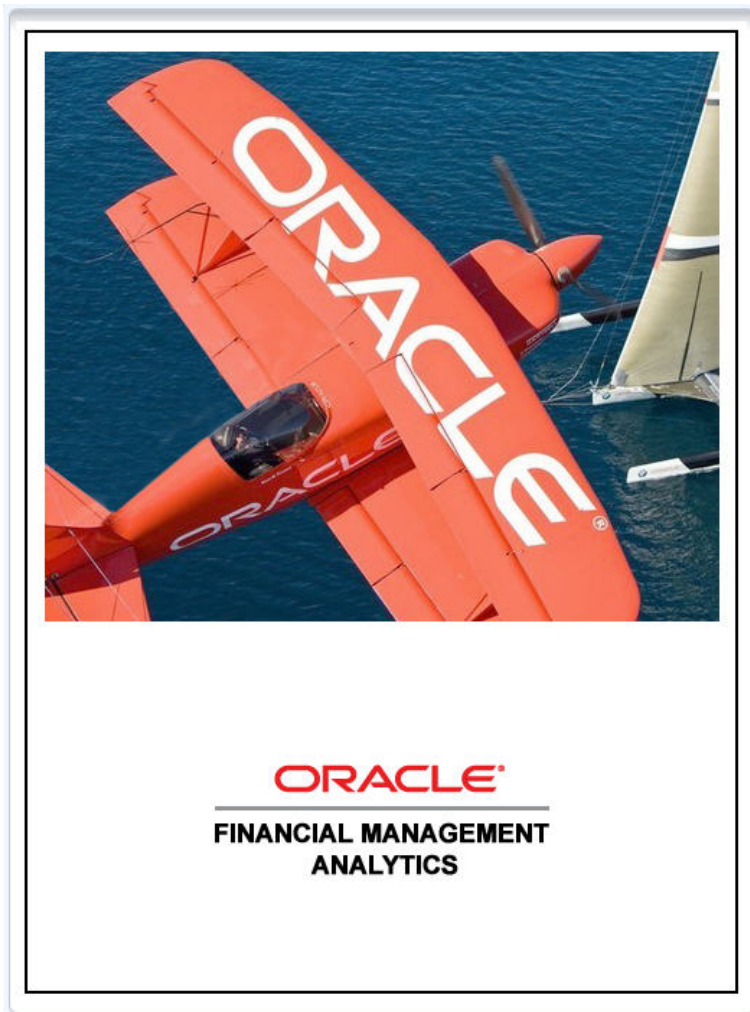
Tax Provisionダッシュボードを使用して、企業のグローバルな税引当、有効税率、繰延税金の詳細に関する全体的な状況を表示します。ダッシュボードの数量情報を参照して、現在の年に関する企業の税引当を分析し、異なる地域全体にわたってTaxのデータをスライスできます。データに基づいて、明確な対応を取ることができます。

次のような税インディケータを追跡できます: 現在の税金費用vs合計税金費用、合計税金費用vs収益合計、および合計税金費用vs支出合計。

Tax Provisionダッシュボードの情報は、Financial Management (HFM)を使用して作成されたTax Provisionアプリケーションから取得されます。

Tax Provisionの起動ページ

Tax Provisionの起動ページにはアイコンおよびURLが含まれており、これを使用すると、ダッシュボード・ページに簡単にアクセスできます。



Effective Tax Rate

Analysis of Effective Tax Rate by region and trend.



Tax Losses and Valuation Allowance

Analysis of Tax Losses from origination through expiration and Valuation allowance by region.



Key Performance Indicators

Analysis of key tax performance indicators such as current, deferred and total tax expense.



Help

Access the User Guide.

Tax Provisionの起動ページから、次のダッシュボード・ページを起動できます:

- 79ページの有効税率ダッシュボード
- 82ページの課税損失および評価引当金ダッシュボード
- 85ページのキー・パフォーマンス・インディケーター

Tax Provisionダッシュボードの視点の設定

▶ 視点を設定するには:

1. ダッシュボード・プロンプトから、POVディメンションを選択します:
 - 年
 - 期間
 - 通貨
 - シナリオ
 - 標準
2. 「適用」をクリックすると、ダッシュボード・ページに変更が表示されます。
3. オプション: 次のいずれかのアクションを実行するには、「リセット」をクリックします:

- 最後に適用した値にリセット
- デフォルト値にリセット
- すべてクリア

有効税率ダッシュボード

このダッシュボード・ページを使用して、様々な地域の税データをモニターします。このページには、次のレポート情報が表示されます:

- [79ページの地域別ETR \(有効税率\)](#)
- [80ページのETR - 実績vs計画](#)
- [81ページの現金課税ETR](#)

地域別ETR (有効税率)

有効税率レポートを使用すると、様々な地域の税データを簡単に評価できます。様々な地域の有効税率を表示し、同じものを法定税率と比較できます。

水平の棒グラフを使用して、**有効税**と**法定税**の値の差を比較します。水平棒の上にカーソルを置いて、その地域の税の値を表示します。y軸に表示される地域は、構成ユーティリティで行う選択内容に基づきます。



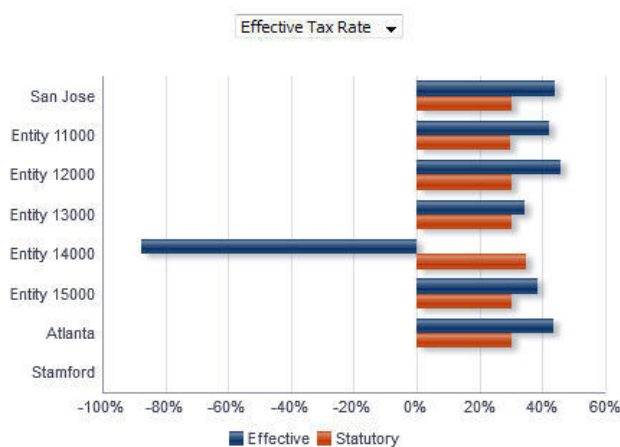
注:

法定税率は、リーフ・エンティティなど、より低いレベルのエンティティ構造にのみ適用します。

凡例はレポートの下部にあり、次の情報が表示されます:

- 青い水平棒は有効税の値を表します
- 赤い水平棒は法定税の値を表します

ETR By Region



[Refresh](#) - [Print](#) - [Export](#)

表35 地域別ETRには、次の情報が表示されます:

レポートの詳細	説明
レポート・プロンプト	次のいずれかのオプションを選択するためのドロップダウン・メニューです: <ul style="list-style-type: none"> 有効税率 法定税率 注: このレポートでは、レポート・プロンプトを変更した場合、そのレポートの変更が表示されます。
税の値	税の値はx軸に表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> 有効税率は、パーセンテージ値(%)で表示されます 法定税率は、数値で表示されます
地域	構成ユーティリティで選択された地域は、y軸に表示されます。

ETR - 実績vs計画

このレポートを使用して、ダッシュボード・プロンプトで選択された年の有効税率(ETR)と計画有効税率(ETR)を比較できます。このレポートには、ダッシュボードのPOVにおける年の選択に基づいて全四半期の傾向の値が表示され、前の年のデータも表示されます。

様々な地域の有効税率(ETR)と計画有効税率(ETR)の値を表示できます。そのため、次の年の実行計画を最適化し、計画有効税率(ETR)が大幅に改善される地域を識別できます。



注:

レポート名は、ダッシュボードのPOVにおけるシナリオの選択に基づきます。例: 「シナリオ」ドロップダウン・リストから、「確認」を選択して「適用」をクリックすると、レポート名は**ETR - 確認vs計画**に変更されます。



注:

Oracle Financial Management Analyticsの構成ユーティリティを使用して実績vs計画のシナリオを構成できるのは、管理者のみです。

ETR - Actual Vs Plan

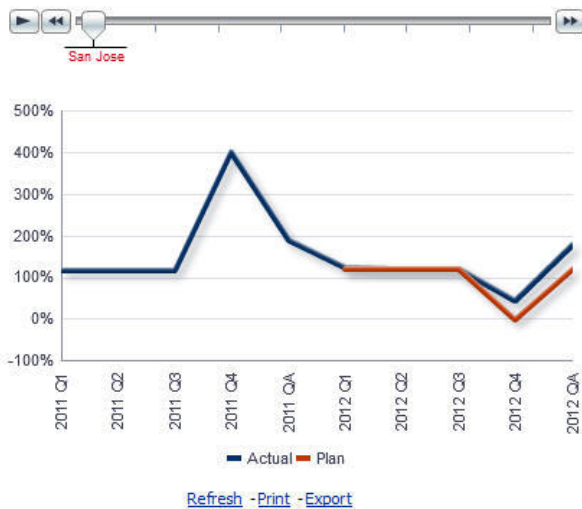


表36 ETR - 実績vs計画レポートには、次の情報が表示されます:

レポートの詳細	説明
セクション・スライダ	セクション・スライダをある地域から別の地域に動かすと、レポートに別の地域のデータが表示されます。地域リストは、長方形のバーと一緒に表示されます。 21ページのグラフでのセクション・スライダの使用 を参照してください。
パーセンテージ値	ETRの値はy軸に表示されます。
期間	x軸には、ダッシュボードのPOVにおける年の選択に基づいて全四半期の傾向のデータが表示され、前の年のデータも表示されます。レポートには、4つすべての四半期と四半期調整(QA)のデータが表示されます。

現金課税ETR

企業は、現在の期間、次以降の期間というように、分割して税金を支払います。

このレポートを使用すると、現在の期間の総所得における現在の税引当が、地域にわたって表示されます。現在の年を含む、過去3年間の傾向値を比較できます。情報は、ダッシュボードのPOVにおける年の選択に基づいて表示されます。

垂直の棒の上にカーソルを置くと、その地域の税の値が表示されます。x軸に表示される地域は、構成ユーティリティで行われた選択内容に基づきます。

凡例はレポートの下部にあり、ダッシュボードのPOVで行われた現在の年の選択を含め、過去3年間にわたる傾向の値が表示されます。

たとえば、ダッシュボード・プロンプトの「年」 = **2012**とすると、対応する凡例は次のように表示されます:

- 青い棒は2010年を表します。
- 赤い棒は2011年を表します。
- 紫の棒は2012年を表します。

Cash Tax ETR

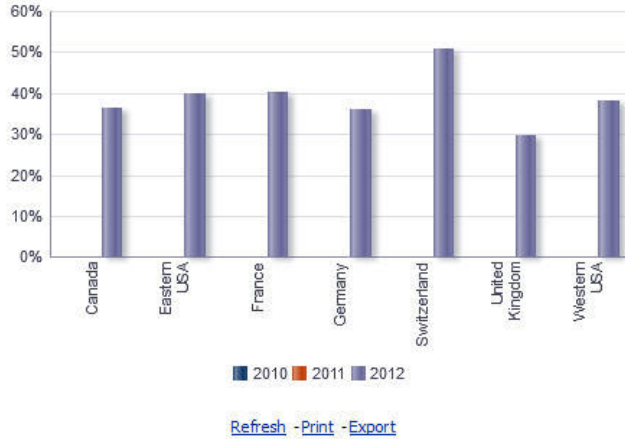


表37 現金課税ETRLレポートには、次の情報が表示されます:

レポートの詳細	説明
税の値(%)	税の値のパーセンテージはy軸に表示されます。
地域	構成ユーティリティで選択された地域は、x軸に表示されません。

課税損失および評価引当金ダッシュボード

次の項では、「課税損失および評価引当金」レポートについて説明します。

課税損失

すべての会社では損失が発生し、この損失は全体的な課税額を低減するために使用されます。会社が連邦政府にこれらの損失の記録を示すと、支払う有効税が低減されます。

このレポートでは、生成された年と有効期限の年を含め、課税損失の詳細が取得されます。

このレポートは、ウォーターフォール・グラフ(浮動棒グラフ)で表されます。レポートには、初期値がどのように増減したかが、最後の値へとつながる一連の中間値によって表示されます。

凡例は、レポートの右下隅に表示されます:

- 緑の列は増加値を表します。

- ・ オレンジの列は減少値を表します。
- ・ 青の列は合計課税損失値を表します。

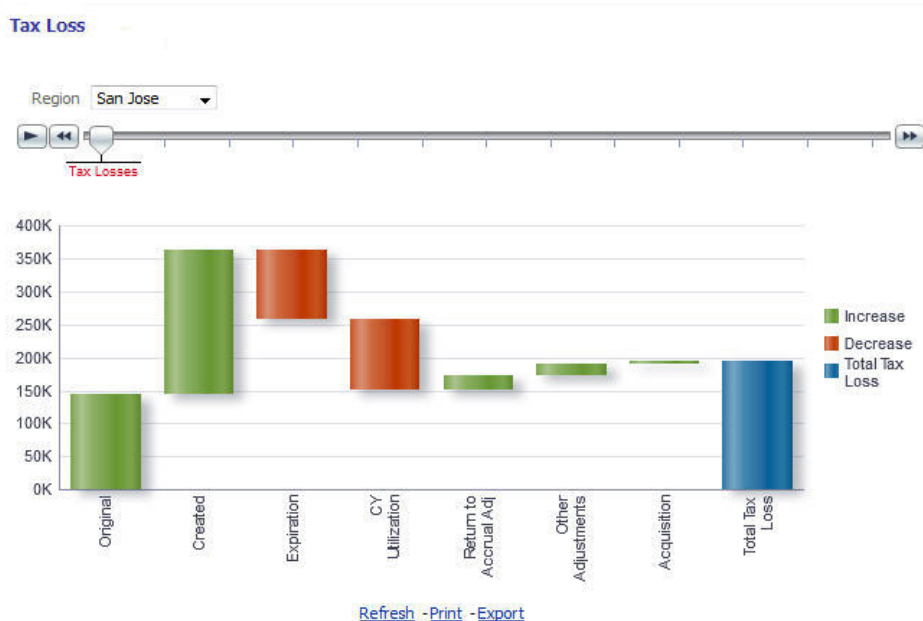


表38 課税損失残高のロールフォワード

課税損失	説明
元の損失	元の損失額で、前の期間から計算されます
作成	現在の年の課税損失額で、繰延税金や現在の引当金から計算されます
有効期限	現在の年で期限が切れるよう設定された税で、有効期限の年列に基づいて計算されます。値はシステムで自動的に計算されます。
現在の年の使用率	現在の期間に使用される課税損失で、現在の引当金に振り替えられます
繰延調整への返還	税金還付の充てん結果として、繰延調整に返還するために現在の期間で調整される課税損失
その他の調整	その他の調整のために、現在の期間で調整される課税損失
合計課税損失	繰越可能な課税損失

表39 課税損失レポートには、次の情報が表示されます:

レポートの詳細	説明
セクション・スライダ	セクション・スライダをあるデータ・カテゴリから別のデータ・カテゴリに動かすと、レポートに別のデータ・カテゴリの税データが表示されます。データ・カテゴリ・リストは、長方形のバーと一緒に表示されます。

レポートの詳細	説明
	21ページのグラフでのセクション・スライダの使用 を参照してください。
地域	課税損失レポートで、「地域」ドロップダウン・リスト(レポート・プロンプト) ¹ を変更すると、対応する変更がレポートに表示されます。
税の値	税の値はy軸に表示されます。
ロール・フォワード・メンバー	ロールフォワード・メンバーはx軸に表示されます。

¹レポート・プロンプトとは、レポートのすべてのコンテンツに影響するレポート・フィルタ・オブジェクトです。

評価引当金合計

評価引当金には、投資の損失、未回収勘定の見積もり額、および固定資産の減価償却が含まれます。

このレポートは、連邦政府が評価引当金合計の詳細の確認を、企業に明示的に要求できる国でのみ使用できます。

このレポートは円グラフで表され、構成ユーティリティから選択された特定地域の全体的な評価引当金の情報が含まれます。

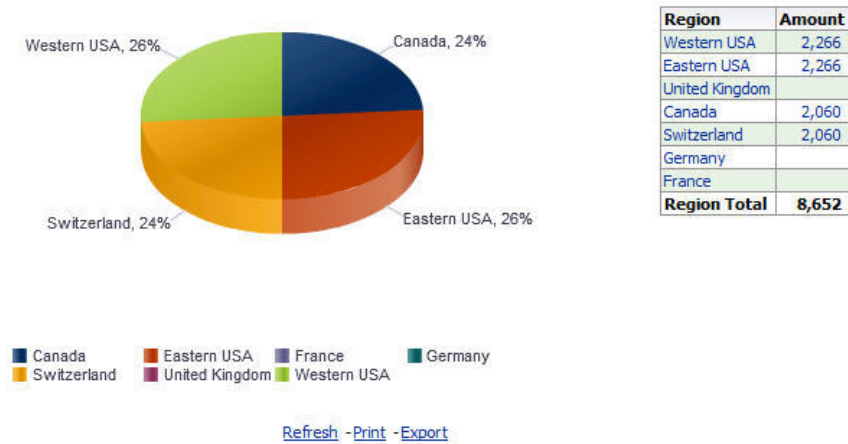
表40 評価引当金合計レポートには、次の情報が表示されます:

レポートの詳細	説明
円グラフの扇形	構成ユーティリティで選択された地域は、円グラフに表示されます。
値	各地域の評価引当金合計データのパーセンテージ値が表示されます。各地域のパーセンテージは、次の式に基づいて計算されます: [特定地域のデータ/すべての地域の合計値]。

表41 評価引当金合計の表の情報

表の情報	説明
地域	円グラフの扇形内に地域を表示します
金額	各地域の値が表示されます

Total Valuation Allowance



キー・パフォーマンス・インディケータ

次の項では、「税KPI」レポートおよび「税KPI傾向」レポートについて説明します。

税KPI

各KPIはゲージで表され、そのゲージの円周に沿ってメトリック値が示されます。円周は、異なる範囲の値に分割され、別々の色で表されています。ゲージ内の針が1つのデータ・ポイントを指し、KPI値がボックスに表示されます。ダッシュボードのこのセクションには、次の3つのレポートが表示されます：

- 現在の税金vs合計税金
- 合計税金vs収益合計
- 合計税金vs支出合計

レポートの下部にある凡例には、特定範囲のメトリックに関連付けられたカラー・コードに関する情報が表示されます。例：

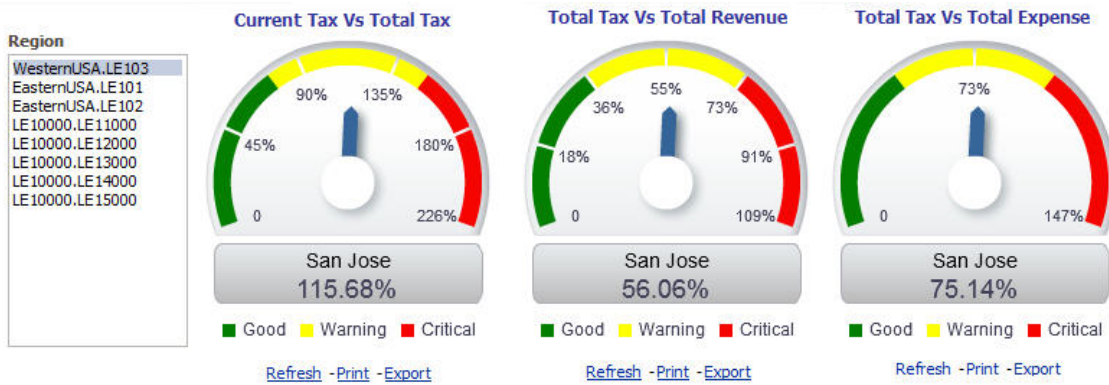
- 赤はクリティカルを示します
- 黄色は警告を示します
- 緑は良好であることを示します



注：

管理者は、ビジネス要件に基づいて、これらのKPIのそれぞれに差異の範囲を設定する必要があります。

定義された差異の範囲を変更できるのは管理者のみです。『Oracle Hyperion Financial Management管理者ガイド』のOracle Financial Management Analyticsのカスタマイズに関する項を参照してください。



注:

「税KPI」レポートでリスト項目から地域を選択すると、3つすべてのKPIが対応して変更されます。

税KPI傾向

このレポートには、Taxアプリケーションに定義されている税勘定科目に関するキー・パフォーマンス・インディケータの傾向が表示されます。表示されるデータは、税KPI傾向レポートで行われた税勘定科目の選択内容に基づきます。
例: 勘定科目リストから「税金合計」を選択すると、税KPI傾向レポートに対応する傾向の詳細が表示されます。ダッシュボードのPOVにおける年の選択に基づいて、レポートには、4つの四半期と前の年の税データが表示されます。



注:

このレポートには、四半期調整(QA)のデータは表示されません。

レポートには、次の税勘定科目の傾向が表示されます:

- NIBT - 税引前純利益
- 税金合計
- 現在の税金
- 繰延税金



Tax KPI Trend

Account

- NIBT
- Total Tax
- Current Tax
- Deferred Tax

Region	2011				2012			
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4
Atlanta					-20,598	-20,598	-20,598	1,085,330
> Entity 10000	-47,675	-47,675	-47,675	-57,647,606	9,970,527	0	0	473,305,323
> Entity 11000	-47,675	-47,675	-47,675	-21,120,089	9,922,903	11,022,090	11,022,090	128,386,615
> Entity 11100	-47,675	-47,675	-47,675	-4,285,913	1,912,157	2,129,345	2,129,345	26,296,568
Entity 11112				-171,777	81,742	90,742	90,742	1,050,975
San Jose	-47,675	-47,675	-47,675	-163,258	-49,658	-48,470	-48,470	1,093,124
Stamford								

[Refresh](#) - [Print](#) - [Export](#)

表42 税KPI傾向 - レポートの詳細

レポートの詳細	説明
勘定科目	税KPI傾向レポートで「勘定科目」リストの項目を変更すると、 税KPI傾向 レポートが対応して変更されます。
地域	「地域」列で▶をクリックすると、選択した地域の階層を表示できます。表示される各地域は、構成ユーティリティでの「地域」の選択に基づいています。
年	ダッシュボードのPOVに基づいて、選択された年とその前の年が表示されます。

6

EPMワークスペース内 のOracle Financial Management Analyticsの統合

この項の内容:

[HFMからのOracle Financial Management Analyticsへのアクセス](#) 89

Oracle Financial Management Analyticsは、Oracle Hyperion Enterprise Performance Management ワークスペース内で使用できます。このリリースでは、EPMワークスペースで作成された、アプリケーションのOracle Financial Management Analyticsダッシュボードおよびレポートの表示のみが可能になります。例: サンプル・アプリケーションのダッシュボードおよびレポートを表示できます。『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspaceユーザーガイド』を参照してください。

HFMからのOracle Financial Management Analyticsへの アクセス

このリリースでは、EPMワークスペース環境でFinancial ManagementからAnalyticsのURLにアクセスできます。この機能によって、EPMワークスペース環境内のFinancial Managementで作成された、アプリケーションのOracle Financial Management Analyticsダッシュボードおよびレポートの表示のみが可能になります。例: サンプル・アプリケーションのダッシュボードおよびレポートを表示できます。

EPMワークスペース環境のFinancial Management内で、Oracle Financial Management Analyticsにアクセスできます。



注:

OFMAダッシュボードにアクセスする適切な権限と役割がユーザーにあることを確認する必要があります。EPMワークスペース内のOFMAダッシュボードにアクセスするには、ユーザーは「ダッシュボード・ビューア」の役割を持っている必要があります。エラー・メッセージが表示される場合は、システム管理者に問い合わせてください。



注:

構成ユーティリティを使用している場合、「分析」オプションが有効になっていることを確認してください。

詳細は、Oracle Financial Management Analytics管理者ガイドを参照してください。

▶ Financial Management Workspace内のOracle Financial Management Analyticsにアクセスするには:

1. ブラウザで、EPMワークスペースのURLを入力します: `http://web server:port number/workspace/`

URLの形式は次のとおりです: `http://server name:port number/workspace`

ここで:

- `web server`は、Webサーバーをホストするコンピュータの名前です。
- `port number`は、Webサーバーのポート番号です。例: 19000。
- `workspace`は、仮想ディレクトリ・セットです。



注:

すべてのHFMユーザーが、EPMワークスペースにログオンしたり、**Analytics**にアクセスできるわけではありません。EPMワークスペース内のOFMAダッシュボードにアクセスするには、ユーザーは「ダッシュボード・ビューア」の役割を持っている必要があります。

-
2. EPMワークスペースのWebページで、Financial Management管理者のユーザー名およびパスワードを入力します。



注:

ユーザー名とパスワードは大/小文字が区別されます。

-
3. 「ログオン」をクリックします。
 4. EPMワークスペースで、「ナビゲート」、「アプリケーション」、「連結」の順に選択し、開くアプリケーションを選択します。



注:

OFMAダッシュボードおよびレポートを表示するアプリケーションを開きます。

-
5. 「連結」、「分析」の順に選択して、そのアプリケーションのOFMAダッシュボードおよびレポートを表示します。



注:

ダッシュボードの詳細は、*Oracle Financial Management Analytics管理者ガイド*を参照してください。



追加情報

この項の内容:

[関連ドキュメント](#) 91

この付録では、Oracle Financial Management Analyticsのドキュメントで扱われていない重要な情報を提供します。

関連ドキュメント

Oracle Financial Management Analyticsでは、Oracle BI EE機能を使用して、リポジトリおよびカタログの管理など、多くのタスクを実行します。Oracle BI EEのドキュメントはすでに入手可能で、Oracle Financial Management Analyticsのドキュメントで扱われていない情報に対応しています。このガイドと併用するため、このOracle BI EEドキュメントへの相互参照を適宜行っています。

表43 関連ドキュメント

関連ドキュメント	リファレンス・ガイド
Oracle BI EE	次のドキュメントを参照してください: <ul style="list-style-type: none">• Oracle BI EEのインストールについては、<i>Oracle Fusion Middleware Oracle Business Intelligence Enterprise Edition</i> インストレーションおよびアップグレード・ガイドを参照してください。• Oracle BI EEの構成については、<i>Oracle Fusion Middleware Oracle Business Intelligence Enterprise Edition</i> システム管理者ガイドを参照してください。• Oracle BI EEの統合については、<i>Oracle Fusion Middleware Oracle Business Intelligence Enterprise Edition</i> インテグレータ・ガイドを参照してください• アクセシビリティ機能については、<i>Oracle® Fusion Middleware Oracle Business Intelligence Enterprise Edition</i> ユーザー・ガイド 11g リリース1 (11.1.1)の付録Cを参照してください• BIサーバーについては、<i>Oracle(R) Fusion Middleware Oracle Business Intelligence Enterprise Edition</i> インテグレータ・ガイド 11g リリース1 (11.1.1)を参照してください

関連ドキュメント	リファレンス・ガイド
	<ul style="list-style-type: none"> • BI管理ツールについては、『Oracle(R) Fusion Middleware管理者ガイド 11g リリース1 (11.1.1)』を参照してください • BIプレゼンテーション・サービスについては、Oracle(R) Fusion Middleware Oracle Business Intelligence Enterprise Edition開発者ガイド 11g リリース1 (11.1.1)を参照してください • Oracle BIプレゼンテーション・カタログについては、Oracle(R) Fusion Middleware Oracle Business Intelligence Enterprise Editionシステム管理者ガイドを参照してください • プレゼンテーション・レイヤーの作成およびメンテナンスについては、Oracle(R) Fusion Middleware Oracle Business Intelligence Enterprise Editionメタデータ・リポジトリ・ビルダー・ガイド 11g リリース1 (11.1.1)を参照してください。 • リポジトリ・ファイル(.rpd)の作成については、Oracle(R) Fusion Middleware Oracle Business Intelligence Enterprise Editionメタデータ・リポジトリ・ビルダー・ガイド 11g リリース1 (11.1.1)を参照してください。 • Oracle BI Mobileでのアプリケーションの構成については、Oracle Fusion Middleware Oracle Business Intelligence Mobileユーザー・ガイド11gリリースを参照してください
Oracle Hyperion Financial Management	<p>参照:</p> <ul style="list-style-type: none"> • 『Oracle Hyperion Financial Management, Fusion Editionユーザー・ガイド』 • 『Oracle Hyperion Financial Management, Fusion Edition管理者ガイド』 <p>リリース11.1.1.3については、次のリンクを参照してください: http://download.oracle.com/docs/cd/E12825_01/index.htm リリース9.3.xについては、次のリンクを参照してください: http://download.oracle.com/docs/cd/E10530_01/welcome.html</p>
Financial Close Management	<p>参照:</p> <ul style="list-style-type: none"> • Oracle Hyperion Financial Close Management管理者ガイド • Oracle Hyperion Financial Close Managementユーザー・ガイド

関連ドキュメント	リファレンス・ガイド
Oracle Hyperion Financial Data Quality Management	参照: <ul style="list-style-type: none"> • 『Oracle Hyperion Financial Data Quality Management管理者ガイド』 • ERP Integration Adapter for Oracle Applications管理者ガイド
Oracle Hyperion Tax Provision	参照: <ul style="list-style-type: none"> • Oracle Hyperion Tax Provision実装および管理者ガイド • Oracle Hyperion Tax Provisionユーザー・ガイド • Oracle Hyperion Tax Provision Readme

このドキュメントの範囲を超えたトピックに関してOracle Business Intelligence Enterprise Edition ドキュメントにアクセスするには、http://download.oracle.com/docs/cd/E10415_01/doc/nav/portal_booklist.htmでOracle Business Intelligence Suite Enterprise Editionのドキュメント・ライブラリを参照してください。

用語集

アクション	関連コンテンツへ移動したり、外部システムで操作、関数またはプロセスを起動する機能を提供します。アクションは、分析、ダッシュボード・ページ、エージェント、スコアカードの目標、スコアカードのイニシアティブおよびKPIに含めることができます。 「アクション・リンク」 も参照してください。
アクション・フレームワーク	アクション・フレームワークは、Oracle BI EEアーキテクチャのコンポーネントで、アクション実行サービス(AES)と呼ばれるJ2EEアプリケーションと、Oracle BI EEの一部としてデプロイされる、アクションに固有のJavaScript機能を含んでいます。アクション・フレームワークには、アクションの作成や特定のアクション・タイプをブラウザから直接起動するクライアント側の機能も含まれています。
アクション・リンク	分析、ダッシュボード・ページ、スコアカードの目標、スコアカードのイニシアティブまたはKPIに埋め込まれたアクションへのリンクで、クリックすると、関連付けられているアクションが実行されます。 「アクション」 も参照してください。
値階層	「親子階層」 を参照してください。
イニシアティブ	スコアカードで使用されます。イニシアティブは、目標を達成するために必要な、時間に固有のタスクまたはプロジェクトです。したがって、目標をサポートするイニシアティブを、戦略ターゲットに対する進捗を示すマイルストーンとして使用できます。 「目標」 および 「Oracle Scorecard and Strategy Management」 も参照してください。
イベント・ポーリング表	イベント・ポーリング表(イベント表とも呼ばれる)は、更新された物理表に関する情報をOracle BIサーバーに提供します。問合せキャッシュを最新に保つために使用されます。Oracle BIサーバー・キャッシュ・システムはイベント表をポーリングし、物理表の情報を行から抽出して、それらの物理表を参照する古いキャッシュ・エントリを削除します。
イメージ・プロンプト	特定の値がマップされた異なる領域のイメージを提供するプロンプト。ユーザーがイメージ領域をクリックすると、プロンプト値が選択され、分析またはダッシュボードに移入されます。 「プロンプト」 も参照してください。
エージェント	ビジネス・プロセスの自動化を可能にします。エージェントは、イベント駆動型アラート、スケジュールによるコンテンツの公開および条件付きイベント駆動型アクションの実行に使用できます。 エージェントは、情報ベースで問題と機会を動的に検出し、適切な通知対象ユーザーを判断し、そのユーザーに様々なデバイス(電子メール、電話など)で情報を配信します。
オブジェクト・プロパティ	オブジェクト、および所有者がオブジェクトに割り当てた属性に関する情報。プロパティの例には、名前、説明、日付スタンプ、読取り専用アクセス、インデックスなしフラグなどがあります。 「権限」 も参照してください。
オフライン・モード	Oracle BIサーバーにロードされていないリポジトリをリポジトリ作成者が編集できるOracle BI管理ツール内のモード。

親子階層	<p>タイプがすべて同じメンバーの階層。親子階層のディメンション・メンバーはすべて1つのデータ・ソースに存在します。親子階層では、メンバー間の関係は、ディメンション・メンバー間の親子関係です。</p> <p>「<i>ディメンション</i>」も参照してください。</p>
親子関係表	<p>親子階層でのメンバー間の関係を明示的に定義する値を持つ表。クロージャ表とも呼ばれます。</p>
オンライン・モード	<p>リポジトリを問合せ処理に使用すると同時にリポジトリ作成者が編集できる Oracle BI管理ツール内のモード。オンライン・モードでは、リポジトリ内のサブジェクト・エリアに接続しているユーザーのユーザー・セッション・モニタリングも可能です。</p>
階層	<p>1対多関係で相互に関連を持つ、Oracle BIリポジトリ内の論理ディメンションのレベルのシステム。すべての階層は共通のリーフ・レベルと共通のルート・レベルを持つ必要があります。</p> <p>階層は、メタデータでは個別のオブジェクトとしてモデル化されていません。かわりに、ディメンション・オブジェクトに暗黙的に含まれています。</p> <p>「<i>ディメンション</i>」、「<i>論理レベル</i>」および「<i>プレゼンテーション階層</i>」も参照してください。</p>
階層列	<p>名前付きレベルと親子関係の両方を使用して編成されたデータ値が含まれたプレゼンテーション・サービス内の列。この列は、ツリーのような構造を使用して表示されます。個々のメンバーは、下位メンバーが上位メンバーにまとめられて略示されます。たとえば、特定の日は特定の月に属し、特定の月は特定の年内にあります。時間や地域などがこの例です。</p>
階層レベル	<p>ロールアップしたり、他のレベルからロールアップされる、プレゼンテーション・サービスの階層列内のオブジェクト。Oracle BIリポジトリのプレゼンテーション・レベルに相当します。</p> <p>「<i>プレゼンテーション・レベル</i>」も参照してください。</p>
外部キー	<p>別の表の主キー列を参照する、表の列または列のセット。</p>
カスタム・ビュー	<p>ビジネスと戦略のデータのカスタマイズされたビューを表示できるようにするスコアカードのコンポーネント。「<i>Oracle Scorecard and Strategy Management</i>」も参照してください。</p>
仮想物理表	<p>ストアド・プロシージャまたはSELECT文から作成される物理表。仮想表を作成することによって、Oracle BIサーバーおよびベースとなるデータベースに、高度な問合せ要求の実行に適したメタデータが提供されます。</p>
カタログ	<p>「<i>Oracle BIプレゼンテーション・カタログ</i>」を参照してください。</p>
管理サーバー	<p>WebLogicサーバー・ドメインの一部で、Oracle Business Intelligenceコンポーネントを管理するプロセスを実行します。管理サーバーには、Oracle WebLogic Server管理コンソールおよびOracle Fusion Middleware Controlが含まれています。「<i>Fusion Middleware Control</i>」および「<i>管理対象サーバー</i>」も参照してください。</p>
管理対象サーバー	<p>個々のJ2EEアプリケーション・コンテナ(JMX MBeanコンテナ)。ローカル・ミドルウェア・ホーム内に含まれるJavaコンポーネントとシステム・コンポーネントに、個別のホストのローカル管理機能を提供し、構成とデプロイメントの全情報については管理サーバーを参照します。</p>

	「管理サーバー」および「Fusion Middleware Control」も参照してください。
キー・パフォーマンス・インディケータ(KPI)	特定のビジネス・ゴールと戦略目標を定義し、追跡する測定法。KPIをまとめること、モニター、改善および評価を必要とする、より大きな組織の戦略につながるものが多くあります。KPIは、通常時間とともに変わる測定可能な値で、スコアとパフォーマンス・ステータスを決定するためのターゲットを持ちます。詳細な分析を可能にするディメンションが含まれ、トレンド用およびパフォーマンス・パターンの特定のために経時的な比較を行えます。
	「Oracle Scorecard and Strategy Management」も参照してください。
基準	「分析基準」を参照してください。
キューブ	リレーショナル・データベースの構造よりデータの分析時間が短く、柔軟性が高いOLAP(オンライン分析処理)データ構造。キューブはメジャーで構成され、ディメンションで編成されます。マルチディメンショナル・データ・ソースのキューブは、リレーショナル・データベース・モデルのスター・スキーマにほぼ相当します。
駆動表	一方の表が非常に小さく(駆動表)、他方の表が非常に大きい場合にOracle BIサーバー・プロセスが複数データベース結合を処理する方法の最適化に使用されるメカニズム。
クラスター・コントローラ	プレゼンテーション・サービスや他のクライアントからの新規要求の最初の接点となるプロセス。クラスター・コントローラは、Oracle BIサーバーの可用性と負荷に基づいて、要求の振分け先のクラスター内のOracle BIサーバーを決定します。Oracle BIスケジューラ・インスタンスなどのクラスター内のサーバーの処理をモニターします。クラスター・コントローラは、アクティブ/パッシブ構成にデプロイされます。
グローバル・ヘッダー	Oracle BIプレゼンテーション・サービスのユーザー・インタフェース・オブジェクトで、ユーザーが速やかにタスクを開始したり、Oracle BIプレゼンテーション・カタログ内の特定のオブジェクトを検出できるリンクやオプションが含まれます。グローバル・ヘッダーはプレゼンテーション・サービスのユーザー・インタフェースに常に表示されるため、ユーザーはリンクに簡単にアクセスでき、ホーム・ページや「カタログ」ページに移動しなくてもカタログを検索できます。
結果	Oracle BIサーバーから返される、分析に対する出力。 「分析」も参照してください。
原因/結果マップ	目標の因果関係を示すスコアカードのコンポーネント。「Oracle Scorecard and Strategy Management」も参照してください。
権限	オブジェクトへのアクセスが可能なユーザーを指定し、ユーザーのオブジェクトとの対話方法を制限します。権限の例には、書込み、削除、変更などの権限があります。 「オブジェクト・プロパティ」を参照してください。
構造化問合せ言語(SQL)	データの問合せと変更のための標準的なプログラミング言語。Oracle Business Intelligenceでは、付加価値のある独自の拡張機能をいくつか持ったSQL-92標準がサポートされます。 「論理SQL」も参照してください。
コンテキスト・イベント・アクション	アクション・フレームワークを使用して、ビジネス・インテリジェンス・オブジェクトからADFページの別の領域にコンテンツを渡す事前配信済アクション。

「アクション」、「アクション・フレームワーク」および「アクション・リンク」も参照してください。

コンテンツ・デザイナー	分析、ダッシュボード、スコアカードなどのビジネス・インテリジェンス・オブジェクトを作成するユーザー。
サブジェクト・エリア	<p>特定のOracle BIリポジトリ内で、ビジネス・モデルに関するデータを編成したり、表示するプレゼンテーション・レイヤーのオブジェクト。プレゼンテーション・レイヤーの最上位レベルのオブジェクトで、プレゼンテーション・サービスでユーザーに表示されるデータのビューを表します。Oracle BIリポジトリのサブジェクト・エリアには、プレゼンテーション表、プレゼンテーション列およびプレゼンテーション階層が格納されます。</p> <p>プレゼンテーション・サービスでは、サブジェクト・エリアに、フォルダ、メジャー列、属性列、階層列およびレベルが含まれます。</p>
システム・コンポーネント	<p>Oracle Process Manager and Notification Server (OPMN)によって管理されるサーバー・プロセス(Javaアプリケーションではない)。</p> <p>「Oracle Process Manager and Notification Server (OPMN)」も参照してください。</p>
集計の永続性	集計表とこれに対応するOracle Business Intelligenceメタデータ・マッピングの作成とロードを自動化し、集計ナビゲーションを可能にする機能。
集計表	ディメンショナル属性のセットに対して集計される、あらかじめ計算されたメジャーからの結果を格納する表。集計表の各列には、特定のレベルのセットのデータが含まれます。たとえば、月間売上表には、各月の各店舗での各製品の収益の合計があらかじめ計算されて含まれます。集計表を使用すると、パフォーマンスが向上します。
集計ルール	<p>Oracle BIリポジトリの論理列または物理キューブ列に適用されるルールで、SUMなどの特定の集計関数を列データに適用するよう指定します。</p> <p>プレゼンテーション・サービスで、ユーザーは、リポジトリで適用されたルールを表示できます。ユーザーは、メジャー列に対するデフォルトの集計ルールを変更することもできます。</p>
主キー	各値が一意で、表の1行を識別する列(または列のセット)。
条件	<p>分析またはキー・パフォーマンス・インディケータ(KPI)の評価に基づいて1つのブール値を返すオブジェクト。条件を使用して、エージェントがコンテンツを配信してアクションを実行するかどうか、アクション・リンクをダッシュボード・ページに表示するかどうか、セクションとそのコンテンツをダッシュボード・ページに表示するかどうかが決まります。</p> <p>「アクション」、「アクション・リンク」、「エージェント」および「キー・パフォーマンス・インディケータ(KPI)」も参照してください。</p>
初期化ブロック	動的リポジトリ変数、システム・セッション変数、およびシステム以外のセッション変数の初期化に使用されます。初期化ブロックにはSQL文が含まれ、これを実行するとそのブロックに関連付けられた変数の初期化やリフレッシュが行われます。
スコアカード	「Oracle Scorecard and Strategy Management」を参照してください。

スター・スキーマ	履歴情報のディメンショナル分析を可能にするリレーショナル・スキーマ。スター・スキーマでは、論理ディメンション表と論理ファクト表の間に1対多関係があります。各スターは、1つのファクト表と正規化されていないディメンション表のセットで構成されます。
スノーフレーク・スキーマ	1つ以上のディメンションが部分的あるいは完全に正規化されたディメンショナル・スキーマ。
セッション変数	「変数」を参照してください。
接続プール	データ・ソースの接続情報を含む、Oracle BIリポジトリの物理レイヤーのオブジェクト。 「物理レイヤー」も参照してください。
選択ステップ	問合せの集計後に適用される値の選択。表示されているメンバーにのみ作用し、結果の集計値には作用しません。フィルタ同様、選択ステップは分析の結果を限定します。 「分析」および「フィルタ」も参照してください。
戦略ツリー	目標とこれをサポートする子目標およびKPIがツリー図に階層状に表示されるスコアカードのコンポーネント。 「Oracle Scorecard and Strategy Management」も参照してください。
戦略マップ	スコアカードに定義された目標と目標の進捗を測定するKPIをパースペクティブによってどのように関係付けるかを示すスコアカードのコンポーネント。因果関係も示されます。 「Oracle Scorecard and Strategy Management」も参照してください。
属性	Oracle BIリポジトリでのディメンションの詳細。属性は、通常、ディメンション表の列として表示されます。
属性列	プレゼンテーション・サービスで、メンバーとも呼ばれる値のフラット・リストを保持する列。これらのメンバー間に、階層列のメンバーのような階層関係はありません。製品IDや市などがこの例です。「階層列」を参照してください。
ダッシュボード	企業や外部情報のパーソナライズされたビューを提供するオブジェクト。ダッシュボードは、1つ以上のページで構成されます。ページには、分析の結果、イメージ、エージェントからのアラートなどのWebブラウザでアクセスしたり開くことのできる任意のオブジェクトを表示できます。
ダッシュボード・プロンプト	ダッシュボードに追加されたプロンプト。ユーザーがプロンプト値を選択すると、ダッシュボードに含まれているすべての分析の表示内容がその値によって決まります。「分析プロンプト」および「プロンプト」を参照してください。
ダッシュボードURL	外部ポータルまたはアプリケーションでの特定のダッシュボードのコンテンツの組み込みや参照に使用されます。様々な形式と、動作の制御に使用されるオプションの引数があります。
断片化の内容	指定されたレベルのデータのセット全体が論理表ソースに含まれていない場合の論理表ソース内の指定されたデータのセットの一部。断片化の内容は、「論理表ソース」ダイアログ・ボックスの「内容」タブにある「断片化の内容」ボックスに入力した論理列によって定義されます。
通貨プロンプト	分析またはダッシュボードの通貨列に表示される通貨タイプをユーザーが変更できるようにするプロンプト。「プロンプト」も参照してください。

ディメンション	<p>論理列(属性)の階層状の編成。1つ以上の論理ディメンション表が最大1つのディメンションに関連付けられます。</p> <p>ディメンションには、1つ以上の(名前なし)階層が含まれます。論理ディメンションには、レベル・ベースの階層(構造階層)を持つディメンションと親子階層(値階層)を持つディメンションの2種類があります。</p> <p>時間ディメンションと呼ばれる特定のタイプのレベル・ベースのディメンションは、時系列データをモデリングするための特別な機能を提供します。</p> <p><i>「階層」も参照してください。</i></p>
ディメンション表	<p>特定のディメンションで使用される列を含む論理表。ディメンション表をファクト表にすることはできません。<i>「ファクト表」も参照してください。</i></p>
データ・ソース名(DSN)	<p>特定のデータベースに関する情報を含むデータ構造。通常、ODBCドライバによってデータベースへの接続に使用されます。DSNには、名前、ディレクトリ、データベースのドライバなどの情報が含まれます。</p> <p>Oracle BIリポジトリの物理レイヤーの接続プール・オブジェクトには、各データ・ソースのDSN情報が含まれています。</p>
データベース・ヒント	<p>SQL文内に配置され、最も効率的に文を実行する方法をデータベース問合せ最適化に指定する指示。ヒントは最適化の実行計画をオーバーライドするため、ヒントを使用して最適化により効率的な計画を使用させ、パフォーマンスを向上させることができます。ヒントは、Oracle Databaseデータ・ソースでのみサポートされます。</p>
問合せ	<p>Oracle BIサーバーに発行される、ベースとなるSQL文が含まれていません。Oracle Business Intelligenceの使用に問合せ言語の知識は必要ありません。</p>
問合せキャッシュ	<p>他の問合せで使用できるように問合せの結果を格納する機能。</p>
時系列キー	<p>ディメンション・レベル内のメンバーの時系列を示す時間ディメンションの列。キーは、そのレベルで一意である必要があります。</p>
ノード・マネージャ	<p>Javaプロセスが応答しなくなったり、予期せず終了した場合にリモート・サーバーの起動、停止および再起動の機能を提供するデーモン・プロセス。</p> <p><i>「Javaコンポーネント」も参照してください。</i></p>
パースペクティブ	<p>スコアカードでイニシアティブ、目標およびKPIに関連付ける組織内のカテゴリ。パースペクティブにより、主要な利害関係者(顧客、従業員、株主、金融関係者など)またはキー・コンピテンシ領域(時間、コスト、品質など)を示すことができます。</p> <p><i>「イニシアティブ」、「キー・パフォーマンス・インディケータ(KPI)」、「目標」および「Oracle Scorecard and Strategy Management」も参照してください。</i></p>
パススルー計算	<p>Oracle BIサーバーによって計算されるのではなく、別のデータ・ソースに渡される計算。上級ユーザーが、Oracle BIリポジトリを変更することなく、データ・ソースの機能と関数を活用できるようにします。</p>
ビジネス所有者	<p>ビジネス価値、およびKPIやスコアカード・オブジェクト(目標、原因/結果マップなど)のパフォーマンスの管理と向上の責任を負うユーザー。</p>

ビジネス・モデル	ビジネス・モデル定義と、論理表から物理表へのマッピングが含まれます。ビジネス・モデルは、物理レイヤーのオブジェクトと異なり、常にディメンション化され、データ・ソースの編成が反映されます。各ビジネス・モデルには、論理表、列および結合が含まれます。
ビジネス・モデルとマッピング・レイヤー	データのビジネス・モデルまたは論理モデルを定義し、ビジネス・モデルと物理レイヤー・スキームとの間のマッピングを指定するOracle BIリポジトリのレイヤー。このレイヤーには、1つ以上のビジネス・モデルが含まれます。 ビジネス・モデルとマッピング・レイヤーによって、ユーザーに表示される分析動作が決まり、ユーザーが使用できるオブジェクトのスーパーセットが定義されます。ソース・データ・モデルの複雑さも隠します。
ビジョン・ステートメント	組織が将来的にどうありたいかを表した、スコアカード内の簡潔なステートメントです。たとえば、南米ポリプロピレン市場で最も成功した企業になるなどです。 <i>「ミッション・ステートメント」および「Oracle Scorecard and Strategy Management」も参照してください。</i>
非バランス型階層	リーフの深さが一様でない階層。たとえば、現在の月では日レベルのデータを格納し、前月では月レベルで格納して、過去5年間のデータは四半期レベルで格納するような選択が可能です。 <i>「階層」も参照してください。</i>
ファクト表	メジャーを含み、ディメンション表と複雑な結合関係にある、Oracle BIリポジトリ内のビジネス・モデルとマッピング・レイヤーの論理表。 <i>「ディメンション表」も参照してください。</i>
フィルタ	分析の実行時に表示される結果を限定する、属性列とメジャー列に適用される基準。メジャー列の場合、フィルタは問合せの集計前に適用され、問合せと結果の値に作用します。 <i>「プロンプト」および「選択ステップ」も参照してください。</i>
不規則な階層	<i>「非バランス型階層」を参照してください。</i>
複合結合	等号以外の式を使用する、Oracle BIリポジトリの物理レイヤーでの結合。
複数データベース結合	Oracle BIリポジトリ内の2つの表の結合。各表は異なるデータベース内にあります。
ブックマーク・リンク	ダッシュボード・ページへのパスとページの状態のあらゆる側面を取り込みます。 <i>「プロンプト・リンク」を参照してください。</i>
物理カタログ	リポジトリの物理レイヤーにある、異なるスキーマをまとめるオブジェクト。カタログには、データベース・オブジェクトのすべてのスキーマ(メタデータ)が含まれます。
物理結合	Oracle BIリポジトリの物理レイヤーの表同士の結合。
物理スキーマ	バックエンド・データベースからのスキーマを表すOracle BIリポジトリの物理レイヤーのオブジェクト。
物理表	Oracle BIリポジトリの物理レイヤーのオブジェクトで、通常、物理データベースに存在する表に相当します。

「物理レイヤー」も参照してください。

物理表示フォルダ	Oracle BIリポジトリの物理レイヤーにオブジェクトを編成するフォルダ。メタデータ上の意味はありません。
物理レイヤー	バックエンド・データ・ソースからの物理データ構成体を表すオブジェクトを含むOracle BIリポジトリのレイヤー。物理レイヤーは、物理問合せの記述に使用できるオブジェクトと関係を定義します。このレイヤーによってソースの依存性がカプセル化され、移植とフェデレーションが可能になります。
不透明なビュー	SELECT文を構成する物理レイヤー表。Oracle BIリポジトリでは、不透明なビューは、物理データベース内のビュー表のように見えますが、ビューは実際に存在しません。
ブリーフィング・ブック	「Oracle BIブリーフィング・ブック」を参照してください。
ブリッジ表	2つの表の間の多対多関係を解決する表。
プレゼンテーション階層	<p>プレゼンテーション・サービスやその他のクライアントでマルチディメンショナル・モデルを公開する明示的な方法を提供するOracle BIリポジトリのプレゼンテーション・レイヤーのオブジェクト。プレゼンテーション階層は、メンバーの選択、カスタム・メンバー・グループ、非対称型問合せなどの分析機能を公開します。ユーザーは、プレゼンテーション階層を使用して階層ベースの問合せを作成できます。</p> <p>プレゼンテーション・サービスで、プレゼンテーション階層は階層列として表示されます。</p> <p>「階層列」および「プレゼンテーション・レベル」も参照してください。</p>
プレゼンテーション・サービス	「Oracle BIプレゼンテーション・サービス」を参照してください。
プレゼンテーション・サービス・サーバー	「Oracle BIプレゼンテーション・サービス・サーバー」を参照してください。
プレゼンテーション表	ユーザー・コミュニティにとって意味のあるカテゴリへの列の編成に使用されるOracle BIリポジトリのプレゼンテーション・レイヤーのオブジェクト。プレゼンテーション表には、1つ以上の論理表から列を含めることができます。プレゼンテーション表の名前とオブジェクト・プロパティは論理表のプロパティとは無関係です。
プレゼンテーション・レイヤー	<p>カスタマイズされたセキュアな役割ベースのビジネス・モデルのビューをユーザーに表示する手段を提供します。Oracle BIリポジトリのビジネス・モデルとマッピング・レイヤーに抽象性のレベルを加えます。プレゼンテーション・レイヤーは、プレゼンテーション・サービスやその他のクライアント・ツール、アプリケーションで分析を作成したユーザーに表示されるデータのビューを提供します。</p> <p>「ビジネス・モデルおよびマッピング・レイヤー」も参照してください。</p>
プレゼンテーション・レベル	<p>ロールアップしたり、他のレベルからロールアップされる、Oracle BIリポジトリ内のプレゼンテーション階層のコンポーネント。プレゼンテーション・レベルは、プレゼンテーション・サービスで階層列内のレベルとして表示されます。</p> <p>「階層レベル」および「プレゼンテーション階層」も参照してください。</p>
プロセス・インスタンス	BIインスタンスに関連付けられている、個々のワークステーション上の一意のプロセス。

	「BIインスタンス」も参照してください。
プロンプト	<p>フィルタの一種で、コンテンツ・デザイナーによるデータ値の作成および指定、およびエンド・ユーザーによる特定のデータ値の選択から、ダッシュボードやダッシュボード・ページに組み込まれた個別または複数の分析に結果セットを提供できるようにします。プロンプトによって既存のダッシュボードおよび分析のフィルタの拡張や改良が行われます。</p> <p>プロンプトのタイプには、列プロンプト、通貨プロンプト、イメージ・プロンプトおよび変数プロンプトがあります。</p> <p>「列プロンプト」、「通貨プロンプト」、「フィルタ」、「イメージ・プロンプト」および「変数プロンプト」も参照してください。</p>
プロンプト・リンク	<p>ダッシュボード・ページへのパスとダッシュボード・プロンプトの単純化されたプレゼンテーションを取り込みます。</p> <p>ブックマーク・リンクを参照してください。</p>
分析	<p>ユーザーがプレゼンテーション・サービスの「基準」タブで作成する問合せ。分析には、オプションでフィルタまたは選択ステップを1つ以上含め、結果を限定することができます。「フィルタ」および「選択ステップ」も参照してください。</p>
分析基準	<p>分析に指定された列、フィルタおよび選択ステップで構成されます。「分析」も参照してください。</p>
分析プロンプト	<p>分析に追加されたプロンプト。ユーザーがプロンプト値を選択すると、そのプロンプトを含む分析にかぎり、その値によって表示される内容が決まります。「ダッシュボード・プロンプト」および「プロンプト」を参照してください。</p>
別名表	<p>別の物理表をソースとして参照する物理表。1つの物理表に様々な役割を設定する必要がある場合に、別名表を使用すると、表ごとにキー、名前および結合を変えて複数の表を設定できます。別名表の名前は物理SQL問合せで使用されるため、別名表を使用して意味のある表名にし、SQL文を読みやすくすることもできます。</p>
変換	<p>データベースから他の場所(他のデータベースの場合もある)に移動する際にデータに行われる処理。一部の変換は、通常、トランザクション・システムからデータウェアハウス・システムへの移動時にデータに対して行われます。</p>
変数	<p>管理タスクを効率化したり、変化するデータ環境に合わせてメタデータの内容を動的に変更するために使用されるOracle BIリポジトリ内のオブジェクト。</p> <p>変数は次のいずれかのタイプです:</p> <p>リポジトリ変数には2種類ありますが、任意の時点の1つの値を持ちます。リポジトリ変数は、静的および動的です。セッション変数は、各ユーザーのログイン時に作成され、値が割り当てられます。セッション変数には、システムとシステム以外の2種類があります。</p>
変数プロンプト	<p>ダッシュボードに表示する値を、ユーザーが変数プロンプトで指定された値から選択できます。変数プロンプトは列データに依存するのではなく、ユーザーが分析の列データを操作(加算や乗算など)できるようにします。</p> <p>「プロンプト」も参照してください。</p>

ホーム・ページ	直観的で、タスク・ベースの方法でプレゼンテーション・サービスの機能を開始します。ホーム・ページはセクションに分かれており、各セクションでは、特定のタスクを素早く開始したり、オブジェクトを検索したり、テクニカル・ドキュメントにアクセスできます。
ミッション・ステートメント	ビジョンを達成するために必要な主要なビジネス・ゴールと優先度を指定したスコアカード内のステートメント。 「Oracle Scorecard and Strategy Management」および「ビジョン・ステートメント」も参照してください。
メジャー列	レコードごとに変化し、合計および集計が可能な列。売上金額や注文数量はメジャーの代表例です。メジャーは、問合せ時にデータ・ソースから計算されます。 メジャー列は、Oracle BIリポジトリ(通常はファクト表)またはプレゼンテーション・サービスで表示されます。
メタデータ	データに関するデータ。メタデータ・オブジェクトには、スキーマの説明(表、列、データ型、主キー、外部キーなど)と論理構造(ファクト表、ディメンション、論理表ソース・マッピングなど)が含まれます。 Oracle BIリポジトリは、Oracle BIサーバーによって問合せの処理に使用されるメタデータで構成されます。
メタデータ・ディクショナリ	列などのメタデータ・オブジェクトについて、そのプロパティや他のメタデータ・オブジェクトとの関係などが記述された静的なXMLドキュメントのセット。メタデータ・ディクショナリは、ユーザーがリポジトリ・オブジェクトのメトリックや属性についての詳細情報を得るのに役立ちます。
目標	企業の戦略をまとめたスコアカード内の要求される成果または望ましい結果。 「イニシアティブ」および「Oracle Scorecard and Strategy Management」も参照してください。
リポジトリ	「Oracle BIリポジトリ」を参照してください。
リポジトリ変数	「変数」を参照してください。
列	Oracle BIリポジトリでは、列は、物理列、論理列またはプレゼンテーション列です。 プレゼンテーション・サービスでは、分析によって返される個々のデータが示されます。列、およびフィルタや選択ステップによって分析に含まれるデータが決まります。列には、格納される情報のタイプ(アカウント、連絡先など)を示す名前も付けられています。 「分析」、「属性列」、「階層列」および「メジャー列」も参照してください。
列フィルタ	「フィルタ」を参照してください。
列プロンプト	フィルタのタイプの1つで、特定の値プロンプトをデータ列に作成できるようにします。ダッシュボードまたは分析に単体として存在させることも、既存のダッシュボードおよび分析フィルタの拡張または改良に使用することもできます。「プロンプト」も参照してください。
レベル	「階層レベル」を参照してください。

レベル・スキップ階層	<p>一部のメンバーが特定の祖先レベルの値を持たない階層。たとえば、米国で、コロンビア特別区のワシントン市は州に属していません。州がなくても、国レベル(米国)からワシントン以下にユーザーが移動できることが期待されます。</p> <p>「階層」も参照してください。</p>
レポート	<p>問合せの実行からユーザーに返される、Oracle BI Publisherを使用して作成されるレスポンス。レポートは、書式設定、ダッシュボード・ページでの表示、Oracle BIプレゼンテーション・カタログでの保存および他のユーザーとの共有が可能です。</p> <p>「分析」も参照してください。</p>
論理結合	<p>論理表間の関係を表す結合。論理結合は、物理的な結合ではなく概念上の結合です。つまり、特定のキーまたは列を結合しません。1つの論理結合が、多数の物理結合に相当することがあります。</p>
論理表	<p>Oracle BIリポジトリのビジネス・モデルとマッピング・レイヤーの表オブジェクト。1つの論理表は、1つ以上の物理表にマップできます。論理表は、ファクト表またはディメンション表のいずれでもかまいません。</p> <p>「ディメンション表」および「ファクト表」も参照してください。</p>
論理表示フォルダ	<p>ビジネス・モデルとマッピング・レイヤーでのオブジェクトの編成に使用されるフォルダ。メタデータ上の意味はありません。</p>
論理表ソース	<p>Oracle BIリポジトリのビジネス・モデルとマッピング・レイヤーのオブジェクトで、1つの論理表から1つ以上の物理表へのマッピングを定義します。また、物理レイヤーと、ビジネス・モデルおよびマッピング・レイヤーとの間で発生する変換の指定、および集計ナビゲーションと断片化の実現にも物理から論理へのマッピングを使用できます。</p>
論理レイヤー	<p>「ビジネス・モデルおよびマッピング・レイヤー」を参照してください。</p>
論理レベル	<p>ロールアップしたり、他のレベルからロールアップされる、Oracle BIリポジトリ内のレベル・ベースの階層のコンポーネント。</p> <p>親子階層では、祖先と子孫の間にメタデータの論理レベル・オブジェクトとして表されない、暗黙的なメンバー間のレベルがあります。親子階層には論理レベル・オブジェクトも含まれますが、それらのレベルはシステムで生成されたもので、全メンバーの集計を可能にするためにのみ存在します。</p> <p>「ディメンション」および「階層」も参照してください。</p>
論理SQL	<p>Oracle BIサーバーによって解釈されるSQL文。Oracle BIサーバーの論理SQLには、標準のSQLとAGO、TODATE、EVALUATEなどの特別な関数(拡張SQL)が含まれます。</p> <p>ユーザーが要求を行うと、プレゼンテーション・サービスなどのクライアントは、論理SQLをOracle BIサーバーに送信します。また、論理SQLはビジネス・モデルとマッピング・レイヤーで使用され、異機種データベース・アクセスと移植を可能にします。Oracle BIサーバーは、論理SQLを、ソース・データベースで解釈可能な物理SQLに変換します。</p>
ADFビジネス・インテリジェンス・コンポーネント	<p>Oracle Business Intelligenceのプレゼンテーション・カタログ・オブジェクトをADFアプリケーションに組み込む機能を開発者に提供します。このコンポーネン</p>

トでは、Oracle BIプレゼンテーション・カタログへのアクセスにSOAP接続が使用されます。

BIインスタンス	BIドメインのシステム・コンポーネント(コアアプリケーション)のことです。/ <i>BIドメイン</i> /も参照してください。
BIオブジェクト	プレゼンテーション・サービスを使用して作成され、Oracle BIプレゼンテーション・カタログに保存される各ビジネス・インテリジェンス・コンテンツ。BIオブジェクトの例には、分析、ダッシュボード・ページ、スコアカード、KPIなどがあります。
BI検索	プレゼンテーション・サービス外にある検索ツール。管理者がBI検索のURLへのリンクを追加していると、ホーム・ページからBI検索を使用できます。BI検索には、Oracle BIプレゼンテーション・カタログ内のオブジェクトを検索するための全文検索エンジンに似たメカニズムが用意されています。
BIドメイン	構成可能なシステム・コンポーネント(コア・アプリケーション)とJavaコンポーネント(WebLogicドメイン)が含まれ、Webベースの管理ツールとリソースを利用するアプリケーションも含まれます。 BIドメインは、1つ以上の物理サーバーにまたがるミドルウェア・ホームのセットの場合もあります。「BIインスタンス」も参照してください。
DSN	/ <i>データ・ソース名(DSN)</i> /を参照してください。
Essbase	Oracleから使用できるマルチディメンショナル・データベース管理システムで、ビジネス・インテリジェンス・アプリケーションを構築するベースとなるマルチディメンショナル・データベース・プラットフォームを提供します。Oracle Hyperion Essbaseとも呼ばれます。
Fusion Middleware Control	Fusion Middlewareコンポーネントのモニターと構成を行えるWebベースの管理ツール。
Go URL	特定のビジネス・インテリジェンスの結果を外部ポータルやアプリケーションに組み込みます。Go URLは、結果をお気に入りに追加したり、ダッシュボードや外部Webサイトへの要求にリンクを追加する場合に使用されます。様々な形式と、動作の制御に使用されるオプションの引数があります。
Java components	1つ以上のJava EEアプリケーション(およびリソースのセット)としてデプロイされ、ノード・マネージャによって管理されるFusion Middleware Controlコンポーネント。 / <i>ノード・マネージャ</i> /も参照してください。
KPI監視リスト	KPIをエンド・ユーザーに配布する方法。監視リストはKPIを集めたもので、カタログに格納されているKPIを追加して作成します。KPI監視リストを作成して保存すると、カタログ・オブジェクトとして格納され、ダッシュボードやスコアカードに追加できます。 / <i>キー・パフォーマンス・インディケータ(KPI)</i> /も参照してください。
OCI	/ <i>Oracle Call Interface (OCI)</i> /を参照してください。
ODBC	/ <i>Open Database Connectivity (ODBC)</i> /を参照してください。
Open Database Connectivity(ODBC)	リレーショナル・データベースとリレーショナル以外のデータベースの両方のデータのアクセスに使用される標準インタフェース。データベースごとに使用されるデータ格納形式やプログラミング・インタフェースが異なる場合も、データベース・アプリケーションではODBCを使用して、各タイプのデータベース管理システムに格納されているデータにアクセスできます。

OPMN	<i>「Oracle Process Manager and Notification Server (OPMN)」を参照してください。</i>
Oracle BI JavaHost	Javaライブラリに用意されている、グラフなどのコンポーネントをサポートするための機能をプレゼンテーション・サービスが使用できるようにするサービス。サービスは、要求/応答モデルに基づいて提供されます。Oracle BI論理SQLビュー・オブジェクト
Oracle BI Publisher	Oracle Business Intelligence内のJ2EEアプリケーションで、エンタープライズ全体の公開サービスを提供します。高度に書式設定された、ピクセル対応レポートを生成します。 <i>「レポート」も参照してください。</i>
Oracle BI Publisherレポート	<i>「レポート」を参照してください。</i>
Oracle BI管理ツール	Oracle BIリポジトリの作成や編集に使用されるWindowsアプリケーション。管理ツールでは、リポジトリの3つの部分(物理レイヤー、ビジネス・モデルとマッピング・レイヤー、およびプレゼンテーション・レイヤー)がグラフィック表示されます。
Oracle BIサーバー	ODBCを介してプレゼンテーション・サービスや他のクライアントに提供する論理データ・モデルを保持するスタンドアロン・プロセス。データ・モデルに関するメタデータは、リポジトリ・ファイルと呼ばれるローカルの専用ファイルに保持されます。Oracle BIサーバーは、ユーザーの要求やベースとなるデータ・ソースの問合せを処理します。
Oracle BIサーバーXML API	Oracle BIリポジトリ・メタデータの汎用的なXMLベースのプレゼンテーションを作成するユーティリティを提供します。このXMLファイル版のリポジトリは、プログラムによるメタデータの変更に使用できます。Oracle BIサーバーXML APIオブジェクトは、RPDファイル内のメタデータ・リポジトリ・オブジェクトに相当します。これらのオブジェクトは、Oracle BIプレゼンテーション・カタログ内のXMLオブジェクトとは異なります。
Oracle BIスケジューラ	指定された時間に結果をユーザーに配信するようスケジュールするための拡張可能なスケジューリング・アプリケーション。Oracle BIデリバーの機能をサポートするエンジンです。 <i>「結果」も参照してください。</i>
Oracle BIブリーフィング・ブック	ダッシュボード・ページ、個々の分析およびBI Publisherレポートの静的または更新可能なスナップショットの集まり。ブリーフィング・ブックをPDFまたはMHTML形式でダウンロードし、印刷または表示できます。エージェントを使用して、ブリーフィング・ブックの更新、スケジュールおよび配信を行うこともできます。
Oracle BIプレゼンテーション・カタログ	分析やダッシュボードなどのビジネス・インテリジェンス・オブジェクトを格納し、ユーザーが、オブジェクトの作成、アクセスおよび管理を行ったり、オブジェクト・ベースの特定のタスク(エクスポート、印刷、編集など)を行うインタフェースを提供します。このカタログは、共有または個人のフォルダに編成されます。
Oracle BIプレゼンテーション・サービス	Webクライアントへのビジネス・インテリジェンス・データのプレゼンテーションに使用されるフレームワークとインタフェースを提供します。このプレゼンテーション・フレームワークのカスタマイズに使用されるプレゼンテーション・カタログ・サービスをファイル・システム上で管理します。このスタンドアロン・プロセスは、ODBC over TCP/IPを使用してOracle BIサーバーと通信します。アンサー、デリバーおよびインタラクティブ・ダッシュボードと呼ばれるコンポーネントで構成されます。 <i>「ODBC」; 「Oracle BIサーバー」; 「Oracle BIプレゼンテーション・カタログ」; 「Oracle BIプレゼンテーション・サービス・サーバー」も参照してください。</i>

Oracle BIプレゼンテーション・サービス・サーバー	情報およびデータをOracle BIサーバーと交換するOracle BI Webサーバー。
Oracle BIリポジトリ	Oracle Business Intelligenceメタデータを格納するファイル。メタデータは、論理スキーマ、物理スキーマ、物理から論理へのマッピング、集計表ナビゲーションやその他の構成体を定義します。リポジトリ・ファイルには、.rpdという拡張子が付きます。Oracle BIリポジトリは、Oracle BI管理ツールを使用して編集できます。 <i>「メタデータ」および「Oracle BI管理ツール」も参照してください。</i>
Oracle BI論理SQLビュー・オブジェクト	開発者が、Oracle BIサーバーにアクセスしてビジネス・インテリジェンス・データをフェッチし、ネイティブADFコンポーネントにバインドしてADFページに含める論理SQL文を作成できるようにします。このビュー・オブジェクトは、BI JDBC接続を使用してOracle BIサーバーに接続します。
Oracle Business Intelligence SOA用Webサービス	BIミドルウェアJ2EEアプリケーションによってホストされる、ExecuteAgent、ExecuteAnalysisおよびExecuteConditionの3つのWebサービスを含みます。これらのWebサービスは、開発者がサード・パーティWebサービス・クライアント(Oracle SOA Suiteなど)を使用して、ビジネス・インテリジェンス・オブジェクトを検索したり、サービス指向アーキテクチャ・コンポーネントに含めたりすることを可能にするよう設計されています。 <i>「Oracle Business IntelligenceセッションベースWebサービス」も参照してください。</i>
Oracle Business Intelligence Webサービス	<i>「Oracle Business IntelligenceセッションベースWebサービス」および「Oracle Business Intelligence SOA用Webサービス」を参照してください。</i>
Oracle Business IntelligenceセッションベースWebサービス	SOAPを実装するAPI。これらのWebサービスはプログラムでの使用を目的として設計されており、開発者は、1つのWebサービスから多様なビジネス・インテリジェンス・オブジェクトを起動します。これらのWebサービスは、様々なプレゼンテーション・サービス処理に対する機能を提供します。これらのWebサービスによって、開発者は、Oracle BIプレゼンテーション・サービスから結果を抽出して外部アプリケーションに配信したり、プレゼンテーション・サービス管理機能を実行したり、Oracle Business Intelligenceアラート(インテリジェント・エージェントとも呼ばれる)を実行できます。 <i>「Oracle Business Intelligence SOA用Webサービス」も参照してください。</i>
Oracle Call Interface (OCI)	Oracle Databaseデータ・ソースへの接続にOracle BIサーバーが使用する接続インタフェース。Oracle DatabaseからのメタデータのインポートやOracle Databaseへの接続には常にOCIを使用する必要があります。
Oracle Process Manager and Notification Server (OPMN)	すべてのシステム・コンポーネント(サーバー・プロセス)を管理し、ローカルと分散の両方のプロセス管理、自動プロセス・リサイクリングおよびプロセスの状態(稼働、停止、起動中、停止中)の伝達をサポートするプロセス管理ツール。OPMNは、プロセスの使用不可の状態を検知し、プロセスを自動的に再起動します。 <i>「システム・コンポーネント」も参照してください。</i>
Oracle Scorecard and Strategy Management	ビジネス戦略を表明して伝達することができる業績管理ツール。企業の戦略や業績をトップ・ダウンまたはボトム・アップで推進したり評価できます。
Oracle Technology Network (OTN)	オラクル社製品に関する技術情報のリポジトリで、記事の検索、ディスカッションへの参加、ユーザー・コミュニティへの技術的な質問およびオラクル社製品とドキュメントの検索とダウンロードを行えます。
SQL	<i>「構造化問合せ言語(SQL)」を参照してください。</i>

WebLogic Scripting Tool (WLST)

WebLogic Serverインスタンスとドメインの構成、管理および変更の保持と、サーバーの実行時のイベントのモニターおよび管理を可能にするコマンドライン・スクリプティング・インタフェース。

WebLogicドメイン

SOAP、HTTPおよびその他の形式の要求のサービスに加わるよう構成されたJavaコンポーネントが含まれます。

XML API

「Oracle BIサーバーXML API」を参照してください。

